

現諸罰則禁令目次

附曆

出版條例

新聞條例

寫真條例

讒謗律

集會條例

銃炮取締規則

鳥獸獵規則

傳染病豫防規則

檢疫停船規則

賣藥規則

藥品取扱規則

藥用阿片賣買並製造規則

煙草稅則

酒類稅則

醫藥營業稅則

牛馬賣買規則

車稅規則

度量衡改定規則

郵便犯罪罰則

電信條例

鐵道罰則

日本抗法

不開港場取締規則

商船規則

船稅規則

鯨魚船並海川小廻船等船稅規則

海上衝突豫防規則

西洋形船長運轉手機關手試驗規則

西洋形船海員雇入雇止規則

西洋形船水先免狀規則

外國船乘込規則

生害物品船積規則
 西洋形日本船各開港場出入規則
 外國形日本船輸出入稅未納內外貨物回漕規則
 北海道諸產物出港稅則並各船改所規則
 內國船難破漂流物取扱規則
 國立銀行條例
 株式取引所條例
 米商會所條例
 新舊公債證書發行條例
 改正金札引換公債證書發行條例
 金藏公債證書發行條例
 旭業公債證書發行條例
 鑄造金銀銅貨紙幣等取扱規則
 遺失物取扱規則
 地所規則
 證券印稅規則

訴訟用紙規則
 代言人規則
 外國人犯則
 賣淫罰則
 懲戒例
 華族懲戒例
 官吏懲戒例
 巡查懲罰例
 雜則
 禁刀
 人身賣買禁
 徽章
 富興行
 復讐
 養茶
 官吏商業

皇城接近商店
廻國修行托鉢
葬儀
玉占口寄
神佛開扉
印章
金銀分析
銘紙贗造
通貨銘解毀傷
官費留學生被雇
役威調金
橋錢
運送業
華士族合家
府縣條規
府縣廳呼出

裁判所呼出
罰金處斷
附錄
賣藥規則
海上衝突豫防規則
株式取引條例
米商會所條例
遺失物取扱規則
代言人規則
雜則ノ内
官吏商業

現諸罰則禁令

○出版條例

(明治八年九月三日第百三拾五號布告)

明治五年^正月 文部省布達出版條例相廢シ更ニ別冊ノ通相定候條此旨布告候事

出版條例

第一條 圖書ヲ著作シ又ハ外國ノ圖書ヲ翻譯シテ出版セントスル者ハ出版ノ前ニ內務省ヘ届ケ出ヘシ

但シ社則塾則引札ノ類印刷シテ發賣セサル者ハ此例ニアラス

第二條 圖書ヲ著作シ又ハ外國ノ圖書ヲ翻譯シテ出版スル者ハ三十年間專賣ノ權ヲ與フヘシ此ノ專賣ノ權ヲ板權ト云フ

但シ板權ハ願フト願ハサルトハ本人ノ隨意トス故ニ板權ヲ願フ者ハ願書ヲ差出シ免許ヲ請フヘシ其願ハサル者ハ各人一般ニ出版スルヲ許ス

第三條 出版届版權願トモ草稿ヲ添ルコ及ハスト雖モ時トシテハ草稿ヲ徵シ檢査スルヲアルヘシ

第四條 草稿又ハ納本ヲ檢査シテ世治ニ害アル者ト認ムル者ハ其出版又ハ販賣ヲ禁シ或ハ刻版ヲ毀クシムルヲアルヘシ

第五條 出版屆版權願トモ其所在ノ地方廳本籍又ハ寄テ經由スヘシ

但シ著譯者出版人其管轄ヲ異ニスル者ハ出版人所在ノ地方廳ヲ經由スヘシ

第六條 圖書ノ特ニ世ニ鴻益アル者ハ版權ノ年限終ルノ後仍ホ十五年ノ延期ヲ許スヘシ

第七條 版權免許ノ爲ニ其年限ヲ記セル証書ヲ附與スヘシ年限終ルノ後ハ各人一般ニ出版スルヲ許ス

第八條 著譯書大部ニシテ卒業數年ニ涉リ編テ逐ヒ漸次出版スル者ハ每次ニ版權ヲ與ヘ年限ヲ起算スヘシ

第九條 他人ノ著譯書己ニ版權ヲ有スルモノヲ續成セント欲スル者ハ原主ニ示談ノ上連印ノ願書ヲ出スヘシ其原主死去セル時ハ相續人ヲ以テ原主ト見做スヘシ

第十條 他人ノ著譯書版權ヲ有スルモノヲ校訂シ或ハ節略シ或ハ註解附録繪圖等ヲ加ヘテ出版スル者モ亦原主ノ承諾ヲ得サルヘカラス其出願ノ手續ハ前條ニ依ルヘシ

第十一條 既ニ版權ヲ有スル自己ノ著譯書ヲ校訂シ或ハ節略シ或ハ註解附録繪圖等ヲ加ヘテ出版スルモ更ニ願ヒ出ルコト非シハ版權ヲ得ヘカラス其製本ノ式ヲ改メ若シハ冊數ヲ分合シテ改版スルコト止リ若シハ舊式ニ依テ再刻スル者ハ版權ヲ存ス

但シ屆書ヲ出シ製本ヲ納ムルハ各本條ニ依ルヘシ

第十二條 著譯者死後ニ至リ其相續人遺稿ヲ出版スルヲ得其版權ヲ願フモハ之ヲ與フヘシ

第十三條 版權年限未タ終ラサルノ間ハ版主ノ相續人ニ傳フヘシ

但シ版權讓受ノ由ヲ相續人ヨリ内務省ヘ届ケ出ヘシ

第十四條 他人ノ著譯書ヲ出版スル者ハ必ス著譯者ノ承諾ヲ得ヘシ其版權願書若クハ出版屆書ニハ必ス著譯者ト連印スヘシ

第十五條 版權ヲ得タル者ハ他人其條章ヲ剽竊スルヲ許サス

但シ論辨若シハ証明スルヲメニ引用スル者ハ此例ニアラス

第十六條 同時若シハ前後ニ偶然同様ノ圖書ヲ著譯シ版權ヲ願フ者二人以上アルモ共ニ版權ヲ與フヘシ其事情明白ナラサル者ハ事由ヲ檢査シテ後チ之ヲ許シ或ハ許サ

ルヘシ

第十七條 外國ノ圖書既ニ甲者ノ成譯アリトイヘモ乙者又之ヲ譯シ甲者ノ誤謬ヲ正シ又ハ闕漏ヲ補ヒ及ヒ其文意ヲシテ一層明瞭ナラシムルノ確證アルモノ版權ヲ願ヒ出ル時ハ檢査シテ後チ之ヲ許シ或ハ許サ、ルヘシ

第十八條 著譯ノ圖書同名ノ者アリト雖モ文理不同ナルニ於テハ妨ケナシトス

但表題ノ上ニ何某ト記載スヘシ

第十九條 出版ノ圖書ハ内務省ニ於テ目錄ヲ作り時々公布スヘシ

第二十條 圖書刻成ノ上ハ製本三部ヲ内務省ヘ納ムヘシ其版權ヲ得ル者ハ外ニ免許料トシテ製本六部ノ定價ヲ納ムヘシ

納本セズ及免許料ヲ出サ、ル前ハ發賣ヲ許サズ

但シ出版ノ上毎部定價ノ印ヲ押スヘシ

第二十一條 出版ノ圖書ニハ著譯者ノ住所氏名ヲ記ス著譯者ノ主名ヲ知ルヘカラサル者ハ其出テ記スヘシ而シテ何年月日出版或ハ何年月日版權免許ト記シ版主ノ住所氏名ヲ記スヘシ氏名ヲ記セスノ別號ヲ記スルコトヲ得ス

版權ヲ相續シ若クハ賣買シ若クハ分版シタルハ相續人買主及分版ヲ受ケタル者ノ住所氏名ニ改ムヘシ

第二十二條 版權ノ賣買ハ勝手タルヘシ賣買スルハ雙方連印ノ其由ヲ内務省ヘ届ケ出ヘシ

第二十三條 版權ヲ分テ譲リ若クハ賣リ同一圖書ヲ各自ニ出版スルコト妨ケナシ之ヲ分版ト名ク

但シ雙方連印シテ届ケ出ルコト前條ノ如シ

第二十四條 版權ヲ相續シ若クハ賣買シ若クハ分版シ及ヒ改版ノ届ケ出サル者ハ其版

權ヲ失フヘシ

第二十五條 願濟ノ表題ヲ變改シ若クハ納本ノ後ニ新タニ序跋ヲ加フル者ハ其趣ヲ届出テ更ニ納本スヘシ若シ届出テ又ハ納本セサル者ハ其版權ヲ失フヘシ

第二十六條 免許狀ヲ失フ者ハ其趣ヲ届出タル上更ニ之ヲ與フヘシ

但シ手数料トシテ製本三部ノ定價ヲ納ムヘシ

第二十七條 小説歌謠ヲ出版スル者亦此ノ條例ニ從フヘシ

第二十八條 雕畫ノ類ハ出版スル毎ニ届ケ出ルコト第一條ニ依ルヘシ

但シ版權ヲ與ヘズ

第二十九條 九年二月第十二號布告ニテ以下二條追加 版權免許狀附與ノ後版權賣買或ハ改題等届出ノ上雖形ノ通藏版人免許狀ヘ地方廳印ヲ請フヘシ

第三十條 裏書餘白ナキニ至テハ更ニ免許狀書換願出ヘシ

但願出ル者ハ手数料トシテ製本三部ノ定價ヲ納ムヘシ

第三十一條 九年五月第八十一號布告ニテ追加 都合ニ因リ版權ヲ要セサル旨ヲ以テ免許狀返納スル者ハ其手数料トシテ金三十錢ヲ納ムヘシ

但收納方ハ免許料ト同様タルヘシ書式

出版條例罰則

第一條 內務省へ届ケスノ圖書ヲ出版シ及ヒ版權免許ヲ得ヌノ免許ノ名ヲ冒ス者若クハ納本セズ及免許料ヲ出サスノ發賣スル者ハ其刻版印本及賣得金ヲ沒收ス

第二條 凡ソ偽版ヲ作ル或ハ書中ノ字句及繪圖ノ模様ヲ少變シ若クハ少加メ其表題ヲ改シ其他總テ他人ノ版權ヲ侵シ出版スル者ハ罰金二十圓以上三百圓以下ヲ科シ其刻版印本及賣得金ハ沒收シテ版主ニ給付ス

第三條 第一條及ヒ第二條ヲ犯スノ圖書タルコトヲ知テ之ヲ發賣スル者ハ罰金五圓以上百圓以下ヲ科ス其第二條ヲ犯スノ圖書タルコトヲ知テ發賣スル者ハ現存ノ圖書及賣得金ヲ沒收シテ版主ニ給付ス

第四條 無名若クハ版主ノ住所ヲ記サ、ルノ圖書ヲ出版シ若クハ發賣スル者并ニ變名偽名ヲ若クハ住所ヲ偽リテ圖書ヲ出版シ若クハ情ヲ知テ發賣スル者ハ禁獄十日以上六月以下ヲ科ス

但シ沒収ノ法ハ第一條ニ依ル
第五條 凡著譯ノ圖書謾謗律及新聞紙條例第十二條以下ヲ犯ス者ハ著譯者其罪ニ座ス但シ著譯者ハ首ヲ以テ論シ出版者ハ從ヲ以テ論ス

第六條 淫褻俗ヲ亂ルノ圖書小説歌謠彫畫ノ類淫褻ニ係ル者ハ皆同シヲ著譯シテ出版スル者ハ禁獄三十日以上一年以下罰金三圓以上百圓以下ヲ科ス

第七條 法司圖書犯則ノ訴ヲ受レハ即時刻版及現存ノ印本ヲ勾收セシメ論決スルニ至テ官ニ沒ス
活版ヲ用フルモノニシテ出版人自ラ印刷ヲ管スル者若クハ付スル所ノ印刷人犯情ヲ知ル者ハ印刷器ヲ沒收ス

第八條 既ニ版權免許ヲ得ルト雖モ出版ノ上犯則ニ涉ル者ハ仍ホ本條ニ依リ罪ヲ科ス
附則

一此條例發行ノ日ヨリ出版ニ關スル從前ノ布告布達等一切取消シ候條從前出版ノ圖書ハ此條例發行ノ日ヨリ四ヶ月ヲ限リ此條例ニ準據シ更ニ願出ツヘシ右限内願出サルモノハ總テ版權無之儀ト心得ヘシ
一從前出版ノ圖書ト雖モ版權願出ルニ於テハ免許料上納スヘシ但シ製本ハ納ルニ及ハス

一自今院省使廳府縣ニ於テ出版スルモノト雖モ布告公文及該廳ニ關スル日誌規則ノ類ヲ除クノ外ハ必ス內務省へ届ケ出ツヘシ
(八年六月十九日文部省第九號布達)
當省藏版書籍翻刻ノ儀ニ付テハ昨明治七年第廿五號ヲ以テ及布達置候處當省藏版ノ書籍ハ自今悉皆翻刻差許候條尋常出版ノ手續ヲ以テ可願出此旨布達候事

但當省藏版書目、可及報告候事

(八年十月廿八日內務省甲第廿號布達)

今般第百三拾五號布告ノ通出版條例改正ニ付テハ從前發行セシ圖書ト雖モ淫褻俗ヲ亂ルモノ及ビ新聞條例第十二條ヨリ第十四條マデニ係ルモノハ來明治九年八月三十一日限リ發賣差止候條此旨布達候事

(八年十一月廿日內務省甲第廿三號布達)

圖書成刻致納本候節其所在地方廳ヲ經由セス本人ヨリ直ニ納付ノ向ハ其旨趣并ニ納本ノ定價等速ニ其地方廳ニ可届出此旨布達候事

但版權免許料ノ儀ハ必ス其地方廳ヲ經由可差出事

(九年五月二日內務省甲第十四號布達)

客歲九月御布告相成候出版條例第二條但書ニ(其願ハサル者ハ各人一般ニ出版スルヲ許ス)ト有之候得共出版届ノ儀ハ第一條ノ通出版ノ前必ス當省ニ可届出儀ト可相心得此旨布達候事

(九年五月廿九日內務省甲第二十號布達)

凡ソ新刻ノ圖書版權ヲ有シ度者ハ出版版權共合セテ可願出若シ出版届ノミ差出後日ニ至リ版權願出候共授與致サス候條此旨布達候事

(九年十一月十日內務省甲第四十一號布達)

版權免許料之儀ハ出版前ニ豫定シ相納候後免狀返納願出候向ハ自今免許證下付ノ日ヨリ三十日以内ニ其旨願出候ハ免許料ハ返付シ手数料ヲ收納スヘシ若シ右日限過去リ免許証返納願出候トモ免許料ハ返附不致候條此旨布達候事

(九年十一月十五日內務省甲第四十二號布達)

彫畫類是迄三部ツ、納本致來候處自今尋常彫畫錦畫等ニ限リ刻成之都度一部可相納此旨布達候事

(十一年十二月二十一日內務省乙第九十號府縣)

我カ有版權之圖書ニシテ外國人ノ翻刻ニ係ルモノハ內國人民ニ於テ販賣不相成ハ勿論ノ事ニ候得共尙心得違ノ者無之様兼テ其旨相論置可申此旨相達候事

(十二年二月二十一日文部省布達第二號)

文部省出版ノ圖書ニ註解圖書傍訓等ヲ加ヘ又ハ本文ヲ増減シテ出版致シ候儀自今不相成候尤原本ノ儘翻刻致シ候儀ハ可爲從前之通候條此旨布達候事

○曆

(明治三年四月廿二日布告)

頒曆授時ノ儀ハ至重之典章ニ候處近來種々ノ類曆世上ニ流布候趣無謂事ニ候自今弘曆

者ノ外取扱候儀一切嚴禁被仰出候事

(九年十月十七日內務省甲第卅九號布達)

來明治十年曆ヨリ本曆畧曆共別紙雛形印紙貼用可致候略曆出版ノ儀ハ自今本曆頒布ノ後草稿相添出版書式ニ照準シ府縣廳ヲ經テ當省ニ可願出出版差許候分ハ右印紙相渡候間枚數ヲ限リ願出每曆面ニ貼付ノ上販賣可致無印紙ノ曆ハ賣買不相成候條此旨布達候事

(雛形畧ス)

〇新聞條例

(明治八年六月廿八日第百十一號布告)

明治六年^十月第三百五十二號ヲ以テ布告候新聞紙條目被廢更ニ別冊ノ通被定候條此旨布告候事

新聞紙條例

第一條 凡ソ新聞紙及時々ニ刷出スル雜誌雜報ヲ發行セントスル者ハ持主若クハ社主ヨリ其ノ府縣廳ヲ經出シテ願書ヲ內務省ニ捧ケ允准ヲ得ヘシ允准ヲ得スソ發行スル者ハ法司ニ付シ罪ヲ論シ凡ソ條例ニ違フ者ハ府縣廳ヨリ發行ヲ禁止シ持主若クハ社主及編輯人印刷人各々罰金百圓ヲ科ス其ノ詐ヲ官准ノ名ヲ冒ス者ハ各々罰金百圓以上

二百圓以下ヲ科シ更ニ印刷器ヲ沒入ス

第二條 願書ニ擧クヘキノ目左ノ如シ

- 一 紙若クハ書ノ題號
- 二 刷行ノ定期 毎日毎週毎月或ハ無定期ノ類
- 三 持主ノ姓名住所〇會社ナレハ差金入ヲ除クノ外社主一人若クハ數人ノ姓名住所
- 四 編輯人ノ姓名住所〇編輯人數人アル者ハ編輯人長一人ノ姓名住所
- 五 印刷人ノ姓名住所〇編輯人自ラ印刷人ヲ兼ル者ハ其由ヲ著ス

右ノ五目中詐謬アル者ハ發行ヲ禁止若クハ停止シ時日ヲ限リ發行ヲ止ムル者ヲ停止トス 仍ホ願人ニ向テ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科ス

第三條 編輯人若クハ編輯人長退任シ若クハ死去スル時ハ假ニ編輯人若クハ編輯人長ヲ定メ履行スルヲ得但シ遲クハ十五日内ニ退任死去ノ翌日ヨリ起算ス 新定セル編輯人若クハ編輯人長ノ姓名住所ヲ持主若クハ社主ヨリ其府縣廳ニ届ケ出ヘシ若シ期内ニ届ケ出サズ時ハ發行ヲ停止シ持主若クハ社主罰金百圓ヲ科ス

其他第二條願書ニ載スヘキノ目ニ於テ一ノ變更アル時ハ遲クハ十五日内ニ持主若クハ社主及編輯人若クハ編輯人長ノ連名ヲ以テ届ケ出ヘシ若シ期内ニ届ケ出サル時ハ

新聞條例

持主若クハ社主及編輯人若クハ編輯人長各々罰金百圓ヲ科ス

第四條 持主若クハ社主及編輯人若クハ假ノ編輯人タル者ハ内國人ニ限ルベシ

第五條 持主若クハ社主自ラ編輯人若クハ編輯人長タルヲ得

第六條 編輯人二人以上アル者ハ其一人ヲ撰テ編輯人長トスヘシ

每紙每卷ノ尾ニ編輯人印刷人名ヲ署シ編輯人數人アル者ハ編輯人長名ヲ署シ編輯人

若クハ編輯人長疾病事故アル時ハ代理人ヲ定メ其名ヲ署スヘシ若シ名ヲ署セサル時

ハ編輯人若クハ編輯人長若クハ代理人罰金百圓以上五百圓以下ヲ科シ印刷人罰金百

圓ヲ科ス

紙中若クハ卷中載スル所ノ事ニ付テハ紙尾署名ノ編輯人若クハ編輯人長一切責ニ任

スヘシ

第七條 紙中若クハ卷中載スル所第十二條以下ノ禁ヲ犯シ若クハ讒謗律ヲ犯シタル時

ハ編輯人首ヲ以テ論シ筆者ハ從テ以テ論ス持主若クハ社主情ヲ知ル者ハ編輯署名ノ

人ト同ク論ス

第八條 新聞紙及雜誌雜報ノ筆者ハ 投書者ハ筆者 尋常ノ瑣事ヲ除クノ外凡ソ内外國事、

理財、人情、時態、學術、法教、議論、及事、官民ノ權利ニ係ル者ハ皆其ノ姓名住所ヲ著

スヘシ

筆者變名ヲ用ヒタル時ハ禁獄三十日罰金拾圓ヲ科ス他人ノ名ヲ假托スル者ハ禁獄七

十日罰金二十圓ヲ科ス 二罰廿七科ノ或ハ偏ヘニ 一罰ヲ科ス以下之ニ倣ヘ

第九條 外國新聞紙及雜誌雜報ヲ翻譯ノ記入スル者ハ尋常ノ瑣事ヲ除クノ外譯者名ヲ

署シ其事第十二條以下ノ禁ヲ犯シ若クハ讒謗律ヲ犯シタル時ハ譯者其責ニ任スヘキ

一第七條筆者從テ以テ論スルノ例ニ依ル

第十條 事犯編輯人ニ止リ禁獄ヲ命シタル時ハ特ニ發行ヲ停止シタル時ヲ除クノ外持

主若クハ社主ヨリ假ニ編輯人ヲ定メ若クハ新タニ編輯人ヲ定メテ仍ホ發行スルヲ得

得共編輯人ヲ定メスシテ發行スル者ハ發行ヲ停止スヘシ

第十一條 新聞紙若クハ雜誌雜報ニ指名サレタル官署會社若クハ人民ヨリ辨白書若ク

ハ改正ヲ求ムルノ書ヲ寄スルハ其書ヲ受取リシヨリ直テニ其次號ニ刷出スヘシ違

フ者ハ編輯人罰金拾圓以上百圓以下ヲ科ス

第十二條 新聞紙若クハ雜誌雜報ニ於テ人ヲ教唆ノ罪ヲ犯サシメタル者ハ犯ス者ト同

罪其教唆ニ止マル者ハ禁獄五日以上三年以下罰金拾圓以上五百圓以下ヲ科ス

其教唆ニテ兇衆ヲ煽起シ或ハ官ニ強逼セシメタル者ハ犯ス者ノ首ト同ク論ス其教唆

ニ止マル者ハ罪前ニ同シ

第十三條 政府ヲ變壞シ國家ヲ顛覆スルノ論ヲ載セ騒亂ヲ煽起セントスル者ハ禁獄一

年以上三年ニ至ル迄ヲ科ス其實犯ニ至ル者ハ首犯ト同ク論ス

第十四條 成法ヲ誹毀シ國民法ニ違フノ義ヲ亂リ及顯ハニ刑律ニ觸レタルノ罪犯ヲ曲庇スルノ論ヲ爲ス者ハ禁獄一月以上一年以下罰金五百圓以上百圓以下ヲ科ス

第十五條 裁判所ノ斷獄下調ニ係リ未タ公判ニ付セサル者ヲ職スルヲ得ズ及裁判官審判ノ議事ヲ載スルヲ得ズ犯ス者ハ禁獄一月以上一年以下罰金百圓以上五百圓以下ヲ科ス

第十六條 院省使廳ノ許可ヲ經ズシテ書建白ヲ職スルヲ得ズ犯ス者ハ罰前條ニ同シ

附則

此ノ條例布告ノ前ニ既ニ允准ヲ得テ發行セル新聞紙雜誌雜報ハ新タニ願書ヲ捧ケルコト及ハズ但シ府縣廳ヲ經由シ内務省ニ届クル爲ニ此ノ布告ヲ承ルヨリ第十日迄ニ承ルノ翌日ヨリ府縣廳ニ向テ第二條五目ノ届書ヲ捧ケルハ第十日ヲ過テ届書ヲ捧ケサル者ハ府縣廳ヨリ發行ヲ止ムヘシ其更ニ願ヒ出ル者ハ第一條ニ依ルヘシ

從前編輯人數人アテ編輯人長ナキ者ハ條例布告ヲ承ルヨリ第二日迄ニ布告ヲ承ルノ編輯人長ヲ定メ若クハ假ニ定ムヘシ第二日ヲ過テ刷行シタル紙若クハ書ニ編輯人長ノ署名ナキハ府縣廳ヨリ發行ヲ止ムヘシ其ノ更ニ願ヒ出ル者ハ前ニ同シ
(八年七月三十日第百二十四號布告ニテ左ノ一條追加)

新聞紙及時々ニ刷出スル雜誌雜報ノ類ハ其刷出スル毎ニ東京府下ハ内務省局准刻及司法省准刻檢務ニ其他ノ地方ハ内務省准刻及府縣廳ニ二冊改ツ、ヲ納ムヘシ
(八年七月七日第百十九號公達院省使廳府縣)

凡ソ官吏タル者官報公告ヲ除クノ外新聞紙又ハ雜誌雜報等ニ於テ私ニ一切ノ政務ヲ叙述スルヲ不相成候條此旨相達候事

但百般學科ニ係ル叙述ハ此限ニアラス

(八年九月十二日第百五十八號公達院省使廳府縣)

自今各廳事務ニ係ル上申往復等ノ公文ヲ新聞紙ニ掲載候儀不相成候此旨相達候事

(九年十一月二十八日第百四十六號布告)

明治八年六月第百一十一號布告新聞紙條例第二條ノ第二目中或ハ無定期ノ五字削除候條此旨布告候事

但從前新聞紙條例ニ據リ願濟ノ新聞紙雜誌雜報無定期ノモノハ刷行ノ定期ヲ定メ此布告到達ノ日ヨリ二十日以内ニ該管廳ヲ經テ内務省ニ届出若シ期限内ニ届出サルモノハ發行不相成候事

(九年十二月四日内務省甲第四十三號布達)

新聞紙及雜誌雜報等允准ヲ得タル後三十日間ニ發行セサル者及休業届ノ後五十日間ニ

再行届無之者ハ並ニ允准ノ權ヲ失シ廢絶タルヘシ此旨布達候事

但即今休業中ノ者ハ此布達到達ノ日ヨリ二十日限リ更ニ地方廳ヲ經由シ當省ヘ届出ヘシ右日限開ニ届出サル者ハ廢絶タルヘキ事

(十一年六月廿七日内務省甲第十九號布達)

新聞紙雜誌雜報讓受讓渡改題並記事ノ性質ヲ變更スルモノハ自今其旨趣ヲ詳記シ出願許可ヲ受ヘシ此旨布達候事

(十三年十月十二日第四十五號布告)

明治九年七月第九十八號布告左ノ通改正候條此旨布告候事

己ニ許可ヲ得タル新聞紙雜誌雜報國安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルト認メタルトキハ内務卿ニ於テ其發行ヲ禁止シ又ハ停止スヘシ

〇寫真條例

(明治九年六月十七日第九十號布告)

寫真條例別紙ノ通相定候條此旨布告候事

寫真條例

第一條 凡ソ人物山水其他ノ諸物象ヲ寫シテ專賣ヲ願ヒ出ル者ハ五年間專賣ノ權ヲ與フヘシ之ヲ寫真版權ト稱ス

但之ヲ願ハザル者ハ別段届出ルコ及ハズ

第二條 版權ヲ得タル寫真ニハ必ず毎葉寫主ノ標號及ヒ定價並ニ版權免許ノ年月ヲ記載スヘシ

第三條 版權ヲ得タル者ハ寫真一版ニ付三葉ヲ納メ仍ホ免許料トシテ一版ニ付拾貳葉ノ定價ヲ納ムヘシ之ヲ納メサル前ニ發賣スルヲ許サズ

第四條 出版條例第七條第十三條第二十一條ノ第二項第二十二條第二十三條第二十四條及第二十六條ハ寫真版權ニ適用スヘシ

但出版條例第二十六條但書ノ手数料ハ壹版ニ付六葉ノ定價ヲ納ムヘシ凡ソ願届等ノ手續モ總テ出版條例ニ依ルヘシ

第五條 凡ソ圖書ヲ寫真スル者ハ翻刻出版ノ例ニ倣ヒ都テ出版條例ニ依ルヘシ

第六條 第三條ヲ犯シ若クハ情ヲ知テ轉賣スル者ハ其現存ノ寫真ヲ沒收シ壹圓ヨリ少カラス拾圓ヨリ多カラサルノ罰金ヲ科シ仍ホ版權ヲ追奪スヘシ

第七條 他人ノ版權ヲ侵シ寫真ヲ復寫シ又ハ免許ノ名ヲ冒認シ及ヒ之ヲ發賣シ若クハ情ヲ知テ轉賣スル者ハ現存ノ寫真ヲ沒收シ貳圓ヨリ少カラス二拾圓ヨリ多カラサルノ罰金ヲ科シ仍ホ原主ノ損害ヲ償ハシム

但原主ヨリ訴出ルコアラサレハ受理セス

〇讒謗律

(明治八年六月廿八日第百拾號布告)
讒謗律別冊之通被定候條此旨布告候事

讒謗律

第一條 凡ソ事實ノ有無ヲ論セ人ノ榮譽ヲ害スヘキノ行事ヲ摘發公布スル者之ヲ讒毀トス人ノ行事ヲ舉ルニ非ズソ惡名ヲ以テ人ニ加ヘ公布スル者之ヲ誹謗トス著作文書若シハ畫圖肖像ヲ用ヒ展觀シ若クハ發賣シ若クハ貼示ソ人ヲ讒毀シ若クハ誹謗スル者ハ下ノ條例ニ從テ罪ヲ科ス

第二條 第一條ノ所爲ヲ以テ乘輿ヲ犯スニ涉ル者ハ禁獄三月以上三年以下罰金五拾圓以上千圓以下 二罰併セ科シ或ハ偏ヘコ

第三條 皇族ヲ犯スニ涉ル者ハ禁獄十五日以上二年半以下罰金拾五圓以上七百圓以下

第四條 官吏ノ職務ニ關シ讒毀スル者ハ禁獄十日以上二年以下罰金拾圓以上五百圓以下 下誹謗スル者ハ禁獄五日以上一年以下罰金五圓以上三百圓以下

第五條 華士族平民ニ對スルヲ論セテ讒毀スル者ハ禁獄七日以上一年半以下罰金五圓以上三百圓以下 下誹謗スル者ハ罰金三圓以上百圓以下

第六條 法ニ依リ檢官若クハ法官ニ向テ罪犯ヲ告發シ若クハ証スル者ハ第一條ノ例ニ

アラズ其ノ故造誣告シタル者ハ誣告律ニ依ル

第七條 若シ讒毀ヲ受ルノ事刑法ニ觸ル者檢官ヨリ其事ヲ糾治スルカ若クハ讒毀スル者ヨリ檢官若クハ法官ニ告發シタル時ハ讒毀ノ罪ヲ治ムルヲ中止シ以テ事案ノ決ヲ俟テ其ノ被告人罪ニ坐スル時ハ讒毀ノ罪ヲ論セス

若シ事刑法ニ觸レズソ單ヘニ人ノ榮譽ヲ害スル者ハ讒毀スルノ後官ニ告發スト雖モ尙ホ讒毀ノ罪ヲ治ム

第八條 凡ソ讒毀誹謗ノ第四條第五條ニ係ル者ハ被害ノ官民自ラ告ルヲ待テ乃チ論ス

〇集會條例

(明治十三年四月五日第十二號布告)

集會條例別冊ノ通被定候條此旨布告候事

集會條例

第一條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ公衆ヲ集ムル者ハ開會三日前ニ講談論議ノ事項講談論議スル人ノ姓名住所會同ノ場所年月日ヲ詳記シ其會主又ハ會長幹事等ヨリ管轄警察署ニ届出テ其認可ヲ受クヘシ

第二條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ結社スル者ハ結社前其社名社則會場及ヒ社員名簿ヲ管轄警察署ニ届出テ其認可ヲ受クヘシ其社則ヲ改正シ及ヒ社員ノ出入

集會條例

讒謗律

アリタルトキモ同様タルヘシ此届出チ爲スニ當リ警察署ヨリ尋問スルヲアレハ社中ノ事ハ何事タリトモ之ニ答辨スヘシ

第三條 講談論議ノ事項講談論議スル人員會場及ヒ會日ノ定規アル者ハ其定規チ初會ノ三日前ニ警察署ニ届出認可ヲ受クルトキハ爾後ノ例會ハ届出ニ及ハズト雖モ之ヲ變更スルトキハ第一條ノ手續チ爲スベシ

第四條 管轄警察署ハ第一條第二條第三條ノ届出チニ於テ國安ニ妨害アリト認めルトキハ之ヲ認可セサルヘシ

第五條 警察署ヨリハ正服ヲ着セタル警察官チ會場ニ派遣シ其認可ノ証チ檢査シ會場チ監視セシムルヲアルヘシ

第六條 派出ノ警察官ハ認可ノ証チ開示セサルトキ講談論議ノ届書ニ掲ケサル事項ニ亘ルトキ又ハ人ヲ罪戾ニ教唆誘導スルノ意チ含ミ又ハ公衆ノ安寧ニ妨害アリト認めルトキ及ヒ集會ニ臨ムチ得サル者ニ退去チ命シテ之ニ從ハサルハ全會チ解散セシムヘシ

(明治十三年十二月二十三日第五十六號布告ヲ以テ但書追加)
但本條ノ解散チ命シタル時ハ其情狀ニヨリ東京ハ警視長官其他ハ地方長官其結社チ解散セシメ又ハ其管轄内ニ於テ一ケ年以内其會員ノ公衆ニ對シ政事チ講談論議

スルヲ禁スルチ得ヘシ

第七條 政治ニ關スル事項チ講談論議スル集會ニ陸海軍人常備豫備後備ノ名籍ニ在ル者警察官官立公立私立學校ノ教員生徒農業工藝ノ見習生ハ之ニ臨會シ又ハ其社ニ加入スルヲ得ス

第八條 政治ニ關スル事項チ講談論議スル爲メ其旨趣チ廣告シ又ハ委員若シハ文書チ發シテ公衆チ誘導シ又ハ他ノ社ト連結シ及ヒ通信往復スルヲ得ス

第九條 政治ニ關スル事項チ講談論議スル爲メ屋外ニ於テ公衆ノ集會チ催ストキ得ス
第十條 第一條ノ認可チ受ケズニテ集會チ催スモノ會主ハ二圓以上二拾圓以下ノ罰金若シハ十一日以上三月以下ノ禁獄ニ處シ其會席チ貸シタル者並ニ會長幹事及ヒ其講談論議者ハ各二圓以上二拾圓以下ノ罰金ニ處シ第三條ノ規程チ犯シタル者モ亦本條ニ依ル

第十一條 第二條ノ規程ニ背キ社則或ハ社員名簿或ハ改則社員ノ出入チ定期ニ於テ警察署ニ届出テス又ハ尋問スル所ノ事項チ開答セサルトキハ社長ハ二圓以上二拾圓以下ノ罰金ニ處シ僞作ノ社則又ハ名簿チ届出テ或ハ尋問チ得テ僞答スルトキ社長ハ右罰金ノ外尙十一日以上三月以下ノ禁獄ニ處ス

第十二條 第五條ノ規程ニ背キ派出警察官ノ臨席チ肯セサルトキ會主會長及ヒ社長幹

事ハ各五圓以上五拾圓以下ノ罰金若クハ一月以上一年以下ノ禁獄ニ處シ其警察官ヨリ演説者ノ姓名ヲ尋問スルコト之ニ答ヘズ又ハ偽名ヲ答ヘタル者ハ同罪ニ處シ再犯ニ當ル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ禁獄ニ處ス

第十三條 派出ノ警察官ヨリ解散ヲ命シタル後尙退散セサル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金若クハ十一日以上六月以下ノ禁獄ニ處ス

第十四條 第七條ノ制限ヲ犯シタルトキ會主會長及ヒ社長幹事ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金若クハ十一日以上三月以下ノ禁獄ニ處シ其他情狀ノ重キモノアレハ其社ヲ解散セシム其制限ヲ犯シテ入社シ又ハ臨會スル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第八條ノ制限ヲ犯シタルトキ會主會長及ヒ社長幹事ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金若クハ一月以上一年以下ノ禁獄ニ處シ其社ヲ解散セシム此事ニ關スル者モ亦同罪ニ處シ脅迫スル者及ヒ罪再犯ニ當ル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ禁獄ニ處シ其社長幹事ハ一年以上五年以下結社又ハ入社ヲ禁ス

第十六條 成法ニ制定スル所ノ集會ハ此限ニアラズ

(十三年四月六日第十三號布告)

今般第十二號布告ノ通集會條例被定候ニ付テハ從前集會結社候者モ右條例ニ依リ更ニ届出ヘシ此旨布告候事

(十三年五月六日內務省達府縣)

這回集會條例御發行ニ付テハ該條例ニ觸レ警察官ニ於テ處分セシ分並罰科ニ處セラレタル分共其時々事由詳細當省ヘ可届出此旨相達候事

(十三年五月九日公達)

凡ソ官吏タル者其職務ニ係ル外政談講學ヲ目的トシテ公眾ヲ聚メ演説ノ席ヲ開ク等不都合ノ義無之様各々長官ニ於テ取締可致此旨相達候事

〇銃砲取締規則

(明治五年正月廿九日第二十八號布告)

銃砲取締規則別紙之通被定候條來ニ四月ヨリ規則之通可相守事

銃砲取締規則

第一則

一大小銃並彈藥類商賣ノ義ハ府縣共定員商賣ノ外取扱致問敷右定員ノ商賣ハ其地方管廳ニ於テ精選ノ上免許狀可差遣事

但東京大阪ノ儀ハ武庫司ニ於テ管轄スヘキ事

免許商賣ノ定員

一府下

各五員

一縣下

各三員

一鎮臺本分營下

各一員

但府縣廳下開港場等ニアルハ別ニ設ケズ

一開港場

各五員

右免許差遣候商賈ノ姓名住所等東京武庫司へ届クヘキ事

第二則

一免許商人ヲリトモ軍用ノ銃砲彈藥類ヲ竊ニ賣買不相成賣渡候節ハ買主ヨリ官ノ免手形ヲ受取其員數ヲ照シ賣渡可申又買入ノ節ハ其管廳へ願出免手形ヲ受其員數ヲ以テ買取可申事

但東京大阪ノ義ハ武庫司へ願出申事

(十三年三月廿五日第八號布告ニテ左ノ一項追加)

一免許商人ハ陸海軍進士官以上ノ武官ヨリ其所有ノ軍用銃並ニ其彈藥類ヲ買入レントスルハ買入願書ニ其賣主ノ連署ヲ爲サシムヘキ事

第三則

一免許ノ商人其賣買ノ銃砲彈藥類ハ多少ヲ論セス買取賣渡共其主人ノ姓名其物品ノ員數等明細附記シ軍用ノ物ハ免手形相添毎月其管廳へ可差出其廳ヨリ毎月十日ヲ限リ

管轄鎮臺へ差送可申事

但諸鎮臺ヨリ毎歲正月七月兩度半ケ年明細帳ヲ以テ東京武庫司へ差送り可申尤東

京大阪ノ儀ハ武庫司ニ於テ取締可致事

第四則

一彈藥ノ儀ハ假令些少ノ品タリトモ唯便利ノミナ計リ勝手ノ場所へ差置間敷兼テ其地方管廳へ願出差圖ヲ受相圖可申事

但東京大阪ノ儀ハ武庫司へ願出ヘキ事

第五則

一華族ヨリ平民ニ至ル迄免許銃類ヲ除クノ外軍用ノ銃砲並彈藥類ビストールニ至ル迄私ニ貯蓄不相成就テハ是迄銘々所持致居候軍用銃砲ハ一々其管廳ニ持出東京大阪ハ別紙銃砲改刻印式ノ通り番號官印ヲ受可申他人へ譲リ與ヘ候節ハ第二則ノ手續ニ從フヘシ

但彈藥買入致シ度者モ亦二則ノ通りタルヘシ

銃砲改刻印ノ式

支千何番 武庫司或ハ何府縣

右所持ノ人名番号等逐一書記シ置管轄鎮臺へ届出鎮臺ヨリ東京武庫司へ差送可申

事

免許ノ銃類

一和銃四文目八分五以下

一各國諸獵銃

但西洋獵銃ノ儀ハ其玉目稍大ナレトモ霰彈ヲ用ユルモノハ之ヲ許ス

右獵用銃所持ノ者ハ其銃名員數等巨細附記シ其管廳へ届出其廳ヨリ東京武庫司へ

差出可申東京大坂ハ所持ノ者ヨリ直ニ武庫司へ届出シ萬一軍用獵用銃ノ差別難相辨者官へ尋出候得ハ

檢査ノ上免許ノ証印ヲ据へ可相渡事

第六則鳥獸獵規則ヲ以テ此則廢ス

第七則

一銃砲彈藥下々ニ於テ猥リニ製造不相成候尤モ新々ニ奇巧便利ヲ發明シ爲試製作致度者ハ其管廳へ相願管轄鎮臺へ届出免許ヲ可受事

但製作其宜キニ適ヒ最モ便利ナル者ハ鎮臺ヨリ武庫司へ差送り檢査ヲ遂ケ採用可相成分ハ西洋兎許ノ法ニ倣ヒ何分ノ御沙汰可有之事

是迄砲銃并彈藥類賣買致來候者ハ現今所持ノ物品員數等無遺漏書記シ管轄廳へ爲差出其廳ヨリ東京武庫司へ可差出事

但東京大坂ノ儀ハ賣買ノ者ヨリ直ニ武庫司へ可届出事
右之通ニ候事

(五年九月廿三日第二百八拾二號布告諸省府縣)

銃砲取締ノ儀ニ付別紙ノ通被相定候條此旨相達候事

別紙

銃砲取締規則ニ違銃砲彈藥類ヲ窃ニ所持シ且致取扱候者有之節ハ各地方ニ於テ其品取上ケ更ニ五拾錢ノ過料可申付候事

但取扱向ニ關係無之者見當リ訴出候ニ於テハ犯人過料ノ半金ヲ可被下候事
右取上候品東京大坂ハ武庫司其他ハ所管ノ鎮臺へ可差出事

(七年七月廿七日第九拾九號公達開港開市場有之使府縣)

銃砲並彈藥類外國人ヨリ買入ノ儀ニ付明治五年六月第百八拾五號布告ノ趣モ候處自今銃砲並彈藥類外國人ト賣買ノ儀兎許商人ヨリ願出候節ハ其管廳ヨリ陸軍省へ申請ノ上可取計此旨相達候事

(七年十二月八日第百三十二號布告)

明治五年壬申九月第二百八十二号布告銃砲取締規則違犯ノ者罰例左ノ通増補候條此旨布告候事

一 兎許ヲ得スシテ銃砲彈藥ヲ製造スル者ハ其品版上ケ更ニ三圓以内ノ過料可申付事
但書同斷

(九年六月八日第八十四號布告)

銃砲所持ノ者届漏ノ分ハ明治九年四月三十日迄ニ其管轄廳へ改印可願出旨本年三月第三十九号ヲ以テ布告候處更ニ本年八月三十一日迄延期候條此旨布告候事
(十一年五月二十四日第十一號布告)

銃獵兎許ノ者及有害ノ鳥獸威シ銃室内射の場營業兎許ノ者等需用ノ彈藥雷管ニ限り賣買手續左ノ通り相定候條此旨布告候事

銃獵兎許ノ者及ヒ有害ノ鳥獸威シ銃室内射の場營業兎許ノ者等需用ノ彈藥ヲ買ハント欲スル時ハ其兎狀若シハ兎許証ヲ以テ彈藥賣買兎許商人ニ示シ以テ其兎許人タルヲ証スヘシ

彈藥賣買兎許商人ハ右ノ兎狀若シハ兎許証ヲ認メ正確ナリトスル時ハ左ノ程限ニ照シ之ヲ賣渡シ其姓名及ヒ數量等ヲ詳記月々其管轄廳東京ハ警視本署へ届出ツヘシ

西洋形獵銃用	彈藥 散彈ハト	二千發
同上用	雷管	四千粒
火繩銃用	火藥	壹貫目
威シ銃用		

室内銃用

雷管

壹万粒

右一次賣渡最多ノ程限トス若シ一次此程限外ノ彈藥雷管ヲ買ハント欲スル時ハ銃砲取締規則第二則ニ從フヘシ

(十二年三月廿五日第二十二號公達使府縣東京府ヲ除ク)

陸海軍武官所有ノ軍用銃ハ明治五年正月第二十八号布告ニ依リ管轄廳ノ検査番號ヲ受來候處自今準士官以上ノ武官ハ左ノ規則ニ據ルヘシ此旨相達候事

武官所有ノ軍用銃賣買取扱規則

第一條 陸海軍省ニ於テハ武官所有ノ軍用銃并ニ其彈藥類買入ノ節交付スヘキ買入兎狀ヲ定メ置キ豫メ其印影等照會ノ爲メ使府縣廳東京ハ警視本署へ通知スヘシ

第二條 武官軍用銃并ニ其彈藥類ヲ買入ル、時ハ前款ノ兎狀ヲ受取之ヲ該地ノ兎許商人ニ交付シテ其買入ヲ爲スヘシ

第三條 武官轉任又ハ兎官スルキハ其奉職中所有セシ銃器ハ其姓名檢印アラハテ記載シ使府縣廳東京ハ警視本署へ届出常則ニ從ヒ其取締ヲ受クヘシ

第四條 武官奉職中所有ノ軍用銃及ヒ其彈藥類ヲ人民へ賣渡サントスル時ハ買受人ヨリ其使府縣廳東京ハ警視本署へ差出スヘキ願書へ連署スヘシ

○鳥獸獵規則

鳥獸獵規則

(明治十年一月廿三日第十一號布告)
鳥獸獵規則別紙ノ通改正候條此旨布告候事

鳥獸獵規則

- 第一條 小銃ヲ用テ鳥獸ヲ獵シ生業トスル者ヲ職獵トシ遊樂ノタメニスルヲ遊獵トス
- 第二條 銃獵免狀ナキモノハ總テ銃獵スルヲ禁ス但有害ノ鳥獸ヲ除クカタメニハ地方官ノ便宜ヲ以テ臨時ノ免許ヲ與フヘシ
- 第三條 銃獵免狀ヲ得ント欲スル者ハ願書ニ族籍職分住所姓名年齢ヲ詳記シ東京府下ニ於テハ内務省其他ハ該地方官廳ニ差出スヘシ
- 第四條 免狀ハ其効一期限ニ止マルモノトス免狀ハ貸借シ賣買シ若クハ授受スルヲ禁ス
- 第五條 免狀ヲ願受ル者ハ左ノ通免許稅ヲ納ムヘシ
 - 一 職獵稅 金壹圓
 - 一 遊獵稅 金拾圓
- 第六條 水火盜難其他ノ事故ニヨリ免狀ヲ毀失スル時ハ速ニ東京府下ニ於テハ内務省其他ハ該地方官廳ニ届出ヘシ再ヒ免狀ヲ願受ル者ハ更ニ稅金ヲ納ムルニ及ハスト雖モ手数數料トシテ金二十五錢ヲ納ムヘシ

- 第七條 左ニ記列シタル者ニハ免狀ヲ付與セサルヘシ
 - 一 拾六歳未満ノ者
 - 一 白痴瘋癲等ノ者
 - 一 故ナシ弓箭銃砲ヲ放ツノ刑ヲ受ケシ者
- 第八條 左ニ記列シタル場所ニ於テハ銃獵ヲナスヲ禁ス
 - 一 都府市街ハ勿論衆人群集ノ場所
 - 一 銃丸ノ達スヘキ恐レアル人家ニ向ヒタル距離ノ場所
 - 一 禁獵制札ノ場所
- 但制札ハ銃獵ニ挺ヲ交叉シタル圖ノ下ニ銃獵禁制ノ四字ヲ記シ掲ケ置クヘシ
- 一作物植付ケアル田畑内或ハ社寺人家等ノ構内
- 但該主又ハ管守人ノ許諾ヲ得タル者ハ此限ニアラス
- 第九條 獵銃ハ和銃玉目四匁八分以下並ニ西洋銃ニ限ルヘシ軍銃ヲ用フルヲ禁ス
(十年十二月十七日第八十五號布告ニテ但書追加)
- 但開拓使管内ニ限リ和銃玉目拾匁以下ヲ用フルヲ得ヘシ
- 第十條 銃獵期限ハ十月十五日ヨリ四月十五日迄ヲ以テ一期トス是時限ノ外ハ銃獵ヲ禁ス

但地方ノ景況ニヨリ已ムヲ得ス此期限ヲ伸縮スル時ハ其理由ヲ内務省へ届出ヘシ

第十一條 日没ヨリ日出迄ノ時間ハ銃獵ヲ禁ス

第十二條 凡ソ出獵スル者ハ必ス其免狀ヲ携帶スヘシ出獵中警察官吏區戸長村役人等免狀ヲ看ント請フ者アル時ハ直ニ之ヲ示スヘシ

第十三條 地主其所有地内ニ於テ他人ノ銃獵スルヲ有害トスル時ハ第八條所示ノ如キ制札ヲ建テ其周圍ニ繩張又ハ假圍ヲナスヘシ

第十四條 凡テ一期内再犯以上ノ者ハ其罰金ヲ倍科スヘシ

第十五條 銃獵ヲ生業トスル者ニアラスシテ職獵ノ免狀ヲ受ケ遊獵スル者ハ五十圓ノ罰金ヲ科シ免狀取上ケ其期内銃獵ヲ禁スヘシ

第十六條 總テ犯則ノ者ヲ他ヨリ証跡ヲ取リ訴出ル時ハ犯人罰金ノ半ヲ賞トシテ與フヘシ

第十七條 第十四條第十五條ノ外此諸規則ヲ犯ス者ハ三圓ヨリ少ナカラス二十圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科スヘシ

第十八條 十年十二月十七日第八十五號布告ニテ追加 開拓使管内ニ入り鹿獵ヲ爲ス者ハ該使施行ノ規則ニ遵フヘシ
(十年一月十九日内務省達乙第三號府縣)

區戸長ト雖ニ奉職中職獵之儀不相成候條爲心得此旨相達候事

(十年三月十二日乙第卅三號内務省達ニテ追加)

但神官教導職郵便取扱役學區取扱締等都テ職務有之者本條之通可相心得事

〇傳染病豫防規則

(明治十三年七月九日第三十四號布告)

明治十二年八月第三十二號虎列刺病豫防假規則ヲ廢シ傳染病豫防規則左ノ通相定候條此旨布告候事

傳染病豫防規則

總 則

第一條 此規則ニ稱スル傳染病トハ虎列刺、腸窒扶私、赤痢、實布埜利亞、發疹窒扶私及ヒ痘瘡ノ六病ヲ云フ

但六病ノ外流行病アリテ其勢盛ナルノ兆アルキハ地方長官ハ内務省ニ具申シ豫防法ヲ施行スヘシ

第二條 醫師ノ傳染病ヲ診斷スル者ハ遅クモ二十四時間ニ之ヲ患者所在ノ町村衛生委員ニ通知スルヲ要ス衛生委員ハ速ニ之ヲ郡區長及ヒ最寄警察署ニ通知シ郡區長ハ速ニ之ヲ地方廳(東京府下ハ府廳及ヒ警視本署)ニ届出ヘシ地方廳ハ一週間毎ニ新舊患

傳染病豫防規則

者及ヒ治癒死亡ノ數ヲ内務省ニ申報スヘシ
但土地ノ便宜ニヨリ醫師ヨリ直ニ警察署ニ届出警察署ヨリ衛生委員ニ通知スルモ妨ナシ

第三條 地方長官ハ管内ニ傳染病流行ノ兆アリト認ムルハ其性狀ヲ記シテ速ニ之ヲ内務省ニ申報シ且ツ其管内及ヒ隣接若シハ船舶交通ノ府縣最寄兵營其地碇泊ノ軍艦等ニ報告スヘシ

(十三年十一月第五十四號布告ニテ但書削除)

第四條 十三年十二月第五十四號布告ニテ削除

第五條 諸官廳、兵營、軍艦、監獄及ヒ官立ノ學校、病院、製作所等ニ於テ傳染病者アルハ其主長ハ該地方官ト協議シ此規則ニ從ヒ豫防法ヲ施行スヘシ

第六條 虎列刺、赤痢、發疹室扶私、痘瘡ノ流行ニ際シ地方長官ニ於テ豫防ノ爲メ避病院ヲ要スヘキト認ムルハ内務卿ニ具狀シテ之ヲ設クルヲ得

但人民協議ヲ以避病院ヲ設クルハ地方長官ノ許可ヲ請フヘシ

第七條 醫師并ニ衛生委員ニ於テ傳染病者ノ看護行届カス若シハ病毒ノ傳播ヲ防キ難シト認ムル者ハ避病院ニ入ラシムヘシ

第八條 掛リ官吏ハ傳染病者アル家ニハ其病名ヲ書シテ門戸ニ貼付シ要用ノ外他人ト

交通ヲ絶タシムヘシ

但患者治癒死亡又ハ避病院ニ入りタル後相當ノ消毒法ヲ行ハザルノ間ハ仍ホ本條ヲ遵守セシムヘシ

虎列刺病

第九條 虎列刺病者ノ排泄物及ヒ汚穢物ハ其運搬夫ヲ設ケ一定ノ場所ニ運轉シ燒棄若シハ埋却セシムヘシ

第十條 虎列刺病者ノ死屍ハ其埋葬地ヲ區劃シ濫リニ雜葬セシムヘカラス且ツ他ニ改葬スルヲ許サス

但火葬ハ尋常ノ燒場ニ於テシ其遺骨ハ改葬スルモ妨ナシ

第十一條 虎列刺病者ニ用ヒタル器具衣服器具及ヒ病室船室等ハ消毒法ヲ行フニアラサレハ再ヒ之ヲ用ヒ又ハ受授賣買スルヲ許サス

第十二條 虎列刺流行ノ際ニハ井泉、河流、水道及ヒ厠圍、芥溜、下水、溝渠等總テ病毒萌生ノ因トナルヘキ場所ニ注意シ掃除清潔ノ法ヲ設クヘシ

第十三條 虎列刺流行スルハ船舶交通ノ地方ニ於テ流行地ヨリ來ル所ノ船舶ヲ檢査シ患者若シハ死者アルハ此規則ニ從フテ處分スヘシ

第十四條 虎列刺流行ノ勢猛烈ナルハ地方長官ハ内務卿ニ具狀シ其許可ヲ得テ醫師

衛生官吏警察官吏郡區町村吏等ヨリ適當ノ人員ヲ選ヒ檢疫委員トナシ豫防消毒ノ事務ヲ擔任セシムルヲ得

第十五條 前條ノ場合ニ於テハ地方長官ハ祭禮劇場等人民ノ群集ヲ差止ルヲ得
腸室扶私病

第十六條 腸室扶私病流行ノ際ハ第九條第十一條及ヒ第十二條ヲ適用スヘシ
赤痢病

第十七條 赤痢病流行ノ際ハ第九條第十一條及ヒ第十二條ヲ適用スヘシ
實布埜里亞病

第十八條 實布埜里亞病流行ノ際ハ第十一條ヲ適用シ患者ノ痰唾及ヒ之ニ汚穢スル物ハ燒棄若クハ埋却セシムヘシ

第十九條 發疹室扶私病
十三年十二月第五十四號佈告ニテ改正
發疹室扶私病者アルハ第十條第十一條ヲ適用シ其流行ノ際ニハ第十二條第十三條第十四條及ヒ第十五條ヲ適用スヘシ

第二十條 發疹室扶私病者若クハ其死屍ヲ載セタル車輿等ハ毎回消毒法ヲ行フニアラサレハ他用ニ供スヘカラス
痘瘡病

第二十一條 痘瘡病流行ノ際ハ第十條第十一條第十二條及ヒ第二十條ヲ適用シ患者ニ未痘者ヲ接近セシムヘカラス
罰則

第二十二條 醫師衛生委員此規則ニ違背シタルハ五十圓以内ノ罰金ニ處ス

第二十三條 官吏其管掌ノ事務ニ於テ此規則ニ違背シタルハ百圓以内ノ罰金ニ處ス
第二十四條 人民此規則ニ違背シタルハ一圓五十錢以内ノ料料ニ處ス

〇檢疫停船規則

(明治十二年七月廿一日第二十九號佈告)

明治十二年七月第二十八号佈告海港虎列剌病傳染豫防規則別冊ノ通更正シ檢疫停船規則ト改稱候條此旨佈告候事

檢疫停船規則

第一條 日本政府ハ虎列剌病ノ蔓延ヲ防カンタメ茲ニ左ニ掲クル規則ヲ開港場ニ施行スルヲ布告ス而シテ更ニ其施行ノ停止ヲ令スル迄ハ之ヲ實施スルモノトス

第二條 中央衛生會ニテ決スル處ノ開港場ニ官吏及ヒ至當ノ教育ヲ受ケ能ク職任ニ堪ユヘキ日本又ハ外國醫士化學士及ヒ相當ノ助役ヲ以テ地方檢疫局ヲ設置スヘシ而シテ其局員ノ數ハ其港入船ノ多寡ニ應シテ増減アルヘシト雖檢疫一切ノ事務ヲ速ニ整

理スルニ差支ナキヲ以テ足レリトスヘシ
都テ此地方檢疫局ハ中央衛生會ノ管轄ニ屬スヘシ

第三條 政府ハ檢疫停船規則ヲ施行スル各開港場ニ於テ停船場ヲ定メ且虎列刺患者ヲ容ルヘキ病院並ニ該病ノ疑アル患者ヲ容ルヘキ病院ヲ建設シ且遺骸ヲ處置スヘキ地消毒法ヲ施行スヘキ場所并ニ停留セラレタル人ノタメ都テ必需ノ具ヲ備ヘタル屋舎ヲ設置スヘシ

第四條 檢疫信號旗ヲ掲ケタル番船ヲ各港口ノ近傍ニ置キ各船入港ノ前検査ノタメ之ヲ停止シ地方檢疫局ノ人員少クモ二名ヲ派出シテ之ヲ検査スヘシ但右局員ノ内一名ハ必ス醫士タルヘシ而シテ船長醫士或ハ船内ノ人ハ誰ニテモ檢疫官吏ノ尋問ニ對シ都テ之ニ應答シ又所定ノ式紙ニ事項ヲ記入シ其氏名ヲ記シタル明告書ニ調印シテ差出スヘシ

船長ハ檢疫官吏ノ求メニ應シ船内ノ各部ヲ開キ検査ヲ受クヘシ但艙ハ航海中船客又ハ乗組人ニテ占居シタル片又ハ他ノ事故ニ依テ病毒ニ感染シタル恐レアル片ハ其検査ヲ受クヘシ

檢疫官吏ハ該船ノ航海日記ヲ査閲シ乗組人及ヒ船客ノ人名録ヲ船内現在ノ人員ト引合スコトヲ得ヘシ

第五條 虎列刺病流行セサル港又ハ其疑ナキ港ヨリ來航スル船ノ船長ハ明告書及其他ノ手續ヲ以テ該船有病ノ港又ハ其疑アル港ニ立寄ラス又有病ノ船舶若クハ其疑アルモノト直チニ交通セス且ツ航海中眞性虎列刺病又ハ疑似症ヲモ船内ニ發セシモノ無キ旨ヲ証明シテ檢疫官吏ヲ満足セシムル片ハ該船ハ直チニ入港スルコトヲ得ヘシ
軍艦ハ其艦長及醫官ニテ調印セル書而チ以テ前條ノ趣ヲ明告スル迄ニテ足レリトスヘシ而シテ該艦ハ検査ヲ經ス入港スルヲ得ヘシト雖モ若シ右ノ書面ヲ差出サ、ル片ハ檢疫停船規則ニ從フヘシ

第六條 船内ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ニ罹リタル者無シト雖モ有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ルカ又ハ其航海中直ニ有病ノ船若クハ其疑アルモノト交通シタル船舶及ヒ船内ノ人員ハ其港ヨリ出帆ノ日又ハ有病若クハ其疑アル船ト交通ノ日ヨリ起算シテ七日ノ期滿ツル迄ハ停留セシムヘシ但地方檢疫局ニ於テ右ノ時間ヲ短縮スルモ差支ナキト認ムル片ハ此限ニアラス
右七日ノ期該船來着ノ上又ハ其前既ニ過キ去ル片ハ消毒法ヲ行ヒシ上速ニ船客ノ上陸ヲ許スヘシ

一般ノ積荷ハ消毒法ヲ施スニ及ハス自餘ノ物品ハ檢疫官吏ノ見込ヲ以テ消毒法ヲ行ヒ或ハ行ハサルヘシト雖モ爛布古衣夜具ハ勿論其他檢疫官吏ニ於テ殊ニ危険ナリト

見込ムモノハ消毒法ヲ行フヘシ

消毒法ヲ行ヒタル物品ハ速ニ陸揚スルヲ得ヘシト雖モ消毒法ヲ行ハサル物品ハ停船ノ定期滿ル迄陸揚スヘカラス若シ停船中眞性虎列刺及疑似症ヲ發スルキハ其船及ヒ人員物品ハ都テ第八條第九條ニ從ヒ處置スヘシ

第七條 有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ル軍艦ハ其艦長及ヒ醫官ヨリ書面ヲ以テ該艦來港前七日以内艦内ノ者有病ノ港或ハ其疑アル港ニ上陸セシト無ク又ハ病毒感染ノ恐ナク且航海中艦内ニ眞性虎列刺病又ハ疑似症ヲ發セシト無キ旨ヲ明告スルキハ直ニ入港スルヲ得ヘシ右ノ書面ヲ差出サ、ルキハ該艦ハ檢疫停船規則ニ從ハシムヘシ

第八條 船舶來港ノ上其艦内ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スル者アルキハ檢疫官吏ニテ指示シタル停船場ニ移シテ要用ノ消毒法ヲ行ヒシ日ヨリ起算ノ七日ノ間停船セシムヘシ

船舶來港前病毒消滅シ而シテ檢疫官吏ノ満足スヘキ方法ヲ以テ消毒法ヲ施行セル上ハ地方檢疫局ニ於テ可トスル程停船ノ時間ヲ短縮シ得ヘシ

消毒法施行後停船中眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スル者アルキハ地方檢疫局ノ必要ト考斷スル程消毒法ヲ反覆施行シ其施行ノ時ヨリ起算シテ尙三日間停船セシムヘシ但最初定メタル時限三日以上アルトキハ最初定メタル時限ニ達スル迄停船セシム

ヘシ

患者及ヒ死者ノ遺骸ハ第九條ニ從ヒ處置スヘシ

第九條 前條ニ記スルカ如キ船舶ノ來着スルニ方リ其乗組ノ患者未タ癒エサレハ其容体ニ依リ之ヲ避病院ニ移シ若シ己ニ死シテ遺骸ノ處置未タ濟マサルキハ其爲メニ設ケタル場所ニ於テ火葬スルカ又ハ其關係アル者ノ望ミニ任セテ十分消毒法ヲ行ヒテ後埋葬スヘシ

患者及ヒ遺骸ヲ船中ヨリ他ニ移シタル後夜具衣類其他ノ物品及ヒ船内何レノ部分ニテモ病毒感染ノ恐アル者ハ地方檢疫局ニ於テ指示セル如ク十分ニ消毒法ヲ施スヘシ而シテ消毒法ヲ施ス爲メ要用ノ人ト船中ヲ取締ルヘキ人トノ外都テ船内ノ人員ハ其人ノ爲メ特ニ設ケル所ノ家屋ニ移シ消毒法ヲ行フヘシ船内ニ殘リタル人員ハ船内ニ於テ消毒法ヲ受ケルカ又ハ交代シテ陸上ニアル適當ノ家屋ニ於テ之ヲ受クヘシ

第十條 有病ノ港或ハ其疑アル港ヨリ出帆シ途中ノ港ヲ經ルト雖モ其港ニ於テ檢疫處置ヲ受ケサル船舶ハ直チニ有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ルモノト認メ處置スヘシ

第十一條 定期郵便ヲ運搬スル諸船ハ着港ノ上速ニ其郵便物ヲ運送スルヲ得ヘシ而シテ政府ハ右ノ郵便物ヲ運送配達ノ爲メ至當ノ方法ヲ設クヘシ

在ル患者ヲ尋訪セント欲スル人ハ地方檢疫局ニ於テ定メタル方法ニ從フヘシ
避病院ニ關係ナキモ醫業ニ達シタル醫士ハ患者又ハ其代理人ノ請ニ由テ診察協議ス
ルヲ得ヘシ

患者ハ醫士ヨリ退院ヲ許ス迄ハ病院ヲ退去スルヲ得ス

第十三條 船中ニ於テ眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スルヲナキ時ハ停留セラレタル
人ヲ船中ニ停メ置テ得ヘシ又ハ地方檢疫局ニ於テ衛生上ノ見込ニ從ヒ特ニ陸地ニ
設ケアル避病ノ場所ニ移サル、コアルヘシ

第十四條 檢疫停船規則施行ノ港ニ來着スル船舶ニ於テ檢疫官吏之ヲ虎列刺ノ源因ナ
ラント思考スル病疑似ノ徵ヲ發スル者アルトハ其患者ハ病院ノ別室ニ移シ船ハ醫士
ニ於テ其病症ヲ審斷スルニ充分ノ時間ヲ終ル迄停留セシムヘシ但其時間ハ四十八時
ニ過クヘカラス而シテ地方檢疫局ハ醫士ノ報告ニ依リテ該規則ノ内其場合ニ適スル
條款ヲ實施スヘシ

第十五條 有病ノ港又ハ其疑アル港ヲ發シ船用品或ハ荷物積込ノ爲メニ途中檢疫所ノ
設ケアル無病ノ一港ニ立寄タル船舶ハ豫メ檢疫官吏ノ検査ヲ經且ツ必要ト認メタル
消毒法ヲ行ヒ船用品或ハ貨物ヲ積入ル、毎ニ地方檢疫局ヨリ指示スル方法ニ從フ可
シ

又該船内ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發シタルトハ該船又ハ其乗込人及ヒ物品ヲ
處置スルハ第八條第九條ニ準スヘシ但シ該船内ヨリ上陸スル者アルトハ他船ニテ到
着シタル人ニ行フヘキ同一ノ處置ヲ爲スヘシ

第十六條 船舶ノ検査ハ其來着後成ルヘク速ニ施行スヘシ若シ來着後十二時間ヲ過キ
テ検査ヲナサ、ル時ハ入港スルヲ得ヘシ但シ其遲延天氣惡キカ爲ノカ又ハ避ケ難キ
事情アルガ爲カ又ハ船長若クハ該船ニ關係アル人ノ所行或ハ詐偽ニ出ツルカノ時ハ
此限ニアラス其場合ニ於テハ其遲延シタルノ事故終リタルト検査ヲ爲スヘシ

第十七條 地方檢疫局ヨリ指圖シタル消毒法ハ檢疫官吏之ヲ施行シ其船ノ士官及ヒ船
員之ヲ補助スヘシ但消毒ハ之ヲ命シタル時ヨリ成ヘク二十四時間ニ完了シ而シテ其
入費ハ船主又ハ其責アル者ヨリ辨償スヘシ

第十八條 檢疫停船規則ヲ施行スル港内ニ碇泊中船内ニ眞性虎列刺病又ハ疑似症ヲ發
シタル船舶ハ直ニ第八條第九條ノ規則ニ從フヘシ

然リト雖モ若シ其船既ニ本港ニ於テ停留ヲ經タル時ハ檢疫官ハ地方檢疫局ニテ必要
ト考斷スル丈ケノミノ消毒及ヒ検査ノ方法ヲ反覆施行スヘシ

第十九條 虎列刺病既ニ流行スル港内ニ來着スル船舶検査消毒患者及ヒ死者ノ處置
ヲ爲スハ前記ノ規則ニ從ハシムヘシ右ヲ施行スル爲メノ豫備ハ政府ニ於テ爲スヘシ

ト雖モ船及ヒ人員停留ノ規則ハ休止スヘシ

第二十條 第六條第八條及ヒ第九條ニ記スル船舶ノ景狀地方檢疫局ニ於テ特ニ公衆ノ健康ニ危險ナリト思慮シ非常ノ處置ヲ必要トスルハ此規則外ニ豫防ノ嚴制ヲ施スヲ得ヘシ其場合ニ方リテ地方檢疫局ハ直ニ中央衛生會ニ臨時ノ報告書ヲ差出スヘシ而シテ右報告書ノ寫ハ請求ニ依リテ地方檢疫局ヨリ之ヲ該船ノ船長船主又ハ其用達ニ付與スヘシ

第二十一條 検査中又ハ停留中ノ船舶又ハ停留人ノ寓所ニハ凡ソ何人ヲ問ハス地方檢疫局ノ許可ナクシテ行クヲ許サス

第二十二條 前條ノ規則ヲ施行スルニ就テ其人係ルニ所ノ食料醫藥其他欠クヘカラサル費用ハ其本人又ハ代理人ヨリ辨償スヘシ

第二十三條 此規則ニ背キ或ハ從フヲ拒ム者ハ犯ス毎トニ貳百圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ若シ其船長船主若クハ其船ノ用達又ハ其各人若クハ一人ノ命令又ハ利益ノ爲メ此規則ニ背キ或ハ從フヲ拒ム者ハ每犯罰金五百圓ニ至ルマテ増加スルコアルベシ此規則ニ就テ拂フベキ費用ヲ辨償セサルモノアルハ民事ノ訴訟ヲ以テ之ヲ要求スベシ

但シ罰金ハ科セザルベシ

此規則ヲ犯シ停留場ヲ脱去スル者ハ罰金ヲ科シ且即時停留場ニ返ラシムベシ

○賣藥規則

(明治十年一月廿日第七號布告)

賣藥規則別冊ノ通相定候條此旨布告候事

賣藥規則

第一章

第一條 十年十二月二十八日第八十九號布告ニテ改正 此規則ニ稱スル處ノ賣藥トハ丸藥、膏藥、煉藥、水藥、浴劑、散藥、煎藥等ヲ調製シ効能書ヲ附シ販賣スルモノヲ云フ

第二條 此賣藥營業者ハ藥味分量用法服量功能ヲ詳記シタル書ニ族籍氏名ヲ記シ其管轄廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

第三條 管轄廳ニ於テハ願書ヲ検査シ其製藥配伍ノ藥品劇毒微毒ニ拘ハラヌ取扱上失誤ヲ生シ易キモノ及ヒ毒藥劇藥取締ニ關係スルモノハ之ヲ許サ、ルヘシ

第四條 第八條ニ記シタル期限中藥味分量用法服量能書ヲ改正セント欲スルモノ其由ヲ届出舊鑑札ヲ返納シテ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ

第五條 十年十二月二十八日賣藥ヲ請賣セント欲シ其營業者ノ許諾ヲ得タルモノハ族籍氏名ヲ記シタル願書ニ營業者所持ノ免許鑑札寫及ヒ營業者ト取結タル約定書トヲ

添へ其轄廳へ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

第六條 賣藥營業者及ヒ請賣者共必ス免許ノ看板ヲ掲クヘシ

第七條 賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自カラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サシメント欲スルトキハ其山ヲ管轄廳へ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之ノヲ所持スヘシ

第八條 營業鑑札請賣鑑札行商鑑札ハ其鑑札記載ノ日ヨリ滿五年ヲ以テ免許ノ期限トス此期限ヲ過キ尙免許ヲ得ント欲スル者ハ舊鑑札ヲ返納シ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ

第九條 第八條ニ記シタノ期限中第四條ノ改正發賣ヲ願出之ヲ免許スル時ハ新鑑札記載ノ月ヲ以テ一期ノ初日トナスヘシ

第十條 免許期限内ト雖モ其間藥第三條ニ掲クル處ノ有害品ナルヲ更ニ發見スル時或ハ營業者製藥ヲ粗惡ニスル等ノコアル時ハ直ニ鑑札ヲ取上ケ發賣ヲ禁止スルコアルヘシ

第十一條 營業者廢業スルカ又ハ禁止セラル、時ハ其請賣者及ヒ賣子共其販賣ヲ許サス

第十二條 請鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難ニ因テ毀失シタル時ハ其仔細ヲ詳記シテ管轄廳へ届出再ヒ之ヲ願受クヘシ

第十三條 免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サント欲スル者ハ双方通印ノ願書ヲ管轄廳ニ差出シ名前書換ヲ請フヘシ

第十四條 十年十二月第八十號布告ニテ改正賣藥營業者及ヒ請賣者免許期限中其相續人ニ於テ之ヲ相續スル時ハ其山ヲ記シ管轄廳へ鑑札名前書換ヲ請フヘシ

第十五條 賣藥營業者廢業シ若シハ禁止セラレタルキハ營業者ハ勿論其請賣者ニ於テモ總テ請鑑札ヲ返納スヘシ

第二章

第十六條 賣藥營業者及ヒ請賣者ハ左ノ通税金并鑑札料ヲ上納スヘシ

賣藥營業稅

藥劑一方ニ付一ケ年

金貳圓

六鑑札料

藥劑一方ニ付一枚

金廿錢

賣藥請賣鑑札料

藥劑ノ方數ニ拘ハラス一枚

金廿錢

賣藥行商鑑札料

藥劑ノ方數ニ拘ハラス一人一枚

金廿錢

第十七條 水火盜難ニ因リ鑑札ヲ毀失シ更ニ新鑑札ヲ願受ル時ハ其鑑札料ノ半高ヲ納ムヘシ

第十八條 税金ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ七月三十一日限り後半年分ハ翌年一月三十一日限り鑑札料ハ其都度並ニ管轄廳ニ上納スヘシ

第十九條 税金ハ六月以前免許ノ者ハ全年分七月以後ハ半年分廢業ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分ヲ納ムヘシ

但第十條ノ有害品ナルヲ更ニ發見セシ時ニ限リ月割チ以テ税金ヲ納メシムヘシ

第三章

第二十條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者及ヒ之ヲ貸ス者又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者ハ其鑑札ヲ取上ケ藥劑一方ニ付五圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十一條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ請賣スル者及ヒ無鑑札ノ者ヲシテ請賣セシメ又ハ鑑札ヲ貸ス者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付拾圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十二條 免許ヲ受ケスシテ私ニ藥味分量用法服量施書等ヲ改更シ又ハ許可ヲ經スシテ無稽ノ妄説ヲ記載シ世人ヲ術惑スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付拾圓以上貳拾五圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十三條 無鑑札ニテ營業スル者ハ其製藥及ヒ賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付貳拾五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十四條 諸鑑札ヲ偽造シ又ハ他人ノ賣藥ヲ贗造シテ發賣スル者ハ其製藥及ヒ其賣

得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付五拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十五條 私ニ有毒藥ヲ配伍スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥及ヒ其賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十六條 以上ノ犯則者ヲ見届ケ訴出ル者アル時ハ事實取糺ノ上相違ナキニ於テハ其賞トシテ其罰金ノ半高チ與フヘシ

(十年二月七日第十六號布告)

本年一月第七號ヲ以テ賣藥規則布告候處該規則第三章罰則ノ儀ハ來ル六月一日ヨリ施行候條此旨更ニ布告候事

但諸鑑札授受稅納其他手續等ノ儀退テ內務省ヨリ可相達事

(五年五月三日第四百四十二號布告)

鼠取或ハ蠅取藥ト唱ヘ礬石ノ類ヲ調合致シ世間ニ賣買致來候處自今令禁止候事

(十年三月廿二日內務省乙第三十六號府縣)

從來燐製ノ鼠取藥ヲ以賣藥トナシ候儀聞届鑑札下渡候向有之候處右ハ毒藥ニテ到底民間誤用ノ虞ナキヲ覓レヌ殊ニ本年太政官第二拾號毒藥劇藥取扱規則公布相成取締上ニモ關係候ニ付自今一切禁止候條右營業者有之府縣ハ其旨相達速ニ鑑札返納可取討此旨相達候事

但請賣藥ノモノモ同様賣藥規則ニ照シ禁止之處分可相達事

〇藥品取扱規則

(明治十三年一月十七日第一号布告)

藥品取扱規則左ノ通相定來ル二月十五日ヨリ施行シ明治十年二月第二十號布告毒藥劇藥取扱規則ハ右同日限相廢候條此旨布告候事

藥品取扱規則

第一條 凡ソ藥品中最注意シテ精選スヘキモノヲ第一類注意藥トシ其性効峻烈ニシテ僅少ノ分量ト雖モ直チニ生命ヲ傷害スルニ至ルヘキモノヲ第二類毒藥トシ其性効第二類ノ如ク峻烈ナラサルモ用量ニ因テ容易ニ危害ヲ來スヘキモノヲ第三類劇藥トス其類目別表ノ如シ

但新クニ發見及ヒ舶齋シタル藥品ハ先ツ最寄司藥場ニ出シテ試檢ヲ受ケ其告示スル所ニ從フヘシ

第二條 第一類藥品ハ其性効ノ緩劇ニ拘ハラス若シ精良ナラサルトキハ醫師ノ目的ヲ誤リ以テ人命ヲ危フスルカ故ニ其粗製品(故意ニ他物ヲ混シタルニアラス全ク化學製造上或ハ採收ノ際其疎漏ニシテ純精ナラサルモノ、類ヲ云フ)ハ之ヲ藥用トシテ販賣スヘカラス

但藥舖ニ於テ自ラ其良否ヲ鑑別シ能ハサルトキハ最寄司藥場ニ請ヒ無費ニテ其試檢ヲ受クルコトヲ得

第三條 第一類中ノ粗製品ト雖モ仍ホ學術上工職上等ノ用ニ供スルニ足ルモノハ粗製ノ字ヲ其器ニ明記シ之ヲ販賣スルコトヲ得

第四條 第二類第三類ノ藥品ハ醫師ノ處方書ニ據テ調合スルノ外醫師藥舖化學者製藥者工職者等ヨリ品名量數需用ノ目的年月日及ヒ住所姓名ヲ詳記シタル證書ヲ以テスルニアラサレハ決シテ販賣或ハ授與スヘカラス

但證書處方書ハ之ヲ保存シ臨時ノ點檢ニ供スヘシ且本條ノ手續ニ依ルモノト雖モ幼稚ノモノ其他不安心ト認ムルモノニハ一切交付スヘカラス

第五條 第二類第三類ノ藥品ヲ販賣スルトキハ其器若クハ包紙ニ必ラス普通ノ名稱ヲ記シ且第二類ハ毒ノ字第三類ハ劇ノ字ヲ明記スヘシ

但醫師ノ處方書ニ據ラスシテ封緘ヲ開キタル第二類第三類ノ藥品ヲ小賣若クハ授與スルトキハ本文ノ外更ニ適應ノ器ニ入レ密閉封印スヘシ

第六條 第二條第四條本文ニ背戻シ又ハ贗品(故意ニ他ノ物品ヲ本品ニ混合シテ其容量重量ヲ増スモノ若クハ他ノ物品ヲ以テ本品ニ擬シ或ハ名箋ヲ變換スルモノ、類ヲ云フ)敗品(總テ酸敗、風化、或ハ潮解シ若クハ黴壞ヲ生シ陳敗ニ傾ク等)因リ其藥品

藥品取扱規則

本性ノ効力ヲ變シ或ハ其効力ヲ失スルモノ、類ナ云フ）ヲ販賣スルモノハ其贖敗品
 ヲ没入シ三拾圓以上五百圓以下ノ罰金若クハ一月以上一年半以下ノ懲役第一條但書
 第四條但書及第三條第五條ニ背戾スルモノハ一圓以上二十五圓以下ノ罰金若クハ一
 日以上二十五日以下ノ懲役ヲ科シ又ハ罰金懲役ヲ併セ科スヘシ
 第七條 右ノ罰則ヲ再犯スルモノハ其本罪ノ最多限ニ二倍以下ノ罰ヲ科シ三犯スルモ
 ノハ本罰ノ最多限ニ三倍以下ノ罰ヲ科スヘシ

第一類(注意藥)表

- 印度大麻葉及其製劑
- 麥奴及其製劑
- 乳酸鐵
- 吐根
- 硃砂精(アンモニア水)
- カラハル豆及其製劑
- ヨチウム
- 沃土鐵舍利別
- 第一コロール汞(甘汞)
- 第二コロール汞(鼻汞)
- 莫若葉並根及其製劑
- 番木鱈子及其製劑
- ペプシチ
- 吐酒石
- デキタリス葉及其製劑
- 肝油
- 沃土加里
- 第一沃土汞(黃色沃汞)
- 第二コロール汞(鼻汞)

- 炭酸アンモニヤ(硃砂華)
- 蔓陀羅華及其製劑
- 芫菁(班猫)
- コロラルヒドライト
- 格魯望篤實及其製劑
- 阿片製劑
- 醋酸アンモニア水(ミンデレリ精)
- サリニール酸及鹽類
- 規尼涅鹽類
- 硝酸銀
- 修酸セリウム
- エーテル(アール)
- ヒヨス葉及其製劑
- 莫爾比涅鹽類
- 老利爾結兒私水並苦扁桃水
- 葯刺巴脂並球根及其製劑
- コロ、フォルム
- 格魯失屈謨實及其製劑
- アトロヒネ鹽類
- サントニーネ
- 機那皮
- 綿馬及其製劑
- 失鳩答草及其製劑
- 臭素加里(ブロームカリウム)
- 臭素剝篤亞私
- 鹽基性硝酸蒼鉛
- 覽麻子油
- 水素還元鐵
- カンタリデーネ

第二類(毒藥)表

磷

クラーン (矢毒、ウラ、)

亞砒酸 (異名 白砒石、砒石、) 其製劑及砒抱合物 (冠、

雄黃、雌黃ノ類)

揮發苦扁桃油

有毒性アルカロイド並其鹽類

ニコチン ○ギキタリ子 ○ナルセー子 ○ヴェラトリ子 ○ブルシ子 ○ユニ子 ○コデ
ー子 ○アトロヒ子 ○アコニチ子 ○エメチ子 ○ヒヨシアミ子 ○モルヒ子 ○ストリキ
ニー子 等

猛劇汞劑

白降汞 ○第一沃汞 ○第二沃汞 ○昇汞 ○赤降汞 ○硝酸亞酸化汞 ○青酸汞 ○生々乳

青酸及其製劑

第三類 (劇藥) 表

印度大麻葉及其製劑

莨菪葉並根及其製劑

番木鱉及其製劑

巴豆及巴豆油

麥奴及其製劑

ポドヒリオン

ヘルンボル根及其製劑

吐根及其製劑

吐酒石其他安質莫尼製劑

毒葛苣及其製劑

藤黃

ギキタリス葉及其製劑

硫酸

カラバル豆及其製劑

苛性加里 (腐蝕加里)

苛性曹達 (腐蝕曹達)

芥子油及芥子精

甘汞及輕粉、汞灰散、藍丸

ヨヂウム及其製劑

沃土加里

ヨヂウム鐵

ヨードホルミウム

雙鸞菊球根 (烏頭) 及其製劑

老利爾結兒私水並苦扁桃水

ヅエラトリ根

過酸滿倫酸加里及曹達

藥刺巴脂並球根及其製劑

曼陀羅華葉及其製劑

羌青 (斑猫) 及其製劑

ケレチニート

ブロミウム (臭素)

コロウム酸

コルシウム實並根及其製劑

コロシント實及其製劑

コロ、フオルム (迷朦水)

コロトノコロラルヒドレート

コロラルヒドレート

コロダイン

コロム酸加里及重コロム酸加里 阿片及其製劑

亞鉛華其他亞鉛製劑

サビナ葉及其製劑

醋酸鉛(鉛糖)其他鉛製劑

サントニイ子

次醋酸銅其他銅製劑(酸化銅)

硝酸(硝石精)

硝酸銀

失鳩答葉及其製劑

臭素加里

鹽酸(每鹽精)

鹽化金ナトリウム

鹽酸重土其他重土製劑

鹽基性硝酸蒼鉛其他蒼鉛製劑

エウホルピウム及其製劑

ヒヨス葉及其製劑

石炭酸

瑞香皮及其製劑

スカンモニ脂

(十三年五月十五日第二十三號布告)

石炭酸其他劇藥ハ本年一第一號布告藥品取扱規則第四條ニ照シ可取扱ノ處傳染病流行ノ際ハ内務省布達ニ從ヒ消毒藥ニ調製候分ニ限リ藥舖ニ於テ販賣差許候條販賣望ノ者ハ其管轄廳ニ可願出此旨布告候事

〇藥用阿片賣買並製造規則

(明治十一年八月九日第二十一號布告)

明治三年八月布告生阿片取扱規則ヲ廢シ藥用阿片賣買並製造規則左ノ通相定候條此旨布告候事

俱施行ノ時日ハ退テ内務省ヨリ可相達事

藥用阿片賣買並製造規則

第一條 阿片ノ賣買及ヒ製造ハ藥用品ニ限リ此規則ニ依テ之ヲ許可ス

第二條 藥用阿片ハ其内國產若クハ外國產ヲ論セス總テ内務省ニ於テ其品位ヲ定メテ之ヲ買上ケ然ル後ヲ各司藥場ヨリ阿片御シ賣特許藥舖ニ拂下ケ之ヲ賣捌カシムヘシ
但司藥場ヲ置カサル地方ニ於テハ該地方廳ヨリ之ヲ拂下クヘシ

第三條 各司藥場ヨリ拂下クル所ノ阿片ハ量目壹匁ヲ以テ一器トシ每器司藥場ノ印紙ヲ貼附スヘシ

第四條 地方廳ハ土地ノ廣狹位置ヲ度リ一管内相當ノ人員ヲ限リ藥舖ノ身元人物ヲ選ミテ内務省ニ稟議シ鑑札ヲ受ケテ之ヲ本人ニ交付スヘシ
但廢業ノ者アル節ハ其鑑札ヲ内務省ニ返納スヘシ

第五條 特許鑑札ヲ受タル藥舖ノ住所姓名ハ該管轄廳ヨリ管内ノ公私病院醫師藥舖一般ニ報告スヘシ

但廢業ノ者アル節モ本文ニ準シ速ニ報告スヘシ

第六條 特許鑑札ヲ受タル藥舖ハ其店頭ニ特許藥用阿片賣捌所ト大書シタル看板ヲ掲ケ置クヘシ

藥用阿片賣買並製造規則

第七條 特許ヲ受タル藥舖ハ半年分賣捌ノ高ヲ豫算シ毎年兩度最寄司藥場（司藥場ナ
キ地方ハ該地方廳）ニ申立テ其拂下ケヲ請フヘシ但缺乏ノ節ハ臨時拂下ケヲ請フコ
トヲ得

第八條 凡ソ醫卹病院及ヒ一般藥舖等ニ於テ藥用阿片ヲ要スルハ其量目並ニ其住所
姓名及年月日（病院ハ其名稱及ヒ院長若クハ副長ノ姓名）ヲ記シ關印シタル証書ヲ以
テ特許藥舖ニ就キ之ヲ購求スヘシ特許藥舖ニ於テハ之ヲ賣渡スニ其量目一度ニ四拾
匁ヲ超ヘカラス

但病院及醫師等ニ於テ便宜ニ依リ一般藥舖ニ就キ之ヲ購求スルト一般藥舖相互ニ
賣買スルトハ妨ケスト雖モ必ス本條ノ証書ヲ以テスヘシ且其量目一度ニ八匁ヲ超
ヘカラス

第九條 凡テ内外國人共醫師ノ處方箋ヲ持參シタル者ノ外ハ特許藥舖並ニ一般藥舖ニ
於テ一切之ヲ賣渡スヘカラス

第十條 特許藥舖ハ每半年分阿片拂受並ニ壹匁以上賣捌ノ高及ヒ買入ノ住所姓名並ニ
壹匁以下賣捌ノ總高等明細表正副二通ヲ造リ其管轄廳ニ差出スヘシ尤壹匁以下ノ分
ハ平常其明細ヲ簿記シ置キ臨時取調ノ用ニ供スヘシ
但管轄廳ハ其一通ヲ內務省ニ進達スヘシ

第十一條 醫師病院一般藥舖ニ於テハ每半年必シモ前條明細表ヲ差出スヲ要セスト雖
モ平常其明細ヲ簿記シ置キ臨時取調ノ用ニ供スヘシ

第十二條 藥用阿片ヲ製造セント欲スル者ハ罌粟ノ種類及ヒ培養採收製造ノ方法ヲ記
シ管轄廳ヲ經由シテ內務省ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第十三條 阿片製造人ハ其製造シタル阿片ノ量目ヲ記シ署名關印シタル願書ヲ以テ地
方廳ヲ經由シ內務省ノ買上ケヲ願フヘシ右買上ケヲ受クルノ外決シテ内外人民ニ販
賣スルヲ許サス

但司藥場ニ於テ其品位藥用ニ適セサル者トスルハ地方廳ヨリ其旨ヲ製造人ニ通
知シ其阿片ハ其廳ニ預リ置クヘシ

第十四條 阿片買上ケ及ヒ拂下ケノ代價ハ歲ノ豐凶及ヒ外國一般ノ相場等ニ因テ高低
アルヘシト雖モ其品位ニ應シテ價格ヲ定ムルハ該業主用ノ性分即チ「モルヒテ」ノ多
少ニ因ルヘシ

第十五條 內務省ニ買上ケ及ヒ拂下ケル所ノ阿片ハ百分中「モルヒテ」六分以上十一
分ニ至ル迄ヲ含有スル者ニ限ルヘシ

第十六條 此規則ニ違反スル者ハ其犯情ニ從ヒ阿片賣買若クハ製造ヲ禁シ其所有ノ阿
片ヲ沒收シ百五十圓ヨリ五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

(十一年十一月二日內務省甲第廿七號布達)

本年八月太政官第廿一號布告阿片賣買並製造規則之儀ハ來ル明治十年五月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

〇煙草稅則

(明治八年十月四日第五百五拾號布告)

煙草課稅ノ儀本年二月第二拾八號ヲ以テ布告ニ及ヒ置候處右稅則別紙ノ通相定來明治九年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

煙草稅則

第一則 煙草營業稅

第一條 一 煙草賣買營業ノ者ハ其管廳ニ申出營業鑑札ヲ受ケ年々左ノ通稅納致スヘキ事

但 煙草耕作人ニシテ自作ノ煙草ヲ賣渡ス而已ニテ煙草ヲ請賣セサル者ハ此限ニ非ス

煙草卸賣營業稅

一ケ年 金拾圓

煙草小賣營業稅

一ケ年 金五圓

但 卸賣トハ 煙草商人ニ賣渡スヲ云フ又小賣トハ自用 自己ノ所用ニ供シ賣ノ人

ニ賣渡スヲ云フ

第二條 一 卸賣營業鑑札ヲ受ケ小賣ヲ兼候者ハ別段小賣營業鑑札願受クルニ及ハスト 雖 小賣營業鑑札ヲ受ケ卸賣ヲ兼候儀ハ不相成候事

第三條 一 最初營業鑑札下渡候節爲手数料金ニ拾錢相納ムヘキ事

第四條 一 營業鑑札ヲ受ケタル煙草商人ニ仕入鑑札其管廳ヨリ相渡候條煙草買入ノ節ハ必ス相携ニ可申右鑑札料ハ一枚ニ付金拾錢ツ、相納ムヘキ事

但 仕入鑑札ハ一戸一枚ニ限リ候儀ニ無之素ヨリ買入ノ節必携ノ品ニ付何枚ニテモ 入用丈ケ願ニ依テ相渡スヘキ事

第五條 一 營業稅上納ノ儀ハ年々兩度ニ區別シ半ケ年分宛區戶長ニ取集メ其管廳ニ可 相納事

但 其年前半年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日限其管廳ニ可相納事 第六條 一 新規營業免許ノ者六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分營業免許ノ節直ニ營

業稅相納廢業ノ者七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納稅可致事 但 廢業ノ者ハ其節直ニ營業鑑札仕入鑑札ニ返納致スヘキ事

第七條 一 營業鑑札若シ氷火盜難過誤等ニテ失却候節ハ其旨管廳ニ届出新規鑑札申受 へキ事

煙草稅則

但為手数料金二拾錢相納ムヘキ事

第八條 一營業鑑札仕入鑑札ハ貸借決シテ不相成候事
(八年十一月第十六十五號布告ニテ但書改正)

但改名代換轉居等ノ節ハ其旨管廳へ申立候ハ、鑑札引換可相渡手数料トシテ營業
鑑札ハ金二拾錢仕入鑑札ハ金拾錢相納ムヘキ事

第九條 一卸賣營業ノ者ハ烟草卸賣所ト書記シ又小賣營業ノ者ハ烟草小賣所ト書記シ
タル看板へ免許鑑札ノ番號書加エ戸外ニ掲クヘキ事

但卸賣小賣ヲ兼候者ハ烟草卸賣所ト書記シ看板ヲ掲クヘキ事
(九年四月廿六日第五十九号布告ニテ追加)

第十條 一營業鑑札ヲ受タル烟草商人へハ出賣ノ爲メ願ニ任セ出賣鑑札其管廳ヨリ相
渡候條出賣ノ節ハ必ス相携へ可申右鑑札料ハ一枚ニ付金拾錢ツ、相納ムヘシ尤右營
業商人一名一枚ニ不限何枚ニテモ可相渡事

但遺失其外改名代換轉居ノ節ハ鑑札引換相渡シ候條手数料トシテ更ニ金拾錢相納
ムヘシ

第二則 製煙烟草印稅

第一條 一製造烟草ハ玉作箱詰紙包各種ノ大小斤目ニ不拘自用ノ人エ賣渡ス節ハ總テ
東作疊フ紙等

其代價ニ從ヒ烟草印紙貼用ノ上賣出スヘキ事

但葉烟草ハ總テ印紙相用ユルニ及ハサル事

第二條 一製造烟草印紙種類並定價左ノ通候事

長印紙 二拾五切 定價二錢五厘

印紙 全紙一枚 五厘

印紙 全 壹錢

印紙 全 五錢

印紙 全 拾錢

第三條 一製造烟草印稅割合左ノ通

烟草代價 印稅一厘 但長

五錢未滿 印稅五厘

全五錢以上 印稅壹錢

拾錢未滿 印稅壹錢

全拾錢以上 印稅二錢

二拾錢未滿 印稅二錢

全二拾錢以上 印稅三錢

三十錢未滿 印稅三錢

全三十錢以上 印稅三錢

四十錢未滿 印稅三錢

右以上總テ之ニ準シ印稅增加スヘシ

(八年十二月第二百五号布告ニテ改正)

- 第四條 一煙草印紙貼用方略圖ノ如ク賣主ニ於テ印紙貼用シ其全面ノ中心ヨリ端ニカケ實印或ハ仕切印ヲ押スヘシ
- 第五條 一煙草印紙ハ煙草印紙賣捌所ト大書シ官ノ焼印アル看板ヲ掲クル家ニ限ルヘシ其外ニ於テハ一切賣買禁止ノ事
- 第六條 一仕入鑑札所持ノ煙草商人エ賣渡ス製造煙草ニ限リ印紙貼用ニ及ハス其仕入鑑札ヲ証トシテ賣渡スヘシ尤鑑札所持致サ、ル者エハ無印紙ノ製造煙草決シテ賣渡不相成事

第三則 賞罰例

- 第一條 一卸賣營業鑑札ヲ受ケス營業致シ候者ハ一ケ年營業稅ノ七倍科料可申付事
- 第二條 一卸賣營業鑑札借受ケ營業致シ候者ハ前條同様ノ科料申付ヘシ貸渡候者ハ其鑑札取上ケ一ケ年營業稅ノ五倍科料可申付事
- 第三條 一小賣營業鑑札ヲ受ケス營業致シ候者ハ一ケ年營業稅ノ五倍科料可申付事
- 第四條 一小賣營業鑑札ヲ借受營業致候者ハ前條同様ノ科料申付ヘシ貸渡候者ハ其鑑札取上ケ一ケ年營業稅ノ三倍科料可申付事
- 第五條 一仕入鑑札所持致サスシテ無印紙製造煙草ヲ買受候歟又ハ右所持致サ、ル者

~無印紙製造煙草ヲ賣渡スモノハ各脫稅高ノ二十倍宛科料可申付事

- 第六條 一仕入鑑札借受候者并貸渡候者ハ其鑑札取上ケ枚數ニ應シ鑑札料ノ十倍宛科料可申付事
- 第七條 一煙草印紙ヲ用ユヘキ製造煙草ニ印紙ヲ貼用セズ自用ノ人へ賣出ス者ハ脫稅高ノ二十倍科料可申付事
- 第八條 一煙草印紙ヲ不足ニ貼用セシモノハ減稅高ノ十倍科料可申付事
- 第九條 一官許印紙賣捌所ノ外ニ於テ煙草印紙賣捌致ス者ハ其品取上既ニ賣捌タル印紙代ノ百倍又ハ其情ヲ知テ之ヲ買フ者ハ其品取上ケ印紙代ノ五拾倍科料可申付事
- 第十條 一一且相用ヒタル煙草印紙ヲ剝取リ再用スル者或ハ之ヲ賣買スル者ハ六十圓以下ノ科料可申付事
- 第十一條 一煙草印紙ヲ贗造スル者又ハ贗造セシ品ト知テ之ヲ賣買スル者ハ都テ九十圓以下ノ科料可申付事
- 第十二條 一前數條ニ掲クル處ノ犯則人ヲ見届ケ訴出ル者アルキハ事實取糺ノ上相違ナキニ於テハ其賞トシテ其科料金ノ半高相與候事
- (九年四月廿六日第五十九号布告ニテ追加)
- 第十三條 一出賣鑑札ノ貸借ハ不相成借受并貸渡シタル者ハ其鑑札取上枚數ニ應シ鑑

札料十倍ノ科料申付ヘシ右鑑札ヲ所持セスシテ出賣チナス者ハ鑑札料二十倍ノ科料可申付事

煙草印紙貼用方略圖容ス

(十年二月三日第十四号布告)

一製造煙草ノ儀ハ自用ノ人へ賣渡ス節印紙貼用可致成規ニ有シ候處爾來自用人ノ購求ニ宛テ候製造煙草ハ前以テ印紙貼用致シ可置尤臨時官員派出調査候儀可有之事
右布告候事

(十年十二月七日大藏省布達甲第卅四號)

煙草卸賣小賣兼業ノ者ト雖モ製造煙草ヲ店頭へ展示スル上ハ總テ印紙貼用致置可申此旨布達候事

〇酒造稅則

(明治十三年九月廿七日第四十號布告)

今般酒造稅則別冊ノ通相定本年十月一日ヨリ施行シ從前ノ酒類稅則ハ同日ヨリ廢止候條此旨布告候事

酒造稅則

第一章

免許鑑札

稅率

第一條 凡ソ酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出酒造場一箇所毎ニ

免許鑑札ヲ受クヘシ

第二條 酒類ヲ分テ左ノ三類トシ免許ヲ受ケタル者ハ總テ之ヲ製造スルヲ得ヘシ

一類 釀造酒

清酒濁酒其他釀造
シタルモノヲ云フ

二類 蒸溜酒

燒酎其他蒸溜シ
タルモノヲ云フ

三類 再製酒

銘酒味淋酒白酒等釀造蒸溜ノ酒類ヲ調和
シ又ハ之ヲ元トシ製造シタルモノヲ云フ

第三條 免許ヲ受ケタル者ハ免許稅及造石稅ヲ納ムヘシ其額左ノ如シ

酒造免許稅

酒造場一箇所ニ付金三拾圓

酒類造石稅

一類 壹石ニ付金二圓
二類 壹石ニ付金三圓
三類 壹石ニ付金四圓

第四條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第五條 免許ヲ請フ者ハ毎年九月三十日迄ニ管廳ニ願出ヘシ右期日ヲ過ソレハ免許セザル者トス

第六條 免許鑑札賣讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシキハ其旨管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

酒造稅則

第二章 納税 造石検査

第八條 免許税ハ鑑札申受ケタル時之ヲ納ムヘシ

第九條 造石税ハ左ノ三期ニ納ムヘシ

第一期 四月三十日限十月一日ヨリ三月三十一日迄検査済石數ニ係ル税額ノ半數

第二期 七月三十一日限四月一日ヨリ六月三十日迄検査済石數ニ係ル税額ノ半數

第三期 九月三十日限七月一日ヨリ皆造検査済石數ニ係ル税額並前納額ノ殘數

第十條 造酒ノ石數ハ總テ管廳へ申出検査ヲ受クヘシ

第十一條 前條ノ酒類ハ八月三十一日迄ニ皆造スヘシ

第十二條 自家用料又ハ造酒保存ノ料ニ充テ製造スル酒類ト雖モ總テ管廳ノ検査ヲ受ケ其造石税ヲ納ムヘシ

第十三條 検査未済ノ酒類へ検査済ノ酒類又ハ古酒買入酒等ヲ混和スル者モ其造石税

ハ總石數ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

第十四條 検査未済ノ酒類ヲ届出ノ上他ノ酒類ニ變製第一章第二條中一類ノ酒ヲ二ス

ル時ハ造石税ハ其變製シタル酒類ニ就キ之ヲ納ムヘシ

第十五條 検査済ノ酒類ヲ他ノ酒類ニ變製スル時ハ既ニ検査済ノ石數ニ係ル造石税ヲ

納メ更ニ變製ノ石數ニ就テ造石税ヲ納ムヘシ

但變製ノ節ハ必ス管廳へ届出テ検査ヲ受クヘシ且製成ノ上ハ第十條ノ手續ニ據リ検査ヲ受クヘシ

第十六條 皆造期限前ニ於テ非常ノ損害ニ罹リタル酒類ハ直ニ管廳へ申出検査ヲ受クヘシ

第十七條 前條検査ノ上再ヒ酒類ニ製成スル者ハ其石數ニ應シ造石税ヲ納ムヘシ其製

成スルヲ得サル者及ヒ廢棄シタル者ハ其石數ニ係ル造石税ヲ免除ス

第十八條 葡萄酒及ヒ麥酒ノ類ヲ製造スル者ハ免許税ヲ納ムヘシト雖モ造石税ハ之ヲ

免除ス

第十九條 酒造中ハ管廳主任官員時々巡回スヘキニ付何酒類ヲ問ハス其仕込タル酒モ

ト其他仕込米及ヒ營業ニ關スル諸帳簿等ノ検査ヲ受クヘシ

第二十條 酒桶瓶類ハ新製修繕ヲ問ハス使用以前管廳へ申出其容量ノ検査ヲ受クヘシ

但賣買等ハ其時々管廳へ届出ヘシ

第三章 禁令 雜令

第二十一條 酢及ヒ酒モトヲ販賣スルヲ許サス

第二十二條 都テ他ノ依托ヲ受ケ酒類ヲ代造スルヲ許サス

第二十三條 検査未済ノ酒類ヲ販賣シ又ハ自家ノ所用ニ消費スルヲ許サス

第二十四條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第二十五條 造酒^{搾リ}蒸溜^器器械ニハ管廳主任官員ノ封緘ヲ受ケ置キ使用スルキハ其旨申出開封ヲ請フヘシ

但過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルトキハ直ニ管廳ヘ届出再封ヲ請フヘシ

第二十六條 免許ヲ受タル者ハ其節管廳ヘ該一期造酒見込ノ種目石數並ニ其造リ方法共届出ヘシ

但種目變換並見込石數ノ増減等ハ其時々届出ヘシ

第二十七條 酒造ニ屬スル倉庫納屋並ニ諸器械共豫テ管廳ヘ届出ヘシ
但増減ハ其時々届出ヘシ

第二十八條 一期造酒届出ノ石數何酒何石造ト書シタル標札ニ免許鑑札ノ番號ヲ書載シ之ヲ戶外ニ掲出スヘシ

第四章 罰令

第二十九條 免許鑑札ヲ受ケスシテ製造シタル者ハ其酒類及ヒ製造諸器械トモ沒收シ免許税額二倍ノ金額ヲ科シ之ヲ賣捌キタル者ハ其石數ニ相當スル造石税三倍ノ金額ヲ併セ科スヘシ
但シ本文酒類並ニ諸器械ヲ己ニ賣捌キタルモノハ其代價ヲ追徴スヘシ

第三十條 免許鑑札ヲ借受ケ製造スル者ハ第廿九條ニ據テ處分シ之ヲ貸與ヘタル者ハ其鑑札取揚ケ免許税相當ノ金額ヲ科スヘシ

第三十一條 造酒石數ノ検査ヲ受ケズシテ賣捌キタル時ハ其代價ヲ追徴シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石税三倍ノ金額ヲ科スヘシ

第三十二條 検査ノ際酒類ヲ隱蔽シタル者ハ其酒類ヲ沒收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石税三倍ノ金額ヲ科スヘシ

但未製成ノ酒類(もとろみノ類)ト雖隱蔽シタル者ハ本條ニ據テ處分ス

第三十三條 検査未済ノ酒類ヲ自用ニ消費シタル者ハ其石數ニ係ル造石税ニ相當スル金額ノ三倍ヲ科スヘシ

第三十四條 前條々ニ明記スルモノ、外第三章中ノ正條ニ違犯スル者ハ一圓ヨリ少ナカラス三拾圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科スヘシ

附則

酒造營業者ニアラスシテ自家飲料ノタメ酒類ヲ製造スルモノハ一ケ年一石^{各種製造}ハ其總數ニ超ヘカラス若シ一石ヲ超ルトキハ總テ本則ニ從フヘシ

〇釐麴營業稅則

(明治十三年九月廿七日第四十一號布告)

醬麴營業稅則別冊ノ通相定本年十月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

醬麴營業稅則

第一章 免許鑑札 營業稅

第一條 凡ソ醬麴(釀造酒類ノもと)ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其管廳ニ願出製
造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受ケ一期營業稅トシテ左ノ通納ムヘシ

醬麴營業稅 金五拾圓

第二條 營業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條 一期中何月ニ新規免許ヲ受ケルモ營業稅ハ直ニ管廳ヘ納ムヘシ

第四條 免許ヲ受ケタル者ハ其一期中販賣見込ノ石數毎年十月中管廳ヘ届出ヘシ

第五條 販賣ノ節ハ石數並ニ購求者居所姓名及ヒ年月日等遺漏ナク帳簿ニ記載シ置キ
翌年十月中管廳ヘ差出シ檢査ヲ受ケヘシ

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ願出再渡又ハ書換
ヲ請フヘシ

第八條 免許ヲ受ケタル者ハ醬麴賣捌所ト書シタル標札ヘ免許鑑札ノ番號ヲ記載シ戶
外ニ掲出スヘシ

第二章 禁令 罰令

第九條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第十條 免許鑑札ヲ受ケズ醬麴ヲ營業スル者ハ科料トシテ其營業稅二倍ノ金額ヲ徵ス
ヘシ

第十一條 前明條ノ外販賣ノ節石數並ニ購求人ノ居所姓名等ノ帳記ヲ怠ルカ其他本則
ニ違犯スル者ハ科料トシテ一圓ヨリ少ナカラス五拾圓ヨリ多カラサル金額ヲ徵スヘ
シ

〇牛馬賣買規則

(明治五年十一月四日第三百三十號布告)

牛馬賣買渡世之者免許稅ノ儀昨辛未十二月中大藏省ヨリ相達候處今般別紙規則書之通
相定候條各管内共區々ノ取計無之様可致候事

別紙

牛馬賣買渡世之者免許稅ノ儀昨辛未十二月相達候處今度御詮議ノ次第モ有之別紙之
通規則相定候條是迄相渡候免許鑑札ハ引換相渡シ引上ケ候分ハ各府縣廳ニ於テ取纏
メ燒捨其段可申立候其餘ハ規則ニ隨ヒ所置可致事

規則

牛馬賣買規則

第一條 一各管轄所ニ於テ其管下牛馬賣買渡世之者取調牛馬一鼻綱ニ付免許鑑札一枚相渡可申事

但一鼻綱ハ牛馬共七疋ニ限鑑札一枚ヲ所持スル者旅行之時ハ七疋以內二枚ヲ所持スル者ハ十四疋ニ限ルヘシ其餘準之可申事

第二條 七年四月二十日布告第一號ヲ以テ免許鑑札新規願受候者六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅シ廢業ノ者七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納稅可致事

第三條 一免許鑑札萬一燒失流盜難等ニテ失ヒ候モ有之其段申出候ハ、事實取調鑑札相渡可申事

第四條 一免許鑑札一枚ニ付一ケ年稅金壹圓上納可致事
(八年七月七日布告第百十五號ヲ以テ書改正)

但右稅金ハ每年二月八月兩度ニ半額宛各管轄ヘ取立租稅寮ヘ上納可致尤新規免許ノ者ハ其都度半額直ニ取立上納可致候事

第五條 一免許鑑札燒印并ニ押切判ハ雛形ノ通其管轄所ニテ製造致シ各稼人共ニ相渡可申事

但鑑札相渡次第稼人共國郡町村名及ヒ名面等詳細取調右鑑札印鑑相添當省ニ可差出事

第六條 一右様取締相立候上ハ向後無鑑札ニテ賣買不相成萬一無鑑札ニテ密々賣買候者有之相顯ルニ於テハ牛馬共取上ケ免許稅十倍之料可申付事

但密賣買候者他ヨリ見出シ訴出ルニ於テハ其訴主ニ取上ケ牛馬拂代金ノ十分ノ二褒美トシテ被下候事

第七條 一取上牛馬拂代并料金等之儀ハ第四條但書ニ照準上納可致事

第八條 一此規則施行ニ付候諸人費ハ一ケ年試驗之上可申立事

第九條 七年十二月三日布告第百三十一號ヲ以テ此條追加 一免許鑑札ハ貸借決テ不相成候事

但免許鑑札借受賣買スル者ハ規則第六條密賣買ノ廉ニ照シ處分可致貸渡シ候者ハ免許稅五倍ノ料可申付事

右之通規則相定候事 (鑑札雛形略ス)

〇車稅規則

(明治八年二月廿日第二十七號布告)

明治六年一月第三十一號布告僕婢馬車人車駕籠乘馬遊船諸稅規則昨七年十二月三十一日限リ相廢シ尤遊船ノ儀ハ本年一月一日ヨリ昨七年二月第二十一號布告解漁船並ニ海川小廻船稅規則ニ照準收稅シ車類ノ儀ハ改テ車稅規則左ノ通相定同月同日ヨリ施行候條此旨布告候事

車稅規則

第一則

一馬車二疋立以上

壹ヶ年稅金三圓

一同 一疋立

壹ヶ年稅金貳圓

一荷積馬車

壹ヶ年稅金壹圓

一人力車二人乘

壹ヶ年稅金貳圓

一同 壹人乘

壹ヶ年稅金壹圓

一牛車

壹ヶ年稅金壹圓

一荷積大七八大車

壹ヶ年稅金壹圓

一荷積中小車但大六以下

壹ヶ年稅金五拾錢

第二則 新調ノ車ハ總テ其都度區戶長へ届出檢印可申受事

但從來所持ノ分ニテ檢印無之牛車荷積車等ハ更ニ檢印可申受事

第三則 一新調ノモノハ六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅シ破解ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納稅候儀ト可相心得事

第四則 一右稅金上納ハ年々兩度ニ區別シ半ヶ年分宛區戶長へ取集メ其管轄廳へ可相

納事

但前半年分ハ其年七月三十一日限り後半年分ハ翌年一月三十一日限り其管轄廳へ可相納事

第五則 一荷積車等ノ内耕作一途ニ相用候ハ免稅タルヘキ事

第六則 一諸車類無届ニテ營業スル歟又ハ使用スル者ハ其脫稅高ノ五倍料料タル可事

(八年三月廿四日大藏省乙第四十號府縣)

本年第二十七號公布車稅規則中第五則荷車ノ内耕作一途ニ相用候車類ハ車稅免除ノ檢

印(免稅)ヲ爲取締一車毎ニ燒記候上免稅致シ候儀ト可相心得事

(九年四月廿八日公達第百四十四號使府縣)

皇族並各官廳所用ノ諸車從前府縣稅徵收不相成候處自今御車ヲ除クノ外ハ徵收致シ不

苦候條此旨相達候事

(九年八月十四日公達第百四十五號院省使廳府縣)

本年^四月第四十四號ヲ以テ官車課稅ノ儀相達候處陸海軍省軍用車輛ハ課稅相除キ可申此

旨相達候事

(十一年七月十五日大藏省乙第三拾五號府縣)

車稅規則荷積車ノ儀ハ荷臺^{全シ}荷物ヲ積^{載スル}場所ノ縱橫相乘尺積十四坪以上ヲ以テ大七車以上

トシ右未滿ヲ以テ中小車大六以下ト相心得更ニ區分可致此旨相達候事

〇度量衡改定規則

(九年二月十九日第十七號布告)

度量衡三器別紙種類表ノ通改定候條左ノ規則ノ通可相心得此旨布告候事

度量衡改定規則

第一條 三器改定ニ付各地方ニ三器製作並賣捌所ヲ設ケ製作所ニ於テ製作セル新器來ル三月十五日ヨリ賣捌所ニ於テ發賣為致從前ノ秤坐秤座ハ同日ヨリ廢止候事

第二條 各地方ニ舊器改所ヲ設ケ候條從前所持ノ三器來ル三月十五日ヨリ十二月廿五日

日マテコ右改所へ差出シ檢査ヲ請フヘシ右期日ヲ過キ檢印ナキ器ヲ商業上ニ用フルヲ禁ス時宜ニヨリ掛リ官吏商家ニ入り用器ヲ視察スヘキ事

但改所ニ於テ檢査ノ上新器ニ適合セル分ハ檢印シ廢スヘキ分ハ廢ノ字ヲ印シ總テ所持人ニ下ケ戻スヘシ

第三條 製作所賣捌所官許ノ外三器製作賣捌一切不相成事

但尺ハ尺杖等一時便用ノ為メ目盛致シ辨ハ芋鳥芋等ヲ量ル為メ箱ヲ製シ又ハ賣買スルハ苦シカラス

第四條 尺度秤量ノ目ヲ盛リ直シ辨ノ線鐵弦鐵ヲ打替ヘ斗概ヲ修覆スル等ハ必ス製作所へ差出スヘシ秤量ノ緒紐ヲ附替フルハ製作所又ハ賣捌所ニ差出スヘシ其他ノ人自

儘ニ致シ候儀不相成事

第五條 舊新器共檢印アルヲ賣拂度者ハ必ス賣捌所ニ可申出專

但秤ノ錘皿又ハ辨ノ線鐵弦鐵等ヲ取離シ古鉄トシテ賣買スルハ苦シカラス

第六條 第二條以下ノ禁令ヲ犯ス者ハ其品取上ケ律ニ照シテ處斷スヘキ事

度量衡種類表畧ス

(六年十月九日第三百三十八號布告)

御國量目ヲ割直シ候西洋形權衡ニ大藏省ノ極印無之分相用候者有之ニ於テハ屹度答メ可申付候條此旨布告候事

但螺旋機關等ニテ其概量ヲ知ルノミノ器具ハ此限ニアラス

〇郵便犯罪罰則

(十三年十二月廿一日第五十五號布告)

明治十四年郵便規則及罰則別冊ノ通ニ候條此旨布告候事

郵便規則畧ス

郵便犯罪罰則

第一條 明治六年五月一日制定 驛遞總官ハ郵便ヲ司ルノ任ニ當ルト雖モ尋常備夫ノヘシテ傳送スル者ト同般ニアラズ又郵便局ハ危難請負ノ所ニアラズ故ニ遞送ノ際信書其他ノ物品

度量衡改定規則

郵便犯罪規則

ヲ紛失シ或ハ配達ノ間之レヲ誤リ達シ或ハ遅延スルヲアリ是ヨリ生スル損失不便
宜ヲ辨償スル責ニ當ツベカラザル事

第二條 同 驛遞總官ハ沒書ヲ開封シ郵便局ハ總テ郵便規則ニ違フ信書等ヲ梗留スルノ
權アル事

第三條 明治六年五月一日制定
同七年一月一日改正 郵便局ヲ勤ル者官吏傭人ヲ論ゼズ信書ヲ盜ミ或ハ開封

梗留スルヲアラハ百三拾圓以内ノ罰金ニ處ス但其犯情通貨及ヒ物品ヲ盜ムニ出ル者
ハ新律ニ照シテ處斷スベキ事

第四條 明治六年五月一日制定
同七年一月一日改正 總テ郵便ノ信書ヲ盜ム者ハ百圓以内ノ罰金ニ處ス其遞

送ノ際行囊行李ヨリ信書ヲ出シテ通貨及ヒ寶器ヲ盜ミ出シ或ハ之レヲ奪ヒ或ハ信書
通貨ヲ盜ミ奪ハシメテ行囊ヲ止メテ其中ヲ探ル者ハ新律ニ照シテ處斷スベキ事

第五條 明治六年九月二日制定
同七年一月一日改正 郵便掛官員及ビ配達人等尋常ノ信書及ビ郵便物ヲ遺失

スル者ハ三拾圓以内ノ罰金其官書官物ニ係ル者ハ重ニ從テ處斷シ書留郵便物ヲ遺失
スル者ハ四拾圓以内ノ罰金其官書官物ニ係ル者ハ重ニ從テ處斷スベキ事

第六條 明治七年一月一日制定
同七年一月一日改正 郵便局ヲ勤ル官吏傭人ヲ論ゼズ表書ニ記載スル地名明了ナル郵便

物ヲ粗忽怠慢ノ故ヲ以テ誤テ郵便規則ニ違フ者ハ拾圓以内ノ罰金又故意之レヲ他ニ

配達スル者ハ六拾圓以内ノ罰金ニ處スベキ事

第七條 同 郵便局ヲ勤ムル者ハ勿論兎許ヲ得タル賣下ケ人ト雖モ郵便切手ヲ糶賣スル
者ハ五拾圓以内ノ罰金又其糶賣シタル郵便切手ヲ買取ル者ハ貳拾圓以内ノ罰金ニ處

スベキ事

第八條 明治六年五月一日制定
同七年一月一日改正 郵便物ヲ安全ナラシムベキ備ヘテ以テ設ケアル郵便箱ノ中ニ之レ

アル信書等ヲ故ラニ損害シ表書ヲ消シ或ハ破ル者且之レヲ助タル者ハ六拾圓以内ノ
罰金ニ處スベキ事

第九條 明治六年五月一日制定
同八年一月一日改正 日誌新聞紙其他ノ上木物無封或ハ開キ封ニテ郵便

遞送ノモノヲ故ラニ破毀或ハ梗留スルモノハ六拾圓以内ノ罰金ニ處スベキ事

第十條 明治六年五月一日制定
同七年一月一日改正 凡情ヲ知リテ他ノ盜ミタル信書或ハ行囊ヲ陰ニ預リ置

ク者ハ七拾五圓以内ノ罰金ニ處スベキ事

第十一條 明治六年五月一日制定
同七年一月一日改正 郵便局ヲ勤ムル者ノ盜ミタル品ヲ知テ買取リ或ハ囑テ受ケテ賣

ル者ハ百圓以内ノ罰金ニ處スベキ事

第十二條 明治六年五月一日制定
同十四年一月一日改正 信書ヲ遞送シ郵便稅ヲ収ムル特權ハ獨リ驛遞總官ニ

附與スルノミ故ニ如何ナル方法約定ニ依ルモ驛遞總官ノ獨任スル特殊ノ權外ニアラ
ザル信書ヲ一切遞送配達スベカラズ若シ之レヲ犯シテ遞送配達スル者ハ賃錢或ハ報

酬ヲ得ルト得ザルトニ拘ハラズ貳百圓以内ノ罰金ニ處スベキ事

第十三條 明治六年五月一日制定 信書ヲ差出ス者ト雖モ前條ノ法ヲ犯シ郵便局及ビ郵便函ノ外ニ之レヲ出スルハ貳拾圓以内ノ罰金ニ處スベキ事

第十四條 明治六年五月一日制定 驛遞總官ノ獨任スル特殊ノ權ハ全ク書狀ニ限り新聞紙類書籍見本品及ビ通貨且書狀ト雖モ左ニ記載ノモノハ此限外タルベキ事

第一 明治六年五月一日制定 書狀ノ配達料ヲ拂ハス親族朋友及ビ從僕等ヲ以テ臨時ニ差出ス書狀
同七年一月一日改正
同十四年一月一日改正

第二 明治十三年一月一日制定 郵便ニ依リ難キ事故アルヲ以テ臨時特使ヲ發シテ達スル書狀
同十四年一月一日改正

第三 明治十四年一月一日制定 法律ニ據テ特ニ送達スヘキ書狀

第四 明治六年五月一日制定 船或ハ車等ノ持主及ビ其船車等ヲ以テ積送ル荷物ノ持主ヨリ賃錢手數料ヲ拂ハズ受取ラズ其船車ノ業且荷物ノ事ニ付キ其召使ノ者ヲシテ互ニ往復配達セシムル書狀

第五 明治六年五月一日制定 尋常運輸ヲ以テ業トスル者ニ依テ送ル荷物ニ就テ
同十二年一月一日改正
同十三年一月一日改正

送ル添狀送狀ノ類ニシテ別ニ賃錢手數料等ヲ拂ハズ受取ラザルモノ

第六 明治七年一月一日制定 荷物ニ就テ送ル添狀送狀ノ類ハ無封無緘或ハ開キ封ノモノトス

第十五條 明治六年五月一日制定 前條ニ記載スル限外信書ノ仕方ヲ偽リ竊ニ之レヲ傳送配達スル者ハ第十二條ニ照シ處斷スベキ事

第十六條 明治六年五月一日制定 驛遞總官ヨリ郵便物ノ運送ヲ約定シタル水陸運輸稼業ノ者ト云ヘル郵便切手之レナキ信書ヲ運送或ハ配達スルニ於テハ第十二條ニ照シテ處分スベキ事

第十七條 明治六年五月一日制定 郵便切手及ビはがき封皮ハ諸郵便局並官許ヲ受ケテ同七年一月一日改正 大書ノ郵便切手賣下所ノ看板ヲ掲グル家ノ外一切賣ルコトヲ禁ズ之レヲ犯シテ賣ルモノハ百圓以内ノ罰金ニ處シ其賣ラントスル品ヲモ取上ベキ事

第十八條 郵便局並官許ヲ得テ看板ヲ掲グル家ニアラザル者ヨリ私ニ同種ノ切手及ビはがき封皮三枚以上ヲ買フコトヲ禁ズ之レヲ犯シテ買フ者ハ貳拾圓以内ノ罰金ニ處シ其買受タル品ヲモ取上ベキ事

第十九條 一度用ヒタル郵便切手はがき封皮帶紙及ビ拂濟ノ証印等ヲ消シタル墨ヲ洗ヒ或ハ之レヲ削リ取り再度用ヒシ者ハ六拾圓以内ノ罰金ニ處スベキ事

第二十條 同 郵便切手はがき封皮及び拂濟証印ヲ偽造スル者ハ九拾圓以内ノ罰金ニ處スベキ事

第二十一條 明治六年五月一日制定 郵便局ヲ勤ムル者私書ヲ公書トナシテ往復シ且郵便切手之レナキ書狀等ヲ私ニ取扱フ者ハ百圓以内ノ罰金ニ處スベキ事

第二十四條 同 某官廳某家ニ屬シ又ハ住スル某人ニ名宛シタルヲ以テ某廳或ハ某家ニ配達セシ郵便物ヲ其人ニ達セズ或ハ其人官廳ニ屬セズ其家ニ住セザルキ之レヲ郵便局へ差戻サズ等閑ニ附シ或ハ投棄ニ任スル者ハ三拾圓以内ノ罰金ニ處スベキ事

第二十五條 同 郵便局ヲ勤ムル官吏傭人ヲ論セズ郵便切手ヲ削リ戻リ不足税ト偽ル者ハ第三條ニ照シテ處斷スベキ事

第二十六條 同 郵便配達人等其配達先於テ漫コ金錢ヲ乞フ者ハ其乞請タル金錢ヲ取上ケ其金高十倍ノ罰金ニ處スベキ事

(六年三月十日第九十七號布告)

今明治六年四月一日ヨリ郵便賃錢ノ稱呼ヲ廢シ郵便税ヲ與シ量目等一ノ信書ハ里數ノ遠近ヲ問ハス國內相通シ等一ノ郵便税ヲ収メ候條詳細ノ儀ハ改定郵便規則書ノ通可相心得事

一同年五月一日ヨリ信書ノ遞送ハ驛遞頭ノ特任ニ歸セシメ他ハ何人ヲ問ハス一切信

書ノ遞送ヲ禁止ス若其禁ヲ犯シ候者ハ郵便犯罪罰則ニ照ラシ令處分候事

(六年三月廿五日第百十六號布告)

驛村人馬遣ノ儀御用物並官員御用行ノ節平常ハ陸運會社或ハ人馬繼立肝煎所ニテ總テ相對取計爲致候得共非常出兵又ハ戌兵交番ノ件ニ限り左ノ章程ヲ設ケ賃錢ヲ付與シ人馬令運送候條豫メ其處分可致置此旨相達候事

一非常出兵又ハ戌兵交番ノタメ人馬ノ差出繼立ハ每驛正副戶長ニテ可取扱事

一人馬差出繼立及ヒ其勘定仕拂等ニ至迄驛村戶長共篤ト協議シ其節ニ方テ不都合無之樣契約可爲致置事

一每驛近傍村々ヲ適宜ニ割合之ヲ何驛組合村々トシテ其驛内ノ人馬不足ノ分ヲ此組合村々ヨリ加助可爲致事

一自他ノ管轄ヲ不論前後ニ三驛宛ヲ組合驛ト定メ休泊ノ都合ニ因リ每驛之ヲ不繼立合併爲致候節モ可有之事

一先觸ハ陸軍省或ハ鎮臺分營其外兵隊ヲ管掌スル長官ヨリ驛ノ正副戶長へ當可差出候條最迅速ニ繼送候樣豫備可爲致置事

但先觸ノ賃錢ハ至當可相渡事

一組合驛々ノ内ニ年番ヲ設ケ先觸到着次第其驛ヨリ管廳へ人馬ノ員數ヲ以テ每驛加助

人馬觸當狀ヲ可令請自然管廳へ掛隔ノ地等ニテ其問合無之節ハ直ニ組合村々へ人馬可差出旨通置其段管廳へ相届更ニ觸當狀ヲ可令請事

但シ前以組合村々へ申達其節ニ方リ無差支様取極可置事

一馬ヲ人足ニ換へ併セテ二百人以上一時ニ候歟少數ニテモ一日ニ兩度ヲ過キ候歟或ハ

二日ヨリ連日ノ繼立ニ候ハ、其筋官員出張イタシ觸當並差操等指揮可致事

但時機ニ因リ驛巡察官員モ出張可致候條是ト協議シ或ハ其指揮ヲ可令受事

一繼立ノ賃錢ハ陸運會社等ニテ準允ヲ以テ定メシ其筋ノ相對賃錢ヲ可拂若シ先觸ト同日ニ通行候様ノ至急ノ節ハ相對賃エ五割増可相渡事

一火急ノ通行ニテ賃錢拂ノ問合無之節ハ其臺其營ヨリ人馬數ニ應シ符札相渡候ニ付其符札ヲ管廳へ取纏メ詳查ノ上陸運省へ差出正賃錢請取可相渡事

一先觸ニ記載スル員數ノ外ハ假令一人一疋タリ決シテ此例ヲ以テ不可繼立若繼立度者有之候ハ、陸運會社等平常ノ繼立ニ取計公課ノ分ト混淆不致様可爲取扱事

一驛々繼立ノ費用ハ陸運會社ノ例ニ倣ヒ賃錢ノ一割ヲ列子ノ以テ支給可爲致事

一驛並組合村々ノ都合ニ寄テハ五十人内外ノ小繼立ハ陸運會社等へ爲請負候儀ハ不苦候得共必驛ノ正副戸長共立會繼立可致事

一右ノ件々驛々戸長共聊タリヒ不正ノ所行有之歟村々戸長ドモ觸當ノ人馬ヲ不差出様

ノ不條理有之候ハ、嚴重ノ咎可申付候條取調可伺出事
(六年八月十四日第二百一十一號)
近來郵便蒸氣船問屋或ハ取扱所等ノ看板ヲ掲候者多分有之候處日本國郵便蒸氣船ト米國太平洋郵便蒸氣船ト相混シ候ニ付自今日本國及米國太平洋ノ文字ヲ加へ判然區別シ可申候事
(六年十一月十九日第三百八十九號布告)
當明治六年十二月一日ヨリ郵便之がき紙并封囊發行候條別紙規則ノ通可相心得此旨布告候事
但之がき紙封囊共郵便切手同般ノモノニ付若シ是ニ就テ法ヲ犯ス時ハ郵便犯罪罰則ニ照シ處分候事(別紙規則略ス)
(七年六月七日第六十二號布告ノ内)

亞米利加合衆國郵便交換條約

第四條 日本ヨリ合衆國ニ受取タル信書ノ郵便税ニ拂不足アル時ハ其不足税ヲ取立ルノ外更ニ一通ニ付六セントノ過料ヲ取立合衆國ノ郵便局ニ收入スヘシ又合衆國ヨリ日本ニ受取タル信書ノ郵便税ニ拂不足アル時ハ其不足税ヲ取立ルノ外更ニ一通ニ付六錢ノ過料ヲ取立日本郵便局ニ收入スヘシ

(九年五月廿六日內務省乙第六十七號府縣)

金子入書狀及郵便諸費遞送ヲ命シ候內國通運會社宰領ノ者ハ賊難爲防禦短銃提携差許候條爲心得此旨相達候事

○電信條例

(明治七年九月廿二日第九十八號布告)

電信條例別冊ノ通相定本年十二月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

日本帝國電信條例

第一條 此條例ハ日本帝國政府電信寮ニ於テ所轄スル處ノ電機上ニ施行スルナリ

第二條 此條例中ニ用ユル電報ノ語ハ百般ノ音信總テ電機ヲ以テ傳送シ又ハ傳送セシト欲スルモノヲ指テ云フナリ

第三條 日本政府電信寮ハ日本帝國外ノ各地ヘ又ハ各地ヨリ傳送スル電報ヲ除キ日本帝國中ニ電報ヲ傳送シ及ヒ受取リ取集メ届渡等一切關係ノ事務ヲ取扱フ專任ノ權ヲ有ス

第四條 何人ニテモ不法故意ヲ以テ電槽器械柱木信線若シクハ其線ヲ覆フ匣蓋管筒或ハ支凸腕木架木陶器海底線浮標旗竿號報柱及ヒ電機並ニ其附屬一切ノ物品ヲ毀傷スル者或ハ此ノ電機ニテ通信ノ傳送携致又届渡シテ如何ナル仕方ニテモ妨碍スル者其

他上件ノ架木支凸腕木ヲ拔取ル者ハ五百圓ヨリ多カラサル罰金又ハ三月ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

但シ過誤失錯ニ出ル者ハ其損害ノ多少ニ隨テ償金ノミヲ出サシム

第五條 電機掛リ官員及ヒ改役或ハ其他ノ官員又ハ何人ニテモ電信寮ノ事務ニ從事スル際之ヲ攻打シ或ハ粗暴ノ舉動ヲナシ其事業ニ妨碍抗抵ヲ爲ス者ハ五百圓ヨリ多カラサル罰金又ハ三月ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第六條 何人ニテモ不法ニ柱木架木海底線信線旗竿浮標其他電機又ハ其附屬一切ノ物品ニ馬又ハ其他ノ獸畜或ハ舟筏等ヲ繫ク者ハ其所行ニ據テ損害ノ有無ヲ論セス一百五十圓ヨリ多カラサル罰金又ハ四十二日ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第七條 何人ニテモ柱木信線陶器旗竿腕木架木支凸號報柱浮標其他ノ物品ヘ瓦礫若クハ雜物ヲ投擲シ又矢箭火器ヲ彈射スル者ハ其所行ニ據テ毀傷ノ有無ヲ論セス一百五十圓ヨリ多カラサル罰金又ハ四十二日ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第八條 何人ニテモ電線ノ近傍ニテ紙鳶ヲ飛シ信線陶器腕木架木支凸其他電機ニ屬スル物品ヘ紙鳶又ハ其附屬ノ糸等ヲ引掛ケ電氣ノ妨碍ヲ生セシムル者ハ拾圓ヨリ多カラサル罰金又ハ七日ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第九條 何人ニテモ不法故意ヲ以テ政府電線寮ヨリ其局々或ハ電線沿道ノ所々ニ取建

タル標識揭示等ヲ削剝シ又ハ拔去者ハ五拾圓ヨリ多カラサル罰金又ハ四十二日ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第十條 何人コテモ不法ニ電機用ノ一部分タル柱木旗竿信線支線支柱へ攀ギ又ハ同様ノ浮標ニ乗ル者ハ其所行ニ依テ妨害ノ有無ヲ論セス廿五圓ヨリ多カラサル罰金又ハ二十一日ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第十一條 何人コテモ不法故意ヲ以テ柱木浮標其他一切電機附屬ノ物品へ落書圖繪又ハ鐫刻スル者ハ拾圓ヨリ多カラサル罰金又ハ七日ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第十二條 電機掛官員及ヒ改役或ハ其他ノ官員又ハ何人コテモ他人へ屈渡スヘキ電報ヲ故意ヲ以テ隱匿シ又ハ電信寮ヨリ電報ヲ屈渡スヘキ命令ヲ怠リ或ハ肯セサル者ハ五拾圓ヨリ多カラサル罰金又ハ四十二日ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第十三條 電信寮ニ仕官スル者故意漫ヲ以テ音信ノ傳送又ハ屈渡スヲ忘却遅延スル者又ハ同様ノ音信ノ傳送屈渡シテ妨礙延延セシムルモノ又ハ猥リニ音信ノ旨趣ヲ傳洩スル者又ハ他ノ人民又ハ電信寮ノ官員ト雖モ其場ニ立入ヘキ職務ニ非サル者ヲ電信寮ノ器械室ニ立入ラセ又ハ滞留セシムル者等以上ノ各犯ハ一百圓ヨリ多カラサル罰金ニ處ス

第十四條 凡此條例中ニ記載シタル箇條ヲ顯然犯サント企ル者ハ五十圓ヨリ多カラサル罰金又ハ四十日ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第十五條 凡此條例ヲ犯シテ電信寮所轄ノ物品ヲ毀傷シ又ハ他人ノ損失妨害ヲ生スル者ハ例ニ照シテ處分スルノ外其毀傷損失ノ償金ヲ出サシム

但工部省所管電信私線ノ分モ總テ此條例ニ準シ處分ス

第十六條 凡ソ犯人ヲ處斷シ罰金並ニ償金ノ額ヲ定ムルハ總テ裁判官ノ權内ニ屬ス

第十七條 十二年五月十四日第
十八號布告ニテ刪除
(六年三月十七日第百九號布告)

今般長門國下ノ關前田ヨリ豐前國小倉兩ヶ窪ノ間海底電信線架渡候ニ付通航ノ船艦障礙不致深厚ク可注意且其近傍へ投錨ノ儀ハ一切令禁止條此旨可相心得事
(六年四月十八日第百二十六號布告)

傳信線へ雜物ヲ投掛其他障礙ヲ成ス者販締ノ儀ニ付壬申四月線路地方へ布告ノ旨モ有之且東京府下達式註違條例中ニモ掲載有之候處問々紙鳶等ヲ打掛ル所ヨリ雨氣浸潤シ夫カ爲メ澁滯不通ノ害ヲ釀成スル事不少追々線數増架ノ際右様ノ儀有之候テハ甚以不相濟事ニ付以來線路近傍ニ於テ紙鳶ヲ揚ケ候儀令禁止條此旨相心得線路ニ係ル府縣ニ於テハ一層取締行届候様注意可致事

(六年五月二十九日第百七十九號布告)

丁扶國電信會社ヨリ海外ノ電信線長崎地へ陸揚致シ同港内浮標ヲ以線路ヲ差示候條通航ノ船艦障礙不致様厚可注意且其近傍へ投錨ノ儀ハ一切令禁止候事

(七年七月十日第十八号工部省布達)

電信線ノ儀ハ是迄人民架設不差許候處各地官設ノ本線へ接續スル支線架設ノ儀ハ今後架線可差許候條企望ノ者ハ當省へ願出許可ヲ可受此旨布達候事

但私線規則ハ退テ可及布達候事

(七年八月二十八日第廿一號工部省布達)

本年七月中第十八號ヲ以テ電信支線人民架設差許候ニ付テハ右規則別冊ノ通確定候條此旨布達候事 別冊 略ス

(九年十二月二十八日第二十二號工部省布達)

今般岡山縣下備前國澁川村ヨリ愛媛縣下讚岐國乃生村ノ間海底電信線設置竣功ニ付線路近傍へ別紙圖面ノ通浮標ヲ設ケ右線路ニ百間以内ニ於テ船艦投錨ハ勿論漁業等堅ク禁止候條此旨布達候事 圖面 略之

(十年八月十六日第十一號工部省布達)

陸奧國今別港ヨリ渡島國福島灣ノ間海底電信線路へ標示ヲ設候儀明治七年十月第二拾七

號ヲ以テ及布達置候處今般浮標ノ形體並ニ位置トモ別紙圖面ノ通相改候ニ付右線路浮標以内ニ於テ船艦投錨ハ勿論漁業等堅ク禁止候條此旨布達候事 圖面 略ス

(十一年十一月廿二日第拾八號工部省布達)

和文電報ノ出狀人受信人トモ住所姓名ニ至ル迄從來本文同一ノ割合ヲ以賃錢取立候處來ル明治十二年一月一日ヨリ國中一般距離ノ遠近ニ拘ハラズ住所姓名ハ壹通毎ニ金五錢ヲ取立且是迄署名許可ヲ得タル者又ハ將來願出候者トモ同日ヨリ手數料トシテ壹ケ年ニ付金拾五圓ノ割合ヲ以可取立條兼テ最寄電信分局ト約定致置可申候此旨布達候事

(十二年二月一日第二號工部省布達)

今般岡山縣下備前國澁川村ヨリ愛媛縣下讚岐國乃生村及ヒ山口縣下長門國下ノ關前田ヨリ福岡縣下小倉兩ヶ窪ノ間別紙圖面朱線ノ通海底電信線各一條添設候ニ付右線路二百間以内ニ於テ船艦投錨ハ勿論漁業等堅ク禁止候條此旨布達候事 圖面 略ス

(十二年三月八日第五號工部省布達)

今般千葉縣へ電信線架設右線路ノ内東京府下南葛飾郡伊豫田村河岸ヨリ千葉縣下東葛飾郡市川村河岸ノ間ニ別紙圖面朱線ノ通水底線沈架候ニ付右線路左右トモ貳拾間以内ニ於テ諸船符符ノ繫留ハ勿論漁業等堅ク禁止候條此旨布達候事 圖面 略ス

(十二年五月廿七日第九號工部省布達)

明治六年八月太政官第三百號布告電信取扱規則並同七年當省第三號第四號八年第五號
電信賃錢表中碇泊ノ船艦へ送達スル賃錢同年第十九號同十一月内務工部兩卿連署番外
及九年第四號等追々及布達候諸規則今般別冊ノ通改正増補來ル七月一日ヨリ施行候條
此旨布達候事

別冊零ス

○鐵道略則

(明治五年五月四日第四百四十六號布告)

第六十壹號布告鐵道略則別紙ノ通改正候條此旨相達候事

但開局日限ノ儀ハ治定ノ上進テ可相達候事

鐵道略則

第壹條 賃金之事

何人ニ不限鐵道ノ列車ニテ旅行セント欲スル者ハ先賃金ヲ拂ヒ手形ヲ受取ルヘシ然
ラサレハ決シテ列車ニ乗ル可カラス

第二條 手形檢査及渡方ノ事

手形檢査ノ節ハ改テ受ケ取集ノ節ハ渡スヘシ若シ檢査ノ節手形ヲ出サス或ハ取集ノ
節手形ヲ渡サ、ル者ハ更ニ最初發車ノ「ステーション」(「ステーション」トハ列車ノ
立場ニテ旅客ノ乗下リ荷物

ノ積ミ下ロシテ) ヨリノ賃金ヲ拂ハシムヘシ尤途中ヨリ乘來リシ者ニテ其確証判然
爲ス所ヲ云フ) ヨリノ賃金ヲ拂ハシムヘシ

第三條 途中「ステーション」ニテ乘組並手形ノ事

途中「ステーション」ニ於テハ列車中餘地ノ有無ニ應シテ乘リ組ムヲ得ヘシ若シ其
手形ヲ買取リシ總人數ヲ容ルヘキ餘地ナキ時ハ其中ニテ最遠キ地ニ赴ク手形所持ノ
人丈ケ先ツ乘込ムヲ得ヘシ若又同里程ノ地ニ赴ク客數人アルハ其手形ノ番號ノ
順序ヲ以テ乗ルヲ得ヘシ

第四條 偽欺ノ者扱方之事

何人ニ不限賃金ヲ拂ハス列車ニテ旅行セント計リ或ハ遂ニ旅行シ又ハ其拂ヒシ賃金
高相當ノ車ニ乗ラスシテ更ニ上等ノ車ニ乘リ組又ハ既ニ車ヨリ下ルヘキ場所ヲ過キ
増賃金ヲ拂ハスシテ遠キ場所ニ至リ遂ニ其賃金ヲ免レント計リ又ハ既ニ拂ヒタル賃
金ニテ到ルヘキ場所ニ到リナカラ車ヨリ下リ去ルヲ肯セス其外如何ナル仕方ニテ
モ賃金拂方ヲ逃ントスル者ハ夫々法ニ隨テ罰スヘシ

第五條 列車運轉中出入禁止ノ事

總シテ列車ノ運轉中ニ出入スルヲ又ハ車内旅客ノ居ルヘキ場ノ外ニ乗ルヲ禁ス

第六條 癩瘡等ノ病人ヲ禁スル事

痘瘡及諸傳染病ヲ煩フ者ハ乗車ヲ禁ス若シ此等ノ病人車中ニ在ラハ見當リ次第鐵道掛リノ者ヨリ車外並鐵道構外へ退去セシムヘシ

第七條 吸煙並婦人部屋男子出入禁止ノ事

何人ニ限ラス「ステーション」構内吸煙ヲ禁セシ場所並ニ吸煙ヲ禁セシ車内ニテ吸煙スルコトヲ許サス且婦人ノ爲ニ設アル車及部屋等ニ男子入り立入ルヲ許サス若右等ノ禁ヲ犯シ掛リノ者ノ戒メヲ用ヒサル者ハ車外並ニ鐵道構外ニ直ニ退去セシムヘシ

第八條 醉人及不行狀人扱方ノ事

何人ニ不限總シテ列車乗組中又ハ「ステーション」並鐵道構内ニテ醉ニ乘シ安狀ヲ現ハス者又ハ不良ノ行狀ヲ爲ス者ハ鐵道掛ノ者ヨリ車外及鐵道構外へ直ニ退去セシムヘシ

第九條 鐵道ニ屬スル物品ヲ毀損スル時ノ事

何人ニ不限浪リニ「ステーション」其他鐵道構内ニ標識揭示セル書附等ヲ剝シ或ハ破リ又ハ列車ノ番號札ヲ取除キ或ハ車燈ヲ消シ又ハ各車ノ諸器械倉庫建家牆柵其他鐵道一切ノ附屬品ヲ毀損スル者ハ都テ法ニ隨テ所置スヘシ

第十條 機關車等へ乗込ヲ禁スル事

機關方並火夫ノ外ハ其筋ノ許シヲ得スニテ機關車又ハ炭水車ニ乘リ或ハ乗ラント爲

ス可ラズ且車長及車掛ノ者ノ外其筋ノ許ヲ得スニテハ荷物車又ハ旅客ノ爲ニ設サル車ニ乘リ又ハ乗ラント爲ス可ラス若此禁ヲ犯シ鐵道掛リノ者ノ制止ヲ用ヒサル者ハ直チニ其場ヨリ退去セシムヘシ

第十一條 鐵道ノ地所へ妄リ立入者取扱方ノ事

何人ニ不限「ステーション」又ハ鐵道構内へ妄リ立入者ハ鐵道掛ノ者ヨリ即刻構外へ立去ラシムヘシ

第十二條 旅客ノ荷物紛失毀損取扱方ノ事

旅客手廻リ荷物其外所持ノ品々タリト總テ之カ爲ニ別段ニ金貨ヲ拂ヒ其受取證書ヲ取置カザレハ若シ紛失毀損等アルトモ政府ニ於テ關係セサルヘシタトヒ賃金ヲ拂ヒ證書ヲ取置トモ其毀損紛失等ヲ償フハ只旅客自用衣服ノミニ止リ且償金モ五拾圓ニ過ルコトナシ

第十三條 高金及大切ノ物品紛失毀損ニ關不關アル事

金銀紙貨幣郵便切手爲換會社通用券爲換手形約定證書金銀請拂證書地所建家沾券諸繪圖書畫古器金銀玉石鍍金及諸彫鐫細工物時計類其餘衣類或ハ玩佩物ノ粧飾ニ混作ノ品類及硝子器類陶器漆器酒類蠶繭絹布生熟糸等ノ品物運送方ニ付テハ其品柄並價高等ヲ明白ニ其掛へ申立テ増賃金ヲ拂ヒ紛失毀損等請合シ分ノ外ハ總テ政府ニ於

テ之ヲ償ハズ

第十四條 牛馬獸類運送ノ事

牛馬及其他ノ獸類ヲ運送スルニ其持主或ハ送り人ヨリ其獸類ノ價ヲ運送掛へ申出相當ノ増賃金ヲ拂ヒ請合證書ヲ取置クヘシ若シ増賃金ヲ拂ハズ請合ヲ爲サル分ハ如何程高價ノ獸類紛失損害アルモ牛一疋金二拾圓以上馬一疋或ハ乳牛壹疋ニ金五拾圓以上羊或ハ豚一疋ニ金五圓以上ヲ政府ニ於テ償フコトナシ

第十五條 砲發ヲ禁スル事

何人ニ不限車内ハ勿論鐵道線及其他構内ニテ砲發スルヲ禁ス

第十六條 爆發質アル危害物運輸ヲ禁スル事

鐵道寮ヨリ追テ公告スルマテハ火藥及ヒ「ピトロリヤム」「ケロシンチイル」「トルベントアイ」(石炭油等ヲ云)硝性並ニ爆發質燃燒質等ノ物品ハ運輸セサルヘシ

第十七條 荷物目錄ヲ渡スヘキ事

運送ノ諸荷物ヲ鐵道掛ノ者へ引渡シ又ハ請取ノ度毎ニハ右荷主或ハ宰領人ヨリ其品柄數量及姓名ヲ記シテ掛リノ者へ差出スヘシ

第十八條 物品並畜類損害償方定限ノ事

鐵道ニテ運送スル物品並畜類紛失損害アリトモ鐵道掛リノ怠惰疎漏ヨリ起リシニ非

レハ政府ニ於テ之ヲ償フコトナシ

第十九條 荷物運送賃金ノ事

何人ニ不限荷物運賃ノ催促ヲ受テ尙拂ハサルハ其荷物ノ全部又ハ部分ヲ留置キ若又其荷物既ニ他所ニ運送セシキハ其後同人附屬ノ荷物鐵道掛リへ送り來ルコトアルハ之ヲ留置キ同人へ告知ラセタル上ニテ滞金高程ノ品ヲ入札公賣シ其滞金ト諸入費トヲ引取殘金殘品ヲ同人へ返スヘシ又時宜ニヨリ右ノ取計ヒヲ爲サス法官ニ訴ヘテ賃金並入費等ヲ取立ルコトモアルヘシ

第二十條 規則ニ隨ハサル者ノ事

何人ニ不限諸事前條ノ規則ニ隨ハスンハ乗車及ヒ荷物ノ運送ヲ許サ、ルヘシ

第二十一條 規則等ノ變革布達ノ事

此規則中變革及加除アルトキハ遍ク皆達スヘシ

第二十二條 荷物運送引請方ノ事

諸荷物ノ運送ヲ引請ルコトハ列車中餘地ノ有無ニ應スヘシ

第二十三條

此規則ヲ施行スルカ爲メニ夫々法官ニ訴へ犯罪ハ罰シ方等ノ裁判ヲ乞フ手順ハ鐵道頭或ハ鐵道支配人ノ間ニテ其取扱アルヘシ

第二十四條

旅客並荷物ノ運賃ハ時宜ニ隨ヒ變革アルト雖モ其變革毎ニハ二週日前ニ告達スヘシ
尤鐵道頭鐵道支配方及運輸頭取ノ間ニ於テ前條ノ如キ告達ナク臨時常例ヨリ下等運
賃ヲ以テ別ニ列車ヲ仕立ルコトモアルヘシ

第二十五條

此規則來ル五月七日ヨリ施行スヘシ
右之條々此度確定候事

(明治六年三月十三日第百一號布告)

壬申第四百七十七號布告鐵道犯罪罰例別紙ノ通改正相成候條此旨相達候事

鐵道犯罪罰則

第一條 鐵道掛ノ者總テ鐵道上ニ關カル事務取扱中醉ニ乘シ無狀ヲ現ハスニ於テハ二

十五圓以内ノ罰金ニ處ス若シ其職掌怠惰輕忽ニヨリ鐵道旅客ノ危難トモナルヘキ取

扱アルキハ其事情ニ依リ五百圓以内ノ罰金又ハ三月以内ノ懲役或ハ禁獄ニ處ス

第二條 十二年三月廿八日第 規則第四條ニ記スル處ノ不法ヲ爲ス者ハ貳拾五圓以内ノ

罰金或ハ三十日以内ノ禁獄ニ處ス

第三條 規則第五條ノ禁ヲ犯ス者ハ拾圓以内ノ罰金ニ處ス

第四條 規則第六條ノ禁ヲ犯ス者ハ拂タル賃金ヲ沒シ二十五圓以内ノ罰金ニ處ス

第五條 規則第七條ノ禁ヲ犯ス者ハ拂タル賃金ヲ沒シ拾圓以内ノ罰金ニ處ス

第六條 規則第八條ニ記セル所行ヲ爲ス者ハ拂タル賃金ヲ沒シ二拾五圓以内ノ罰金或

ハ三十日以内ノ禁獄ニ處ス

第七條 規則第九條ニ記スル所ノ不法ヲ爲ス者ハ三十圓以内ノ罰金又ハ六週間以内ノ

懲役或ハ禁獄ニ處ス

第八條 規則第十條ノ禁ヲ犯ス者ハ二十五圓以内ノ罰金ニ處ス

第九條 十二年三月廿八日第 規則第十一條ノ禁ヲ犯ス者ハ廿五圓以内ノ罰金或ハ三十

日以内ノ禁獄ニ處ス

第十條 規則第十五條ノ禁ヲ犯ス者ハ二十五圓以内ノ罰金ニ處ス

第十一條 十二年三月廿八日第 規則第十七條ニ記スル處ノ諸荷物品書其外ヲ故ラニ出

サス或ハ故ラニ欺偽ノ品物書ヲ出ス者ハ三箇月以内ノ懲役又ハ禁獄或ハ其物品壹圓

(千七百斤ヲ云)毎ニ貳拾五圓以内ノ罰金ニ處ス壹圓以下ハ拾圓以内尤モ一罰ノ贖金

高五百圓ニ過キス

第十二條 鐵道附屬品ヲ毀損スル者ハ第七條ニ照シ罰ヲ科スルノ外其毀損物ノ代價ヲ

償ハシムルコトアルヘシ但シ其償金ノ追徴モ鐵道寮ヨリ法官ヘ乞フキハ法官ニ於テ追

徴スヘシ

○日本坑法

(明治六年七月廿日布告第二百五十九號)

今般鑛山其他諸坑業ノ規則別冊ノ通改定候ニ付テハ凡坑物ニ關係ノ事件ハ工部省ニ於テ總管セシメ候條自今金屬其外諸坑物營業ノ儀都テ同省ヘ可申立候此旨布告候事

日本坑法

第一章 坑物

第一 正理ヲ以テ論スルキハ凡無機物タル者ハ生活ノ機ナキ諸物品都テ坑業ノ部分ニ屬ス此無

機物品質ニ類ニ分ル即第一類ハ有鑛質第二類ハ無鑛質タリ凡諸金屬ノ天然本質ヲ以テ出ル者或ハ他ノ物質ト合化シ出ル者ハ右一類ニ屬ス燃質物山鹽燐酸石炭美石及玉

璞ノ類ハ右第二類ニ屬ス本條舉ル所ノ有鑛質無鑛質トモ總テ是ヲ坑物ト稱ス坑山坑業坑區坑產等皆之ニ倣ヘ

第二 前ニ掲記セシ物類凡日本國中ニ於テ發見スル者ハ都テ日本政府ノ所有ニシテ獨リ政府ノミコソ採用品分義アリ

第三 築石土砂粘土其他建築耕作所用ノ諸物品ハ都テ地主タル者ノ所有トスヘシ

第四 日本民籍タル者ニ非サレハ試堀ヲ作シ坑區ヲ借リ坑物ヲ採製スル事業本主或ハ組合人ト成ルコトヲ得ス坑產ノ割合及ヒ損益ニ關係ス若シユレテ犯ス者ハ其業ニ屬スル所ノモノハ都テ組合トス

ル所有物ヲ官ニ沒入シテ其業ヲ禁止スヘシ

第二章 試堀

第五 試堀ヲ作サント欲スル者ハ鑛山寮ニ願出許可ヲ得テ之ヲ行フヘシ

試堀ヲ行フ爲ニ必要ノ地面他人ノ屬セハ其償金ヲ對談處分ス可シ

地主ニシテ自ラ試堀ヲ企ル者ハ衆ニ超テ許可ヲ得ヘキ分義アリトス然レハ自ラ試堀ノ資本無クシテ他人ノ舉ヲ拒ミ或ハ不當ノ償金ヲ貪ラハ鑛山寮或ハ地方官ニテ正價ヲ裁決シテ其地ヲ買上クヘシ

第六 試堀ニテ坑物發見スルキハ直ニ見本ヲ添テ鑛山寮ニ届出可シ且試堀中ハ一月七月兩度毎ニ前六ヶ月間ノ行業日數及工數並產鑛量ヲ開報スヘシ

凡產鑛ハ借區券第十款ニ出ツ得ル後ニ非サレハ恣ニ賣却スルヲ得ス若シ之ニ背カハ其全價ヲ沒収ス可シ

第七 試堀ハ都テ一年間ヲ以テ期限トス若延期ヲ願出ルニ實ニ未タ開坑ヲ決スルコトヲ得サル事理判然タラハ之ヲ許可スルコト有ル可シ

第八 試堀人廢業スルキハ第二十七款廢坑則ノ如クスヘシ

此時ニ產鑛ハ鑛山寮ノ許可ヲ得テ賣却シ第三十一款ノ坑物稅ヲ納ムヘシ
試堀人損失ニ因テ廢業スル事實判然タルニ於テハ坑物稅ヲ免スルコト有ルヘシ

第三章 借區開坑

第九 開坑スル者ハ先ツ坑區ヲ得ヘシ坑區ノ廣狹ハ其適實ナル起業ノ目途ニ應シテ之ヲ得セシム可シ

有鑛質坑ヲ開ク者ハ必ズ製鑛ノ業ヲ兼ヌ可シ

凡借區開坑ハ鑛山寮ニ願出ヘシ此願書ニ其得ント欲スル坑區ノ測量圖ヲ添テ出ス可シ試掘ヲ經テ借區願出ル者ハ其坑區中別ニ地主有リト雖ヒ之ヲ拒ムヲ得ス尤其處分ハ借區券ヲ得ルノ後廿ニ款ノ如クナルヘシ

第十 願出ノ借區ハ鑛山寮官員之ヲ驗測シ標石ヲ植テ境界ヲ識別スヘシ

巡回官員歸報ノ後許可スヘキハ工部全權ノ證印ヲ以テ借區券ヲ附與スヘシ

第十一 凡借區ハ通常十五年間ヲ以テ定期トス之ヲ終ルニ至テ繼年期ハ新ニ願出スヘシ

第四章 通洞

第十二 通洞ハ坑道ハ縱横ニ小坑ヲ穿ツヲ通常トス別ニ探鑛疎水運輸等ノ我カ借區中

ニ非スト雖之ヲ企ルヲ得ヘシ此時ハ願書ニ目論見明細圖ヲ添テ鑛山寮ヘ出スヘシ

若シ其通洞他人ノ借區ニ亘涉スヘキハ豫メ其借區人ニモ報知ス可シ

通洞ハ高九尺幅六尺ヨリ減スヘカラス是ヨリ小ナルハ通洞トセス

第十三 願出ノ通洞ハ鑛山寮官員實地勘踏歸報ノ後許可スヘキハ工部全權ノ證印ヲ以テ免狀ヲ附與ス可シ免狀ヲ得ルノ後若シ目論見圖ニ違ヒ方向ヲ轉シ或ハ距離ヲ延縮

セント欲セハ更ニ鑛山寮ヘ願出許可ヲ得テ之ヲ行フ可シ

第十四 借區人何レモ自ラ通洞ヲ開クヘキ資本有ニ非サレハ我區中タリト雖モ他人ノ舉ヲ拒ムヘカラス

通洞保全ノ爲メニ其周圍ノ土石ヲ外ヨリ厚サ一間半以内ニ城入ルヘカラス然レモ其跡ニ自己ノ入費ヲ以テ支柱ヲ構造シ崩潰ノ患無カラシムル者ハ此限ニ非ス是ハ坑物爲ニ一旦土石ヲ掘出ス時ノ如キ是ナリ

第十五 通洞ニ因テ諸借區人便利ヲ得ルコトアラハ通洞發起人ニ其謝金ヲ出スヘシ若シ之ニ就テ對談穩當ナラスハ鑛山寮ヨリ處斷スヘシ

通洞ヲ開ク者ハ借區人未定ノ所ニ於テハ通洞ノ周圍内ヨリ出ルタケノ坑石ヲ取ルコトヲ得ヘシ他人ノ借區中ニ於テハ此礦石ノ一半ヲ借區人ニ歸スヘシ

第五章 坑業

第十六 都テ坑業ニ付テハ坑物ヲ坑中支柱ノ爲ニ存ス可キ所ノ外ハ成ル丈坑利ヲ遺スコトヲ取テ出スヘシ此法ヲ犯シ其他都テ坑ノ利用ヲ害スルモノハ其經重ニ隨テ罰金ヲ徵ス可シ

第十七 試掘開坑或ハ通洞等ヲ企ルニハ舍屋鐵道河流及道路ノ如キ其害ヲ受ヘキ場所ハ度ヲ計テ之ヲ避ケ殊ニ城堡ハ七十間以内ノ地ヲ避ク可シ

凡場所ノ主タル者應諾スルニ非スシテ此ヲ犯ス者有レハ城堡ハ其律ニ任シ餘ハ其損害ヲ償復スル一倍ノ費額ヲ取テ本費ハ其主ニ附與スヘシ

第十八 凡初發許可ヲ得シ坑物ノ外ニ別種ノ坑物ヲ見出ス者ハ速ニ鑛山寮ニ報知スヘシ之ニ背ク者ハ其坑物又ハ代價ヲ取揚クヘシ

第十九 開坑人ハ歳々一月七月兩度毎ニ前六ヶ月間ニ産出セシ坑物量其賣出高並代價及行業日數工數ヲ具記シテ鑛山寮ニ報知ス可シ

有鑛質ハ坑産量並製出量且製出セシ混淆物二種以上ノ金屬ヲ含有スルハ其試驗ノ割合ヲモ具記シテ賣出高以下都テ前ノ如クスヘシ

右數量不正或ハ開報違期ノ罰ハ金五十圓トス若シ賣出高並代價ヲ減書スル者ハ其減書セシ高ノ三倍ヲ徴収ス可シ

第二十 通例開坑又ハ廢礦ヲ採製スルニモ一年間ノ事業ハ地面五百坪ノ下ニ就テ壯健ナル一夫三百日ヲ以テ成セル程ノ工數ヨリ減スヘカラス若シ之ニ背ク者實ニ百方免

レ難ク妨碍判然タルコ有ラスノハ其業ヲ禁止スヘシ

第二十一 坑業人ハ互ニ隣坑ノ風通シヲ便利ニスヘシ且甲區ヨリ乙區ノ地中ニ水道ヲ

通シ地上ニ要路ヲ通センヲ求ルニ於テハ不當ノ償金ヲ貪ル可カラス若シ相對シ以テ決セスノハ鑛山寮ヨリ所斷スヘシ

右掘通シニ付テ出ル鑛石ハ其所ノ借區人ニ屬スヘシ

第二十二 凡借區人ハ區上ニ於テ藏庫所事務所洗鑛所鑛所通路等其他坑業ニ必要ナル地面ハ地主タル者ニ豫メ償金ヲ辨ス可シ若シ異論決セスノハ鑛山寮或ハ地方官ニテ正價ヲ裁決シ其地ヲ買取ル可シ

第二十三 總テ坑區ヨリ隣區ニ患害損傷ヲ被ラシムルトキハ之ヲ償フヘシ若シ償金決定セスノハ鑛山寮ヨリ裁決スヘシ

第二十四 凡借區人其坑業ヲ年限中他人ニ讓渡ス如キハ前以テ雙方ヨリ鑛山寮ニ願出許可ヲ請フヘシ若シ之ニ背ク者ハ其業ヲ禁止スヘシ

第二十五 凡借區年限終リ又ハ法ニ背ヒテ其業ヲ禁止セラレ或ハ自ラ廢業スルニ至ル者有レハ都テ其借區ハ政府ニ還復シ其事業ニ就テ如何ナル負債アリト雖モ總テ其坑山ニハ關係セサル者トス此時ニ當テ地中ノ結構ハ坑山ニ屬シテ政府ノ有タルヘシ

地上ノ營造ハ其主ノ取去ルコ任スト雖其趾ノ地面ハ完全ニ修復ヲナスヘシ

第二十六 坑業人ハ其坑山地方ノ住民同様トス因テ其地方官ノ諸法令ヲ遵守ス可シ

第六章 廢業

第廿七 坑業ヲ廢セント欲スル者ハ堅坑ノ口ヲ掩ヒ又柵圍ヒスヘシ鑛山寮ヨリ其堅坑
ヲ當然ニ堅固ニセシヤ且坑内營繕完全存在スルヤヲ検査スヘシ若疎漏アラハ鑛山寮
ニ於テ繕治スヘキ費額ノ一倍ヲ徵收スヘシ

第廿八 鑛山寮ヨリ疏水ヲ命スルニ背キテ其事ヲ行ハス之カ爲ニ坑中廢没スルコ至ル
者ハ其業ヲ禁止ス

第七章 製鑛所建築

第廿九 凡開坑人坑山外ノ場所ニテ有鑛質物ヲ製出セン爲ニ建築スヘキモノアラハ先
鑛山寮ニ許可ヲ請フヘシ

第三十 己ニ製煉セシ鑛物ヲ精製 荒銅ヲ丁銅棹銅ニ作リ山吹
金ヲ純金ニ製スル類ヲ云 山寮ニ報知シ六ヶ月毎ニ元鑛量並製出品量等ヲ具記シ鑛山寮ニ開報スヘシ

第八章 稅納

第卅一 鐵ヲ除クノ外有鑛質物ヲ採取スル坑區ハ面積五百坪毎ニ一ヶ年金一圓ツ、借
區稅トシテ毎年一月ヨリ前一年分ヲ鑛山寮ニ納ムヘシ 借區稅ハ地租 鐵及ヒ無鑛質ノ諸
物品ヲ採取スル坑區ハ面五百坪ニ付前條ノ半高ヲ納ムヘシ即金五十錢トス
廢鑛ヲ採取スル坑區ハ面千坪ニ付常例ノ稅額ヲ納ムヘシ

開坑區五百坪廢鑛區面千坪トニ足サルモノハ總テ右面積ノ比例ニ隨テ納ムヘシ
借區初年ノ區稅ハ月割ニテ納ムヘシ

前書借區稅ノ外ニ採製セシ金屬及諸坑物ニ就テ代價百分ノ三ヨリ百分ノ二十迄ヲ坑
物稅トシテ毎歲一月七月兩度ニ鑛山寮ニ納ム可シ

但稅額ノ儀ハ其坑業ノ盛衰ニ隨ヒ鑛山寮ヨリ命スヘシ

第卅二 試掘開坑或ハ通洞等ニ付テ前後諸條款ニ記セル稅或ハ罰金償金等ヲ納メサル
片其業ニ屬スル所ノ運移スヘキモノ殘ラズ鑛山寮ヨリ入札拂ニシテ代價ノ中ヨリ不
納高ヲ引去リ其殘金ハ之ヲ本人ニ還付スヘシ

第卅三 凡坑法ノ意旨ニ戾ル過失有ル者ハ輕重ニ隨テ罰金ヲ命スヘシ若事業疎略ニシ
テ人命ヲ失ハ、國律ヲ以テ論處ス可シ

右章款ニ記載スル方法ハ明治六年九月一日ヨリ施行スヘシ從前ノ法則及ヒ舊習等若
シ此法ニ矛盾スル者ハ都テ廢停タル可シ

坑法附示

坑業及製鑛ノ業ヲ舉行スル者西洋ノ學術及工作ヲ用ヒンカ爲メ一定ノ給料ヲ以テ外國
技術家ヲ雇入ル、カ如キハ我坑產損益及ヒ所有物ニ關係スル事無キニ因テ坑法第四款
ノ禁ニ觸レズ然レモ之ヲ雇入ル、以前其職業給料及年限ヲ分明ニ記載シ其案紙ヲ鑛山

察へ送呈シテ結約ノ許可ヲ可請候事

書類式樣略ス

(七年十一月第百廿四號布告)

坑物ノ儀ハ明治六年第二百五十九號布告日本坑法ニ掲載ノ通政府ノ所有物タルハ勿論ニ付假令開坑ノ許可ヲ受候共其坑中將來開發ノ品ヲ引當ニ致シ外國人ヨリ金子借入又ハ先キ賣約定等ノ儀ハ不相成候條此旨布告候事

○不開港場取締方規則

(明治二年六月晦日達)

列藩支配所ヨリ是迄諸品運輸又ハ兵士往返之爲メ外國船雇入開港場之外諸所へ差廻方願立候節ハ御許容相成候得共右ハ兵馬騷亂中時勢不得止之儀ニテ斯ク海内御平定之上ハ以來開港場之外諸方之地へ外國船ヲ以運輸等相願候共一切御許容不相成候就テハ華族ノ向モ勿論農商ニ至迄開港場ヨリ開港場へ運輸之趣願立置密ニ他港へ差廻候儀相聞ニ於テハ吟味之上夫々相當ノ御處置被仰付且積荷有之候ハ、其品版上ケ過料トシテ金千兩御取立可相成候條此旨屹度可相心得事

但本文之通り御定有之候得共地方救助之爲等ニテ無據情實有之候ハ、其子細委曲相認メ前以雇入候其開港場へ願出候ニ於テハ篤ト評議之上時宜ニヨリ御許容相成候儀可有之事

(明治二年二月廿九日布告)

不開港場規則難船救助心得方等ノ條目別紙彫刻之通被仰出候間此旨相達候事

別紙

外國貿易之儀ハ神奈川港ヲ初大坂兵庫崎瀨瀧箱館六ヶ所御取開相成候上ハ諸商賣トモ右場所ニ於テ取引可致處不開港場ニ於テ密商致シ候哉ノ趣相聞以ノ外ノ事ニ候右ニ付テハ先達テ御布令之趣モ有之御條約面ニモ明細ニ掲載致シ有之儀ニ付向々ニ於テ厚シ可相心得筋ニハ候得共津々浦々邊鄙ノ場所ニ至リ候テハ取計方不相辨者モ可有之或ハ難船救助ノ筋ト入混シ難船人へ對シ不親切ノ取扱致シ候テハ御交際上ニ差響候儀ニ付夫是以今般猶又廉々別紙ノ通心得方被仰出候依テハ府藩縣ニ於テ取締不行届其土民共外國人ヲ引入レ内密ニ賣買致シ候節ハ仮令其事不仕遂候共當人并其支配タル者マテ急度御答可被仰付候尤吟味ノ上其土地管領ノモノ同意致シ居候歟又ハ心得ナカラ見遁シ候儀相知レ候節ハ猶更嚴重御處分可有之候ニ付向々ニ於テ取締ノ儀猶一層行届候様可致候事

一外國人ノ儀自己相對ヲ以雇入候儀不相成趣ハ兼テ御布令ノ通ニ候得共諸學科又ハ國地開發或ハ西洋形ノ船々運用筋ニ付相雇度者ハ其次第ニヨリ御開届可相成候間給料年限等取極其筋々ヨリ書面ヲ以東京外務省へ可願出其上御印章御渡可相成候尤御印

不開港場取締方規則

章所持ノ外國人ハ何レノ向ニテモ御國人同様相心得無隔意接待致シ無差支通行セシムヘク候尤諸場所ニテ右御印章相改可申萬一右御印章所持不致外國人有之節ハ御許容不相願私ニ雇入候筋ニ付内地通行不相成儀ハ勿論竊ニ隱シ置相顯ル、ニ於テハ急度御沙汰之品モ可有之開心得違無之様可致事

條目

不開港場取締心得方規則

一何レノ濱邊又ハ港浦ニ於テ西洋形ノ船入津候ハ、時刻ヲ移サス直様港役人役人不居村長ノ内ヨリ可罷出事 其船ニ乗組入津ノ趣意可相尋候事 合場所ハ

但言詰不通ニテ十分難相分儀モ可有之候得共初テ來ル外國船ハ故ナク入津イタシ候儀甚少ク候間其大意丈ケ和語手真似ニテ相分可申候事

一尋問ノ上薪水食料ニ盡キ其品々ヲ求候タメ入津ノ儀ニ候ハ、其土地ヨリ横濱兵庫長崎新瀉箱館迄ノ里數ヲ勘辨イタシ格別遠路ニモ無之候ハ、右品々ヲリトモ前文開港場ノ内ニ參リ可受取旨申サトシ渡方ヲ斷リ可申或ハ右開港場ニ七八十里又百里モ遠キ場所ニ候ハ、無余儀事ニ付其土地支配ニテ承届候上右里數ヲ計リ船中人數相當ノ分丈渡遣シ代金可受取事

但金高品數ハ勿論船ノ碇泊日數刻限等委細相認メ届出可申事

一其船ノ國名船名船主ノ名書付ニテ承リ糾スヘキ事

但船名ハ多ク船ノ艦ニ横文字ノ楷書ニテ認有之モノニ付右字様寫取置ヘキ事

一船ニ引上ケ有之國旗并船主ノ旗等總テ目印ニ可相成モノハ其雛形寫取可差出事

一欠乏ノ品相渡候上出帆遲々致シ候様子ニ候ハ、早々出帆候様催促可致事

一御免許ノ上海岸測量ノタメ船ヲヨセ候節ハ相當ニ世話イタシ岩石隠レ洲有之場所等差示可遣尤御免許ノ船ハ其印狀必ス所持イタシ居候事

一軍艦ニ候ヤ商船ニ候ヤ蒸氣船帆船船共總テ船形大小共取糾相届可申事

一軍艦ニ候ハ、大砲ノ備有之商船トハ船形相違ニ付假令見ナレサル者ニテモ相知レ可申軍艦ハ別テ何事モ禮義ヲ正シ不敬ノ取扱イタサ、ル様可心掛候事

一薪水食料等船中必要ノ品ノ外餘分ハ勿論其外土地產物類相求度旨申立候トモ一切賣渡候事不相成萬一利慾ニ迷賣渡候者有之後日相顯ル、ニ於テハ吟味ノ上屹度御答可有之事

一船中ニ積載有之品々彼方ヨリ賣渡度段申立候ハ買求候儀是又一切不相成萬一竊ニ取引イタシ候節ハ前同様御答可有之事

一濱邊ニ近キ村里ノモノ其濱邊ノモノ共内々外國人ト荷物ノ取引致シ候様子ニ候ハ、其支配カ又ハ開港場ニ可申立時宜ニヨリ御賞可有之事

一難船ニ無之食料欠乏等ニ托シ密商仕向候節ハ定テ其土地ニモ右呼迎候者可有之速ニ探索ノ上瀾密商イタシ候ニ相違無之候ハ、双方トモ差押外國人ハ引留置御國人ハ入牢手鎖等其土地相當ノ仕置ニイタシ早々申立指圖可受尤横文字ノ書付類後日ノ証據ニ可相成品ハ始末致シ可置事

但各國御條約書ニ何レモ外國人共日本不開港場等ニ參リ密商シ或ハ密商ヲ企テントイタシ候者ハ其犯セル度毎ニ其品取上爲過料メキシコドルヲルニテ千枚ニ當候程御取立相成候間御國人ニ於テモ右同様ノ企致シ候者於有之ハ兼テ御布告ノ通其品取上過料トシテ金千兩御取上之事

一御國人買求候西洋形商船ニ外國人乗組居萬一商買取引等致シ度段申立候カ或ハ其乗組御國人手引ニテ商買取引候様ニ相見候ハ、篤ト様子ヲ探索致シ嚴敷拒絕可致萬一仕遂ケ候跡ニ候ハ、其事實穿鑿ノ上早々其筋ヘ可申立事

但本文西洋形商船ニ不限御國通例ノ地乗船ニテ西洋人乗組居候節モ同様ノ事

一外國船ヲ御國人トモ借リ受開港場ヨリ開港場ヘ荷物運輸ノ儀ハ願ノ上御開届可相成筋ニ候得共不開港場ヘハ決テ御開届無之儀ニ付萬一不良ノ徒村民ヲ欺キ御免許受候ニ付賣買致シ度杯申唱ヘ候共一切差許申聞敷事

但地方飢饉等ニテ不得止事外國船相雇不開港ヘ相回リ候事御免許無之筋ニモ無之

其筋ハ府藩縣ノ知事ヨリ其沙汰可有之且乗組人ノ内開港場ノ役人爲取締立會居候筈ニ付事實突留候上其取扱ニ可及事

一港ヘ碇泊イタサズ冲繫リ又ハ其近海ニ於テ双方ノ船出會致シ密商候様子ニ候ハ、是亦早々穿鑿可致事

一不開港場ヘ外國船碇泊致シ薪水食料而已賣渡候儀ニテ聊心障リノ事無之トモ其都度相届可申事

難船救助之事

一難船ニテ困苦ノ體ニ相違無之節ハ其困苦之輕重ニ隨ヒ相當ニ扶助イタシ可置事

但船ニ乗組居リカタキ程ニ候ハ、其海岸最寄寺院也民家也可然場ヘ止宿爲致食料衣服等迄仕附可置事

一船之修復ニ取掛リ候ハ、鍛冶大工職其他人夫ハ勿論器材迄用意致シ可置事

一乗組人之内溺死之尸有之歟或者滯留中病死之者埋葬之儀申立候ハ、墓所之内都合ニキ場所ヘ埋葬可爲致事

一洋中オイト大船破摧シ乗組外國人之内猶船具等ニ取付生残り居候體見當候ハ、早々我船ヘ助ケ載開港場ヘ送届候歟又ハ其土地支配之者ヘ引渡其支配之者受取海陸便宜ヲ見計開港場ヘ可差送事

一難船漂着候ハ、早々外務省歟又者開港場之内可成里數近キ所へ晝夜〇不限注進〇及其掛、官員之出張ヲ申立差圖可受事

一難破イタシ船難用立陸路ヨリ開港場へ罷越度段外國人ヨリ願出候ハ、承届附添之者可成餘計ニサシ出最寄之開港場へ可送届事

一困難之船隠レ洲等ニ乘懸ケ難引出其儘船主引拂候節ハ右船津又ハ鉄具碇鎖等迄沈没之マ、追々流失候トモ又ハ村方ニテ取捨候トモ向後異存チキ旨外國人ヨリ横文之書面取置ヘキ事

一難破之船津其マ、差置外國人ハ一旦引拂追々右船引出シ方トシテ再可差越候〇付其開船其外之モノトモ預リ置クレ候様外國人ヨリ相頼候トモ容易ニ引受申開敷彼方ヨリ遮テ申立候ハ、其筋へ伺之上可引受勿論入費可相掛儀〇付右賃銀受取候儀ハ不及申跡々ニテ異論不差起様何事〇モ書面可取置事

一八年五月四日第七十号布告ニテ改定 沿海地方ニ於テ外國船困難ノ節救助方ニ付出費ノ儀ハ総テ其船主ニ屬シ相當ニ候得共船主ニ屬スヘカラサル部分於有之ハ内譯精細區分致シ其地管轄ノ府縣廳ヨリ官費ヲ以テ仕拂候事ト相心得船主へ談判致シ船主ヨリ相當償却高ノ外猶不足ノ殘額ハ内譯精細書相添管轄府縣ヨリ大藏省へ申出處分ヲ可受候或ハ船主ノ自費ト地方廳ノ官費ト區別判然致サ、部ル分ハ暫ク官費ヲ以テ操替置船主滯留中ナ

ヲハ其趣船主へ心得置セ若シ船主其他乗組ノ者既ニ困難場引拂後ナル時ハ先以テ最寄開港場ノ府縣長官へ照會シ同所長官ヨリ其旨船主又ハ船主管轄ノ領事へ申入置セ而後右區分ノ見込外務省へ申出何分ノ指揮ヲ可受若シ船主ヨリ受取ルヘキ分本人持合セ無之候ハ、証書取置是又前文同様開港場ノ府縣長官へ可相廻事

一難破ノ船具又ハ沙濡ノ荷物或ハ船津等賣拂度旨外國人ヨリ申立候ハ、右ハ相當之價ヲ以テ買求候儀不苦尤其段可相届事

一難船ニテ永々滯留可相成様子ニ候ハ、府藩縣トモ其筋ヨリ尋問之モノヲ其出事

一乗組人無之西洋ノ難破船海外へ漂着候ハ、其様子イサイニ同相届事

一総テ外國人ニ取引イタシ候勘定書或ハ証書之類〇至ル迄和文ニ而者費用ノ儀ハ其國ノ文字ニテ爲相認書キ判又ハ調印爲致置ヘシ和文ニテハ後日ノ証ト難用候儀ハヨリ可差出証文等有之候ハ、和文ニ相認右へ調印イタシ可差出彼方ヨリ其旨申立候儀ハ味不相知西洋文へ調印ハ勿論名面認識候儀不相成被欺候儀有之候トモ後ニ其旨無シ事ト可相心得事

一右條目ニ有之伺出候儀又ハ届書トモ其場所ヨリ最近キ開港場歟又ハ東京外務省へ差出候事ト可相心得勿論事柄永引手輕ニ不相濟儀ハ開港場へ相届候ト猶又外務省へ申立事

右之通

〇商船規則

(明治三年正月二十七日布告)

郵船商船規則別冊之通御定ニ相成候條此段相達候事

郵船規則ハ廢止ニ付略ス

商船規則

西洋形商船買入ノ儀ニ付先般相觸置候趣モ有之軍艦ヲ除ノ外在來日本製造ノ船ハ勿論
 西洋形商船ニ至迄總テ民部省中通商司ノ管轄ニ被付候條得其意石西洋形商船所持ノモ
 ノ或ハ新規買求候モノハ民部省外務省連印ノ免許狀可申請尤別紙規則書一通開港場運
 上所ヨリ相渡令所持候條其旨可相心得候一體日本製造ノ船ハ度々難破ノ患モ有之人命
 荷物等ノ損傷不少詰リ皇國ノ御損失ト相成候ニ付追テハ不殘西洋形ノ大船ニ仕替度御
 旨趣ニ付當今西洋形ノ船所持ノ者ハ厚御引立被遣候條其旨可相心得候乍去密商拔荷等
 不心得ノ儀相働候者ハ嚴重取締不致候テハ不相濟ニ付別紙ノ通御規則御取極相成候儀
 ニ付津々浦々ニ於テ此旨吃度可相守候事

午正月

太政官

兎狀案畧ス

規則

西洋形商船買入度モノハ其旨開港場運上所へ可願出其上船ノ善惡新古檢閲ノ上兎許差
 遣可申事

一御國旗ノ事

右ハ決テ取外シ候事不相成附屬之舩舟ニ至迄必可揚置事

一每朝西洋時規第八字ニ引揚ケ夕方ハ日沒迄テ限引卸スヘキ事

但右御國旗引揚無之節ハ海賊船之取扱請候テモ申譯ナキ事萬國普通之公法タル事

一御國旗ノ寸法別紙ノ通ニ候事

但大旗ハ祝日ニ引揚平日ハ小旗引揚ケ風雨晦暝之節ハ小旗迄引卸置不苦候事

祝日	正月朔日	正月十五日	三月三日
	五月五日	七月七日	七月十五日
	八月朔日	九月九日	九月廿二日

右之通

一御軍艦へ出合候節ハ我旗章ヲ三度昇降イタシ禮義ヲナスヘキ事

一夜間ハ旗章ト引替ニ燈明可引揚燈明ハ青赤白ノ三坐ヲ設ケ航海中赤ハ左舷青ハ右舷

ニ點火シ白ハ前櫓頂遠方ヨリ見留易キ所ニ揚置燈明消エサル様可致事

商船規則

一船ノ込合タル節並風雨浪高ノ折ハ別テ心ヲ用ヒ互ニ突當ラサル様可致右ハ日本船タ
 リ共同様ナレハ外國船ハ別テ此規則嚴重ナレハ精密ニ用心スヘシ
 一貿易港碇泊中荷物陸揚船積共運上所へ願立免許狀ヲ受出入可致事
 但手數銀差出ニ不及候事

一貿易港オイテ荷物ノ取引イタシ候ハ、其旨通商司へ可相届事
 一航海中ハ兼テ帳面用意致置開港場ハ不及申諸湊へ入津ノ節ハ十二時 西洋ノ二ノ間ニ
 其所ノ運上所又ハ湊役所へ届出檢印可請出帆ノ節同斷ノ事
 十四時

檢印ノ式略ス

右出入檢印請候節手數銀相納ルニ不及事

一八年三月第四拾號布告ヲ以テ第十項廢止

一西洋形商船並在來日本商船トモ積荷ノ總數品物ノ名並其送り先ヲ認通商司並運上所
 へ可差出尤其港ヨリ陸揚又其船積スヘキ品物ハ一々相届川申事
 一諸港へ着船ノ節湊役人船改ノタメ出張致引續キ爲取締乘組居候事

但船中オイテ聊ノ品タリ共仕向ケ間敷儀一切不相成事

一船中乘組ノ者病死致候節ハ水葬不相成陸地へ相當ノ葬禮可取行事

一大炮小銃玉藥類ハ積込陸揚トモ其港運上所或ハ役所ノ免許ヲ乞フヘキ事

一海賊防禦其外ノ用意ノタメ相當ノ銃器備置候儀ハ苦シカラス尤兼テ挺數等ノ免許狀
 民部省ヨリ請取居ヘキ事

一滯船入費ハ一噸ニ付一日金貳朱ト被定置候間商賣向ハ勿論仮令官府ノ御用タリ共船
 ノ進退自由ヲ得ス雜費相懸リ候節ハ其償右ノ噸數ヨリ割出シ取立候テ不苦候事

但諸港オイテ威權ケ間敷振舞及ヒ無故出帆差留候節ハ右ノ償可申立事

一免許ナシ外國へ通船ノ儀不相成候萬一相犯スニオイテハ船並荷物共取上吃度御答可
 有之事

一免許ヲ受候上外國人ヲ雇ヒ船中使役ノ儀不苦事

但不開港ノ地ニテ無據上陸爲致候節ハ護衛ノ者急度附添其所ノ役所へ相届官許ノ
 證據差出可申事

一困難ト見請候船ハ内外國人之差別ナク救助イタシ可遣事

但外國人ハ開港場之役所へ可引渡尤右ニ付入費等有之節ハ開港場運上所ヨリ相當
 御下ケ金有之ヘキ事

一外國人へ貸遣候節ハ約定書ヲ以テ通商司へ届出候得ハ直ニ運上所へ掛合之上其國々
 旗章引揚候儀御差許可相成候事

一外國人ト申合近海オイテ密商イタシ候儀者勿論右之外御規則ニ相背候儀取計候節ハ

其船取揚吃度御答可有之事

一八年十一月第百八十一號

一布告ヲ以テ第廿二項廢止

一西洋形商船蒸氣ハ百噸ニ付一ヶ年金拾五兩風帆ハ百噸ニ付一ヶ年金拾兩宛税金通商司へ可相納候事

但在來日本製商船之分ハ積石數百石ニ付金壹兩宛可相納事

右之通相定候條嚴重ニ可相守事

(十二年二月十日布告第五號)

自今西洋形商船ハ總テ沿海管廳ノ所轄ニ被附候條來ル七月三十一日迄ニ本船ノ定繫港ヲ定メ其地ノ船籍ニ編入致スベシ

但定繫港ハ船主又ハ本船ノ公務ヲ代理スル者所在ノ地ニ於テ定ムヘシ
右布告候事

(十二年五月十五日布告第十九號)

明治七年八月第八拾八號布告航海公證規則ヲ廢シ明治三年正月二十七日布告中西洋形商船免狀別紙ノ通改正候條此旨布告候事

免狀畧ス

○船稅規則

(明治四年八月五日布告)

商船ノ儀布告書并規則書共去庚午正月月中相達候處今般船稅ノ儀別紙規則書ノ通相定メ候條各管内共區々ノ所爲無之様可取扱候事

別紙

在來日本商船ハ勿論西洋形商船ニ至ル迄船稅取立方ノ儀商船規則中ニ掲載有之候處石ハ管轄所ニ於テ不取纏候テハ不都合ニ付各府縣ニ於テ取調別紙規則ニ從ヒ鑑札相渡シ當辛末年ヨリ年々定則通税金取立可申候事

辛未八月

大藏省

船稅規則

第一則 各管轄所ニ於テ其管下船持共取調每一艘篤ト見分ノ上積石數相改鑑札相渡石數噸數ニ應シ在來日本船ハ百石ニ付金一兩蒸氣船ハ百噸ニ付金拾五兩風帆ハ同斷金拾兩宛税金年々可取立事

但新規合船或ハ讓請船鑑札願出候節モ本文同様篤ト見分ノ上積石相改鑑札可相渡事

右鑑札ハ他方航海中常々大切ニ所持可爲致尤盜難火災其外等ニテ失候分ハ其仔細明瞭ニ相分候ハ、最前渡置候積石高ヲ照シ新規鑑札可相渡候事

船稅規則

第二則 各管内船税金ハ毎年四月中迄ニ取立六月中迄ニ調書共相添當省ニ可相納事

但當辛末年ノ分ハ十月中迄ニ取立十二月中ニ納方可取計事

第三則 五年八月第二二百二拾六号達ニテ改正

各港入津ノ船々鑑札爲差出一々相改可申若無鑑札ノ船有之候ハ、常税五倍ノ罰金取立可申且他管内ノ船ニ候共同様罰金取立候上其手續詳細ニ其本管廳ニ可申送候事

但發令前航海致シ未タ本管下ニ歸船無之鑑札所持不致向モ可有之右ハ此限ニ無之

事 他管内ノ船罰金取立候ハ、其譯相記候証書相渡歸船ノ上本管廳ヨリ鑑札願請候迄航海無差支様可致候尤船ノ儀ハ早々歸帆致シ候様乗組ノ者ニ可相達事

但右証書ハ歸船ノ上鑑札願請候節本管廳ニ可差出事

右ノ通改正ノ候條當申十一月ヨリ成規ニ照準ニ相改可申候尤各港入津ノ船々ヨリ鑑札爲差出積石噸數等相改候等先規中掲載有之候處右ハ其本管廳ニ於テ鑑札相渡候節綿密ニ相改候儀ニ付以來入津ノ船々ハ鑑札相改候ノミニテ積石噸數等不及改儀ト可相心得事

第四則 各管下ノ者新規合船或ハ解船破船又ハ船讓渡ノ分ハ其時々相届可申事

但四月前解船破船并四月後合船ノ分ハ其年ノ税金相納ニ不及事

第五則 右ニ掲候船ハ積石五拾石以上ノ商船ニ限リ可申尤モ解漁船等ハ積石五拾石以上以下ニ候共例外ノ事

但解漁船ノ類取扱方各所區々ニ付一定ノ御規則御詮議可相成候條船數等取調稅則見込可申立候尤右稅則御確定相成候迄ハ從前ノ通取扱可申事

第六則 鑑札燒印并押切判ハ離形ノ通其管轄所ニテ製造致シ右印鑑當省ニ差出且諸港ニモ相廻シ置キ可申事

第七則 右規則施行ニ付候諸入費ハ一ケ年試驗ノ上可申立事

右之通規則相定候事

離形略ス

(明治六年一月二十五日租稅寮達)

船稅規則第三則改正中無鑑札ノ船有之候ハ、常税五倍増ノ罰金取立可申且他管下ノ船ニ候共同様罰金取立可申旨昨壬申八月相達候處一昨辛未八月中稅則被仰出候以前ヨリ

他港航海中ニテ于今歸帆不致處ヨリ改方未濟無鑑札ノ分不少哉ニ有之右ハ各業體ノ都合ニ寄リ歸帆不致ハ無據儀ニ有之然ルニ罰金取立ノ方法施行候上ハ右様ノ分有之候テハ御取締ニモ關シ不都合ノ儀ニ付各港入津船々ノ内前件ノ次第ニテ未タ鑑札不願受分

有之候ハ、事實取調ノ上於其港兼テ相達候方法ニ基キ積石數相改飯鑑札相渡其段詳細

本管轄廳へ可相達本管轄廳ニ於テハ右達ヲ証トシテ船持共ヨリ税金取立追テ歸帆ノ上ハ本鑑札ニ引換假鑑札ハ相渡候廳へ返戻可致右ノ外無鑑札ノ船へハ規則通罰金取立可申此段相達候事

(八年四月廿日內務省乙第五十號府縣)

諸商船碇泊稅取立方ニ付テハ端石算數ノ儀是迄區々相成居不都合候條自今船積石數十右以下ノ端數ハ都テ切捨收稅候儀ト可相心得尤是迄取來候分ハ差戻不及候條此旨相達候事

〇解漁船并海川小廻船等船稅規則

(明治七年二月十八日第二拾一號布告)

明治四年辛未八月船稅規則中解漁船等ノ類ハ追テ一般ノ稅規確定可相成旨相達置候處各地方有稅無稅或ハ寬苛輕重有之不公平ニ付今般別冊ノ通相定來ル明治八年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

解漁船并海川小廻船等船稅規則

第一則 各府縣管下ノ人民所有ノ解漁船并海川小廻シ船等ノ類ハ來ル明治八年以後檢査ノ上燒印ヲ標シ候筈ニ付本年十二月中迄ニ管轄廳へ申立檢印相受ケ可申事

第二則 解漁船并川船ハ積石ノ多少ヲ問ハス其他五拾石未滿海船之類一艘毎ニ船梁ニ

リ船梁迄之延長間數ニ應シ左ノ通り年々四月中迄ニ税金相納可申事

但由尺六尺ヲ以テ一間トシ間ニ不滿端數ハ切捨候事

一 船梁ニリ 長三間迄ハ 一ヶ年 税金二十錢

以上長一間ヲ加ル毎ニ十五錢ツ、ヲ増加納稅可致事

第三則 八年三月二十八日第四 耕作一途ニ相用ヒ候田舟及ヒ水害備ノタメ常ニ陸上

ニ設ケ置候分又ハ橋梁ニ換へ渡場ノミニ相用ヒ全ク他ノ稼方ニ不充船并船橋ハ別紙

書式ニ倣ヒ願書差出船稅免除ノ檢印相受可申事

第四則 四月前ノ解船破船及ヒ四月後ノ新規造船ハ其年納稅不及候へ共其時々相届ケ造船ノ分ハ第一則ノ通り檢印請置可申事

但讓渡船ノ儀モ其時々届出可申事

第五則 無檢印ノ船及船稅免除ノ檢印相受ケ置他ノ稼方ニ相充候船モ有之ニ於テハ其船相當稅額五倍ノ罰金可申付事

第六則 無檢印ノ船及ヒ船稅免除ノ檢印有之船ヲ以テ他ノ稼方致シ候者ヲ訴出候者ハ其罰金拾分ノ一賞金トシテ給與候事

(八年四月十九日第八拾一號布告ニテ追加)

第七則 ハツテラ并傳馬船ト唱フルモノ、内西洋形蒸氣船同風帆船及ヒ日本形等ノ

廻船へ附属シ航海中本船へ取載セ候小船ノ分ニ限リ第三則同様願書差出シ船税免除ノ檢印相受ケ可申事

書式略ス

〇海上衝突豫防規則

(明治十三年七月十六日第三十五號布告)

明治七年一月第五號布告海上衝突豫防規則別冊ノ通改正シ來九月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

別冊規則畧ス

(明治九年二月九日第拾一號布告)

明治七年一月第五號ヲ以テ海上衝突豫防規則布告候處于今點燈不致往々衝突ノ患害ヲ生シ候趣ニ付海上衝突豫防規則左ノ通相定候條此旨布告候事

海上衝突豫防副則

第一條 來明治十年一月一日ヨリ西洋形回漕船ハ勿論日本形ト雖モ積石百石以上コシテ全部若クハ一部分甲板ヲ具シ航洋スヘキ回漕船ハ明治七年一月第五號海上衝突豫防規則ヲ屹度遵守シ必ズ點燈スヘシ

第二條 日本形船ハ別紙繪圖面ノ通積荷外圍ノタメ兩舷ニ設ケタル左右柱一舷燈ノ左舷

ニ掲ル紅綠ヲ掲シヘシ
ノ燈籠ヲ云

第三條 掲燈ノ裝置點燈ノ時限其他詳細ノ儀ハ海上衝突豫防規則ニ就テ領會スヘシ

第四條 來明治十年一月一日以後ニ至リ止ムナキ事故アルニアラスニテ點燈セサルモノハ金五圓ノ罰金ヲ科シ燈籠ヲ所持セサルモノハ金拾圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第五條 右同日以後ニ至リ點燈セスシテ衝突ノ難ニ罹ル時ハ其船主船長及ヒ其船乘組ノ者ハ何様ノ損害ヲ被ルモ他ニ對シテ之カ辨償ヲ要請シ得ヘカラス

第六條 舷燈ハ驛遞寮ノ免許ヲ得タル製造人ノ製造シタルモノニ限ルヘシ若シ之ヲ犯スモノハ金七圓五拾錢ノ罰金ヲ科スヘシ

但堅牢ニシテ且其規ニ適スル舶來品ハ此限ニアラス

第七條 開拓使及沿海府縣ニ於テハ其筋吏員ヲシテ其管下港灣出入及ヒ繫船船ノ此規則ヲ遵守スルヤ否ヲ時々監査セムヘシ

第八條 此規則ヲ違犯セシテ訴出ルモノハ本犯罰金ノ半額ヲ賞與スヘシ

圖式畧之

(九年九月十三日第百拾六號布告)

本年二月第拾壹號布告海上衝突豫防副則中掲燈ノ儀明治十年一月一日ヲ明治十一年一月一日ト改正候條此旨布告候事

海上衝突豫防規則

○西洋形船々長運轉手機關手試驗規則

(明治九年六月六日第八拾二號布告)

西洋形船々長運轉手機關手試驗規則別冊ノ通相定候條此旨布告候事

但試驗所其他詳細ノ儀ハ受験志願ノ者ヨリ直ニ驛遞察へ可伺出事

西洋形船々長運轉手及ヒ機關手試驗免狀規則

此規則ハ船長運轉手及ヒ機關手約定總則及ヒ試驗免狀章程ノ兩款ニ分ツ

此兩款ハ航洋船ニ施行スルモノニシテ湖川港灣内海或ハ海峽中ニ限り運用セル

船ニ施行セサルモノトス

船長運轉手及機關手約定總則

第壹條 明治十年第一月一日ヨリ以後

海軍諸艦
ヲ除キ

登簿噸數壹百公稱馬力五十以上ノ西洋

形航洋船ノ船長運轉手或ハ機關手タル者ハ何人タリモ此規則ニ遵テ發出シタル免狀

ヲ受有スルコアラサレハ其職ヲ執ルヲ許サス

第二條 船長運轉手及ヒ機關手ノ免狀ヲ分テ甲乙兩種トナス即チ本免狀假免是狀ナリ

(甲)本免狀ハ後ニ記載セル本則ノ條款或ハ内務卿ノ命令或ハ其他須要ナル順叙ニ從ヒ

試驗ヲ了リタル人ニ授與ス

(乙)假免狀モ亦後ニ記載セル假則ノ條款ニ照シテ之ヲ授與ス然レモ明治十五年第一月

一日以後ハ總テ之ヲ廢止スヘシ

第三條 第一條ニ記載セル日月以後ハ登簿噸數一百以上四百以下ノ航洋船ハ其等級ニ

適セル本免狀若シハ假免狀ヲ受有スル船長及ヒ一等運轉手ヲ乘組シメ又登簿噸數五

百以上ノ航洋船ハ其適等ナル本免狀ヲ受有スル船長一等運轉手及ヒ本免狀若シハ假

免狀ヲ受有スル二等運轉手ヲ乘組シメ公稱馬力五十以上一百以下ノ航洋船ハ適

等ナル本免狀若シハ假免狀ヲ受有スル一等機關手ヲ乘組シメ又公稱馬力一百以上

二百以下ノ航洋船ハ其適當ナル本免狀若シハ假免狀ヲ受有スル一等及ヒ二等ノ機

關手ヲ乘組シメ又其船三百馬力以上ナレハ一等機關手ハ其適等ナル本免狀ヲ受有

シ二等機關手ハ本免狀若シハ假免狀ヲ受有スルモノヲ乘組シメサレハ其出港ヲ

許サズ

前ニ記載セル其適等若シクハ高等ナル免狀ヲ所持セズ或ハ所持シ能ハスシテ其職ヲ

執リ出港セシモノ及ヒ此規則ニ遵テ要スヘキ免狀ヲ所持スルヤ否又ハ所持シ能フヤ

否ヤヲ推究認定セズシテ之ヲ使役スルモノハ何人ヲ論セズ二百五拾圓以内ノ罰金

ヲ科スベシ

第四條 内務卿ハ船長運轉手及ヒ機關手試驗ノ章程ヲ時々受験人ノ適度ニ隨ヒ又其場

合ノ肝要ナルニ應シテ改正シ其可驗官ヲシテ之ヲ實施セシムヘシ

第五條 受験人ハ試験章程ニ掲載セル手数料若クハ内務卿ヨリ其都度々々命シ定ムル所ノ金額ヲ納ムヘシ此金額ハ手数料ヨリ少キモノトス但シ是等ハ試験ノ前ニ其筋吏員ニ交付スヘシ若受験人落第セルハ既ニ納メシ手数料ノ半額ヲ還付スヘシ

第六條 後ニ記載スル條款ニ從ヒ受験人ノ試験ヲ完了シ且技藝其等ニ應シ性質行狀善良ナルノ明証アリ其他各般皆所要ニ適セリト司驗官ヨリ報告セハ内務卿ハ第三條ニ記セル免狀ノ階級ニ照シ若干噸數若シハ若干馬力航洋船ノ船長或ハ一等若シクハ二等運轉手或ハ一等若クハ二等機關手タルヘキヲ証スル免狀ヲ本人ニ授與スヘシ若シ同卿ニ於テ其報告ヲ未ダ信實ナラスト思索スルハ更ニ前度ノ司驗官或ハ他ノ司驗官ニ命シテ再ヒ之ヲ試験セシメ且其受験人ノ証書及ヒ行狀等ヲ審究シテ後之レニ免狀ヲ授與スヘシ

第七條 内務省ハ簿冊ヲ製寫シ授與セシ毎號ノ免狀及ヒ司驗官ノ氏名等ヲ登記シ他日ノ証ニ供ス船長其他若シ其受領セル免狀ヲ亡失或ハ竊取セラレ其自己ノ過失ニアラサルヲ証明シ得トキハ簿記ニ照ラシ更ニ免狀ヲ作テ之ヲ授與スヘシ更ニ授與セル免狀ニハ再授ノ文字ヲ記スト雖モ其效驗ハ都テ原免狀ト異ナルナシ此場合ニ於テハ本途試験料ノ半額ヲ納ムヘシ

第八條 船長若クハ船主其備使スル海員船長ヲ除クノ外一切ノト取結フヘキ術人雇止約定書ヲ其掛リ吏員ノ眼前ニ於テ調印スルハ前ニ記載セル規則ニ照應シタル其船長運轉手及ヒ(漁船ナラハ)機關手ノ免狀ヲ其吏員ニ出シテ檢査ヲ受クヘシ(雇入雇止規則ハ追テ制定布告スヘシ)

此吏員之ヲ檢シテ真正且充全ナリト思惟スルハ即チ其檢査証書ヲ作リ之ヲ授與セル月日及ヒ海員雇入雇止約定満期ノ月日ヲ記載シテ其船長若クハ船主ニ授與スヘシ右約定期限中船長運轉手(漁船ナラハ)機關手ノ交替アルハ更ニ其船長若クハ船主ヨリ前節ノ如ク其免狀ヲ其掛吏員ニ出シテ再ヒ檢査証書ヲ受クヘシ各船出港免狀ヲ請フハ稅關官吏ヘ前記ノ証書ヲ出スヘシ若シ此証書ヲ出サ、ルハ稅關官吏ハ出港免狀ヲ授與スヘカラス若シ船長運轉手等ノ交替アルモ之ヲ其掛吏員ニ告知シテ書換証書即チ檢査証書ヲ得ルヲ怠リ或ハ稅關官吏ニ此証書ヲ出スノ無クシテ出港スルハ二十五圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ

第九條 自己或ハ他人ノ爲メニ免狀ヲ受クノ謀リ詐偽ヲ以テ之レヲ願請スル者或ハ人ヲシテ之ヲ願請セシムル者或ハ之ヲ助力スル者或ハ免狀ヲ贋造スル者之ヲ助力スル者及人ヲシテ贋造セシムル者之ヲ助力スル者或ハ故意ニ免狀ヲ變更スル者之ヲ助

カスル者又ハ人ヲシテ之ヲ變更セシムル者或ハ贋造若シクハ變更或ハ取消シ若シクハ停止セラレシ免狀ヲ故意ニ使用スル者或ハ免狀ヲ所有スルヲ得スシテ之ヲ使用スル者或ハ免狀ヲ他人ニ貸付スル者或ハ他人ヲシテ之ヲ使用セシムル者ハ五百圓以内ノ罰金ヲ科シ或ハ六月以内ノ禁獄或ハ懲役ニ處ス

第十條 内務卿ハ各船長運轉手或ハ機關手ノ技藝劣等若シクハ粗蕪ナルカ或ハ不行狀ニシテ其職務ヲ執ルニ不適當ト思察スル片ハ直ニ之ヲ審究或ハ審究セシムヘシ而シテ左ニ掲グル場合ニ於テハ其免狀ヲ取消シ或ハ一時其使用ヲ停止スヘシ

第一 亂辭 不行狀 粗暴 指揮ニ悖戾ス 職務ニ怠ル者

第二 其失錯又ハ不良ノ所爲ニ由テ船ヲ失ヒ或ハ捨テ或ハ之レニ大損害ヲ生シ又ハ人命ヲ害ナヒ或ハ人ニ大傷痕ヲ被ムラシムル者

第三 他ノ甚シキ罪科ヲ犯セシ者

凡ソ般長運轉手及ヒ機關手ヲ論セス一旦其免狀ヲ取消シ或ハ一時其使用ヲ停止セラレタル片ハ其免狀ヲ内務省若シクハ其筋ノ管廳ニ取揚ケ且其失錯ニ就テ二百五十圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ
其掛リ吏員ハ其免狀ヲ取消シ或ハ其所用ヲ停止セラレタル者ヲ壹百圓以上又ハ五十馬力以上ノ航洋船ノ船長運轉手若シクハ機關手トシテ其職ヲ執ラシムヘカラス

又何等ノ人タリモ其免狀ヲ取消シ或ハ一時其使用ヲ停止セラレタル者ヲ船長運轉手或ハ機關手トシテ其職業ニ備使スルヲ許サス若シ其情狀ヲ知テ之ヲ使役スル者アラハ二百五十圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ

一旦其免狀ヲ取消サレタル者ト雖モ爾後内務卿ノ適當ト思考スル場合ニ於テハ再び同等若シクハ下等ノ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第十一條 前ニ掲載セル犯罪者ハ裁判所若シクハ其筋ノ官員ニ於テ之ヲ審斷スヘシ

第十二條 裁判所若シクハ其筋ノ官員相當ノ糾彈ヲナセシ上罰金ノ額ヲ決スル片ハ現時或ハ他日本人ノ受ケ取ルヘキ給金若シクハ其他ノ金額ヨリ之ヲ納メシムルコトアルヘシ但シ船主若シクハ本人ヲ雇使スル者其裁判所若シクハ其筋ノ官員ヨリ其旨ノ命令狀ヲ受取ルコト於テハ現時或ハ他日本人ニ渡スヘキ給料若シクハ其他ノ金額中ヨリ其罰金ヲ引去リ之ヲ上納スヘシ

船主若シクハ傭主タル者其傭使スル船長等ニ裁判スヘキ事件ヲ生スル片ハ其裁判未決ノ間ハ之レニ給料及ヒ其他ノ金額ヲ與フヘカラス若シ其裁決ヲ終ヘサル間ニ故ナク之レニ給料其他ノ金額ヲ與ヘ又ハ命令狀ヲ受取リタル上條理ナクシテ其罰金ヲ拂フコトヲ怠ル片ハ其二倍ノ罰金ヲ科スヘシ

第十條 犯罪者其處決ニ服セサル者ハ一般ノ規則ニ遵テ控訴上告スルヲ得ヘシ

船長運轉手及ヒ機關手試験免狀章程略ス

(九年六月廿八日布告第九十四號追加)

本年六月第八十二號布告西洋形船々長運轉手機關手試験規則別紙ノ通追加候條此旨布告候事

西洋形船々長運轉手機關手試験免狀規則追加

第一條 明治十年一月一日以後登簿噸數壹百未滿公稱馬力五拾未滿ノ運送汽船(湖川運用ノ分)共ニ乗組船長及機關手タル者ハ次ニ記載スル條款ニ遵ヒ技術ノ試験ヲ受ケ其本分ノ免狀ヲ所持スル者ニアラサレハ其職ヲ執ルヲ許サス

第二條 既ニ本則ノ試験ヲ經テ免狀本所持スル船長機關手一等ハ勿論運轉手二等ト雖モ此條款ニ遵ヒ別ニ船長ノ免狀ヲ受ケサルモ運送汽船ノ船長タルヲ得ヘシ

第三條 運送汽船ハ第一條記載ノ月日以後其技術免狀ヲ所持スル船長及ヒ機關手各一人以上乗組ニアラサレハ其運航ヲ許サス

第四條 第一條ニ記載スル月日以後運送汽船ノ船長及ヒ機關手其適當ノ免狀ヲ所持セズ或ハ所持シ能ハサル免狀ヲ所持シテ其職ヲ執リ其船ニ乗組ム者及其免狀ヲ所持スルヤ否又ハ所持シ能フヤ否ヲ推究セスシテ之ヲ使役スル者ハ何人ヲ論セス二百五拾圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ

第五條 東京ニ於テハ毎月第二ノ木曜日ニ試験場ヲ開キ大阪ニ於テハ毎年一回若クハ

二回其他長崎函館新潟ノ三港ニ臨時試験官ヲ派出シ其場ヲ開クヘシ

東京ノ外各地ニ於テ試験場ヲ開ク時ハ其開クヘキ場所及月日等ヲ少ナクモ三十日以前ニ廣告スヘシ

第六條 受験人ハ本則試験章程第二條ニ掲クル如ク其氏名族籍年齢等ヲ詳記シ保証人ヲ立テ之ニ試験手数料トシテ金二圓五十錢ヲ添ヘ試験ノ前日迄ニ其試験所ニ差出スヘシ

船長ノ受験人ハ試験願書ニ航行スヘキ地名ヲ記入スヘシ

第七條 受験人ハ必ス滿二十歲以上ニシテ既ニ二ヶ年以上汽船運轉ニ從事シ左ノ問題ニ應答シ得ル者タルヘシ

船長試験課程

第一 普通ノ讀書

第二 汽船運用ノ方法

第三 羅針ノ用法

第四 海上衝突豫防規則

第五 船路ノ地勢及燈臺礁標浮標ノ位置(受験人平生定航スル地方ノ)

機關手試驗課程

- 第一 蒸氣ノ發成ヨリ機關ノ運動ヲ起サシムル迄ノ手續順序
 - 第二 馬力ノ多少ニヨリ費消ノ石炭ニ増減アルコト及炭質ノ善惡ヲ辨知ス
 - 第三 安全瓣ノ用及其製作ニヨリ重量ノ増減
 - 第四 養罐水ノ用方
 - 第五 罐及機關ニ不慮ノ破損ヲ生スル時適宜ニ之ヲ補理スル方法
 - 第六 蒸管或ハ水管ノ接續方及烟管ノ破損スル時之ヲ補理スルノ方法
- 右ニ掲クル問題ノ外時宜ニ依リ司驗官ノ意見ヲ以テ猶他ノ問題ヲ設ケ之ヲ増減取捨スルコトアルヘシ

第八條 此規則ニ記載スルノ外試驗其他ノ諸則及罰則共總テ本則條款ノ通リタルヘシ
 (明治九年十二月廿八日布告第五百五十七號)
 本年六月第八十二號布告西洋形船々長運轉手機關手試驗規則施行ノ儀ハ同規則中船長運轉手及ヒ機關手約定總則第八條ニ據リ追テ雇入雇止規則制定布告候迄延期候條此旨布告候事

但本年六月第九拾四號布告同規則追加ノ分ハ來明治十年六月三十日迄延期候事
 (明治十三年三月三十日布告第拾號)

明治九年六月第八拾二號第九十四號同年十二月第五十三號明治十年八月第五拾五號明治十二年二月第九號同年五月第拾九號布告中商船ノ文字ヲ刪リ西洋形船ト改正候條此旨布告候事

〇西洋形船海員雇入雇止規則

(明治十二年二月十九日第九號布告)

西洋形船海員雇入雇止規則別冊ノ通相定來ル八月十六日ヨリ施行候條此旨布告候事

西洋形船海員雇入雇止規則

- 第一條 西洋形船(蒸氣船ハ拾噸以上風帆船ハ貳拾噸以上)ニ於テ海員ヲ雇入又ハ雇止ヲ爲ス時ハ總テ此規則ノ條款ニ準據スヘシ
- 第二條 雇入ノ時ハ其地ニ於ケル浦役場ニ於テ内務省ヨリ發スル海員雇入證書用紙ヲ以テ其定約書ヲ作り雇者被雇者記名調印ノ上浦役人ノ公認ヲ受クヘシ
- 但定約書ハ正副貳通ニ作り其本書ハ本船ニ保テ置キ副書ハ浦役場ニ止メ置クヘシ
- 第三條 内海回漕船ニ於テハ雇入期限ヲ六ヶ月以内ト定ム然レモ外國航船ニ於テハ六ヶ月以外ヲ約スルヲ得ヘシ
- 第四條 雇止ノ時雇者ハ其地ニ於ケル浦役場ニ於テ内務省ヨリ發スル海員雇止證書用紙ヲ以テ雇止證書ヲ作り記名調印ノ上浦役人ノ公認ヲ受ケ之ヲ其被雇者ニ付與スヘシ

西洋形船海員雇入雇止規則

シ

第五條 雇止ハ雇入地ニ限リ行フヘシ故ニ雇入地外ニ於テ滿期ニ至ルモ雇入地ニ歸着スル迄ハ雇入期限内ト見做スヲ得ヘシ

但雇者被雇者雙方ノ協意ヲ以テスルモノハ本條ノ限リニアラス

第六條 左ノ場合ニ於テハ雇入地外ト雇入期限内トニ拘ラス僱者ヨリ僱止ヲナスヲ得ヘシ

- 一 疾病又ハ體質衰弱ノ故ヲ以テ本務ヲ執行シ能ハサル者
- 一本船難破其他ノ災厄ニ罹リ進航シ能ハサル時

但以上二項ノ場合ニ於テハ雇者ノ費用ヲ以テ雇入地ニ歸還セシムヘシ

一 第十條ニ掲クル違約一ヶ月内三回以上ニ至ル者

一 第十條ニ犯ス者

第七條 又左ノ場合ニ於テハ雇入地外ト雇入期限内トニ拘ラス被雇者ヨリ其定約ヲ解シテ得ヘシ

- 一 苛虐ノ取扱ヲ受ケシ時
 - 一 飲食物又ハ給金ノ全額或ハ幾分ヲ給與セラレサル時
- 但右ノ場合ニ於テハ雇地ニ返着ノ旅費ヲ請求スルヲ得ヘシ

第八條 外國ニ於テ雇入若クハ雇止ヲ爲ス時ハ其國駐留ノ我國領事館ニ於テ内務省ヨリ發スル用紙ヲ以テ定約書若クハ雇止證書ヲ作り記名調印ノ上領事ノ公認ヲ受クヘシ

但定約書ハ正副貳通ニ作り其本書ハ本船ニ保テ置キ副書ハ領事館ニ止メ置クヘシ
第九條 新タニ海員トナル者及ヒ此規則施行以前雇止トナリシ者ヲ除クノ外被雇者ハ必ス最後ノ雇止證書ヲ所持スヘシ又雇者ハ最後ノ雇止證書ヲ所持セサル者雇入スヘカラス

第十條 船長ノ指圖ニ背ク者許可ヲ得スシテ上陸シ又ハ許可ノ時限ヲ過キテ歸船スル者(第十一條ノ脱籍者ニアラス)本務ヲ怠ル者喧嘩口論ヲナス者酩酊スル者私ニ銃器刀槍或ハ酒類ヲ船中ニ貯フ者ハ毎回其給金三分ヨリ多カラサル額ヲ違約金トシテ雇主之ヲ収メ且其銃器刀槍或ハ酒類ヲ取上クルヲ得ヘシ

第十一條 船中ニ於テ徒黨ヲ謀ル者船長ヲ劫ス者脱船スル者(雇入期限内ニ逃亡スル者ヲ云フ)ハ其事情ニ因リ百日以内ノ懲役ニ處ス若シ船艙船具ヲ毀傷シ又ハ載貨ヲ私用スル者ハ其實價ヲ償ハシムルノ外本條ニ依テ其罪ヲ科スヘシ

第十二條 海員ヲ虐使シ飲食物或ハ給金ノ全額又ハ幾分ヲ給與セサル者ハ其事情ニ因リ百圓以内ノ罰金ヲ科シ其給與セサル金額ハ年六分ノ利子ヲ加ヘ償還セシムヘシ

第十三條 此規則中第十條第十一條第十二條ヲ除キ其他ノ諸條款ヲ犯ス者ハ其事情ニ因リ五拾圓以內ノ罰金ヲ科スヘシ

〇西洋形船水先免狀規則

(明治十一年十二月九日第三十七號布告)

明治九年^{十二}月^{十二}日 第五百五拾四號布告 西洋形船水先免狀規則別冊之通改正候條此旨布告候事

西洋形船水先免狀規則

第一條 明治十二年一月一日ヨリ以後下ニ記載スル海港即チ水先區ニ於テ西洋形船舶ノ水先人トナリ營業スル者及ヒ西洋形船舶ノ水先船トシテ使用スル諸船ヘハ此規則ニ從テ發行スル免狀ヲ交付スヘシ

第二條 水先ノ事業ニ關係シタル諸般ノ事務ハ內務省ノ統轄ニ屬シ同省ニ於テハ充分其筋ニ明カナル者ヲ撰ミ此規則ニ準據シテ各試驗出願人ヲ試驗スヘシ

第三條 免狀ハ左ニ記載ノ海港即チ水先區ニ於ケル水先人ニ交付シ且現況ニ從テ其他ノ地方ニ於ケル水先人ニ交付スヘシ

第一 東京灣

即チ伊豆國石廊岬ヨリ同國神子本嶋及ヒ大嶋波浮港ヲ通過シテ安房國野嶋岬ニ至ル一線ヲ以テ疆界線トス

第二 和泉灘

即チ紀伊國宮岬ヨリ淡路國潮崎ノ仁項ニ至ル一線ヲ以テ其南界ヲ畫シ北ハ淡路國極北ノ部ニ於ケル東經百三十五度ノ所ニ於テ畫シタル一線ヲ以テ疆界線トス

第三 和泉灘ヨリ瀬戸内ヲ通過シテ長崎迄

第四 長崎港

即チ肥前國福田村ヨリ同國伊王嶋ノ極北ヲ通過シテ同國沖島及ヒ香焼島ヲ經テ同國深堀ニ至ル一線ヲ以テ疆界線トス

第五 津輕海峽

即チ陸奥國尻矢崎ヨリ渡嶋國惠山崎ニ至ル一線ヲ以テ其東界ヲ畫シ陸奥國大間村ヨリ同國龍飛崎ニ至ル一線ヲ以テ其南界ヲ畫シ同國龍飛崎ヨリ渡嶋國白神崎ニ至ル一線ヲ以テ其西界トス

第四條 各海港即チ水先區内ニ供備スヘキ免許水先人ノ員數ハ其海港即チ水先區ノ現況ニ從フヘシ

第五條 水先人ノ免狀ヲ出願スル者ハ自己ノ技業及ヒ性質殊ニ平素ノ行狀ニ係リ確實ナル履歷証書ヲ豫テ其本管又ハ寄留地ノ地方官廳ヲ經テ內務省ヘ差出シ置キ或ハ試

險開場ノ時ニ於テハ直ニ司驗官ヘ差出スヘシ

第六條 水先人タル者ハ年齢二十二歳ニ滿テ少クモ一ケ年間ハ一百噸以上ノ西洋形船
ニ於テ船長若クハ一等運轉手ノ職ヲ執リシ者若クハ六ケ年間航海ニ從事シ其中一ケ
年間ハ自今營業免許ヲ受ケントスル水先區内ニ於テ既ニ水先見習人トナリ航海ニ從
事セルモノニ限ルヘシ但シ其水先區内ニ在ル諸港灣海峽及ヒ碇泊場ハ勿論危險ノ場
所及ヒ之ヲ避ルタメノ重立タル記標或ハ方位又ハ潮ノ滿干潮流燈光浮標標標ノ位置
ニ悉皆通曉シ且大船ヲ指揮シテ之ヲ運轉スルニ充分適當セリト司驗官ヲ滿足セシム
ルヲ要スヘシ

第七條 受驗人試験ヲ受テ正シク須要ノ條件ニ叶ヒタルト試験官之ヲ認ムル時ハ其旨
ヲ内務省ニ報告シテ直ニ免狀ヲ交付スヘシ但シ此免狀ハ翌年一月一日以後ハ全ク其
効力ヲ有セサルモノトス

第八條 免狀ノ書替ヲ請願セントスル者ハ毎年十一月一日以前其願書ヲ内務省ヘ差出
スヘシ但シ之ヲ許可シ或ハ許可セサルトハ都テ内務省ノ意見ニ因ルヘシ

第九條 免狀ヲ遺失スルモノ又ハ摩損スルモノハ其事由ヲ記シタル願書ヲ内務省ヘ差
出シ書替新免狀ヲ申請シヘシ

第十條 水先人ハ始メテ其免狀ヲ願受ル時金拾圓其書替毎ニ金壹圓ノ手数料ヲ上納ス

ヘシ

第十一條 水先人ノ試験ヲナス時ハ定日ヨリ少クモ十四日前其旨ヲ和洋兩種ノ新聞紙
ヲ以テ公告スヘシ此公告ニハ其免許ヲ與フヘキ人數ノ限り及ヒ試験ノ場所月日ヲモ
記載スヘシ

第十二條 試験出願人ノ履歷証ヲ以テ充分満足ノモノト爲ル時ハ其出願ノ順次ヲ以テ
其姓名ヲ登簿シ登簿ノ順次ニ從テ之カ試験ヲナスヘシ

第十三條 此規則ニ從テ水先免狀ヲ受ケタル外國人ハ其執業上ニ限り日本帝國内何レ
ノ海岸ト雖モ上陸シ且其出發地ヘ陸路歸ルヲ得ルノ特許ヲ與フヘシ

第十四條 第三條ニ規定セル水先區内ニ於テ無免許ノ水先人船舶ヲ嚮導スルハ免許水
先人ヨリ其船舶ノ嚮導ヲサント申入レ又ハ其爲メ信號ヲナスルハ何時ニテモ免許水
先人ヘ其職ヲ讓ルヲ拒ミ仍ホ其船舶ヲ嚮導シ或ハ免許水先人ト詐稱シ正當ナラサル
免狀ヲ用ユル者ハ五十圓以内ノ罰金ヲ科ス

第十五條 水先料ハ別表ニ記ス金高ニ超過スヘカラス但シ表中記載セサルモノハ其距
離ノ遠近ニ隨テ船長ト水先人ノ間ニ相當ノ約束ヲ以テ定ム

第十六條 二人以上ノ免許水先人同時ニ於テ船舶ノ嚮導ヲ申入レ又ハ其信號ヲナスル
ハ最初現ニ乗船シタル者其嚮導ヲ爲シ其水先料ヲ收領シ得ヘシ

第十七條 免許水先人水路嚮導専用ノ水先船ハ第十九條第一節第二節ニ示セル式ノ如ク之ヲ製シ其免狀ヲ内務省ニ願出ツヘシ内務省ハ検査ノ上其免狀ヲ與フヘシ但此免狀ハ水先人免狀同様其効一ケ年ニ限ル者トシ年々其書替ヲ願出ツヘシ

第十八條 各免許水先船ハ免許ヲ得タル區域内ニ於テ其水路嚮導用ノ爲ニハ港灣税噸税燈臺税等ノ諸税ヲ免スヘシ

第十九條 各水先船ハ左ノ徴候ヲ以テ區別スヘシ

第一 水先船ノ外部ハ總テ黑色タルヘシ

第二 船尾及ヒ大帆ノ上部ニ於テ國字及ヒ羅馬字ニテ免許水先船ノ文字並ニ其番號ヲ明瞭ニ書スヘシ

第三 免許水先船ニ免許水先人ノ乗込アル時ハ桅上或ハ船首或ハ旗竿若クハ他ノ認メ易キ場所ニ於テ日出ヨリ日没マテ水先旗ヲ翻揚スヘシ但シ水先旗ハ明治十年一月甲第一號海軍省布達ニ照準スヘシ

第四

(明治十三年九月廿七日) 水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ従事スル時ハ第三拾九號布告ニテ改正 他船ニ用フル燈火ヲ掲ケズ只檣頭ニ於テ周回諸方ヨリ見ユヘキ白燈一個ヲ掲ケ且十五分時ヲ超エザル間歇ヲ以テ閃光一個又ハ數個ヲ發スヘシ 水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ従事セサル時ハ他船ト同様ノ燈火ヲ掲ヘシ

第二十條 日中ニ於テ左ニ記載スル信號ヲ表スル時ハ水先ヲ要求スルノ信號ト認ムヘシ

第一 前檣ニ於テ其船ノ船首旗 英語「シ」又ハ國旗ヲ掲揚スル

第二 萬國普通ノ水先信號PTノ符字ヲ揭示スル

夜間ニ於テ左ノ信號ヲ同時若クハ別時ニ表示スル時ハ水先ヲ要求スルノ信號ト認ムヘシ

第一 十五分時毎ニ青燈ヲ掲出スル

第二 須臾ノ間歇ヲ以テ凡ソ一分時ノ間透明ナル白燈ヲ上甲板ノ舷部ニ於テ射發スル

第二十一條 各免許水先人ハ其免狀ハ勿論此規則ノ寫ヲ一通ツ、交付スヘシ故ニ其筋ノ官吏又ハ雇主ヨリ其書類ノ閱覽ヲ要スル時ハ直ニ之ヲ示スヘシ若シ之ヲ拒ム時ハ内務省ニ於テ其執業ヲ停止シ或ハ其免狀ヲ取上クヘシ

第二十二條 此免狀ハ他人ニ貸與シ或ハ讓與スヘカラス若シ貸與シ或ハ讓與スル時ハ内務省ニ於テ其免狀ヲ取上クヘシ

第二十三條 内務省ニ於テ免許水先人其本分ノ職務ニ堪サルカ若クハ亂醉又ハ不行跡アルカ或ハ故ナクシテ其職務ヲ執ルヲ嫌ヒ若シハ之ヲ怠リタルヲアリト思惟スル

時ハ同省ヨリ吏員ニ命シテ之ヲ審問セシメ其情狀ニ隨ヒ其執業ヲ停止シ或ハ其免狀ヲ取上クヘシ

永先料一覽表略ス

〇外國船乘込規則

(明治九年三月十八日第三十號布告)

外國船ニ乘込旅行セントスル者取締ノタメ左ノ通規則相定候條此旨布告候事

外國船乘込規則

第一條 外國船ニ乘込旅行セントスル者ハ出船當日或ハ一日前其屬籍住所姓名及ヒ何國人所持船何號ニ乘込何港迄赴ク旨ヲ具シタル届書ヲ其出船スル地ノ廳ニ差出シ乘船證書ヲ受クヘシ

第二條 乘船證書ハ壹人壹枚タルヘシ

第三條 乘船證書ヲ請取ルニハ壹枚ニ付手数料トシテ金十錢ヲ納ムヘシ

第四條 乘船證書ハ每人親ヲ出應シテ受取ルヘシ代人ヲ以テスルヲ許サス

第五條 乘船證書ハ着港上陸ノ上其地警察官吏ニ返付スヘシ其途中一時上陸例ヘハ横濱港ヨリ長崎港ニ到ル者其船舶神戸港ニ卸碇スル者ハ其地臨檢警察官吏ニ其證書ノ檢閱ヲ受クヘシ

第六條 乘船證書ハ一度ノ出船ニ用フルモノトス故ニ途中ヨリ上陸スル歟又ハ事故アリテ乘込止メ更ニ他ノ船ニ乘込歟又ハ同船タリトモ他日航海ノ便ニ乘込ム時ハ最初受取タル證書ハ其出船スル地ノ廳ニ納メテ更ニ證書ヲ受取ルヘシ

第七條 乘船證書ヲ所持セスシテ乘船シタル者ハ上陸ノ節違式ニ照シテ處分スヘシ

第八條 開港場アル地方廳ニ於テハ外國船ニ乘込ントスルノ届書ヲ差出ス者アル時ハ

第一條 第四條ノ手續ニ相違ナキヤテ檢閱シ別紙雛形ノ證書ヲ直ニ本人ニ相渡シ手数料ヲ領収スヘシ

第九條 右地方廳ハ兼テ船場ノ要所ニ於テ警察官吏ノ出張所ヲ設ケ置キ外國船出入港毎ニ若干員ヲ臨檢セシメ内國人ノ乘船又ハ上陸スル者ノ證書ヲ一々檢閱シ若シ證書ヲ所持セサル歟又ハ其證書最前ノ出船ニ請取リタルヲ其儘再用シタル歟ヲ視認メタル時ハ詳カニ其所由ヲ取糾シ證書所持セサル者ハ乘船證書ヲ受取ル手續ヲナサシメ或ハ其乘込シテ止ム證書ヲ再用スル者ハ違式ニ照シテ處分スヘシ

第十條 警察官吏乘船證書ヲ臨檢シ着港上陸者ノ分ハ之ヲ領収シ一時途中上陸者ノ分ハ之ヲ本人ニ還付スヘシ

證書雛形略之

(明治九年三月十八日第三拾一號布告)

内國郵船ニ乗組旅行致シ候者ハ其船長又ハ其所持主ニ於テ航海ノ度毎ニ各人ノ姓名住所并ニ何地迄趣ク旨ヲ詳細ニ登記シ置キ何時ニテモ其筋ヨリ取調候節差支無之様可致此旨布告候事

(明治十一年二月廿日外務省布達第一號)

從來當省ヨリ發行候海外行免狀之儀海外旅券ト改稱別紙規則相定候條此旨布達候事
海外旅券規則略ス

〇生害物品船積法則

(明治六年八月九日第二百九拾二號布告)

危害ヲ生スヘキ物品ヲ漫リニ船積致シ候テハ他ノ物品ヲ傷害シ甚シキハ全船ヲ失ヒ人命ヲ損シ不容易儀ニ付左ノ條件ノ法則ヲ定メ當明治六年十月一日ヨリ令施行候條此旨布告候事

法則

一 火藥硝石硫黃ノ類及ヒ發火シ易キ製藥品其他油脂醬液並腐敗シ易キ性質ニシテ他物ヲ損害スヘキ物品船積致シ候時ハ其品名ヲ表包ノ外部ニ書キ記シ或ハ其送狀ニ記載致シ船主船長又ハ運漕會社危難請合會社等ノ承諾ヲ得テ後差出スヘシ若シ其手數無之尋常ノ荷物ト伴リテ之ヲ船積致シ或ハ船積セント謀ル者ハ金五百圓以内之罰金ニ

處スヘキ事

一 尋常ノ品物トシテ差出シタル荷物ノ内ニ前條ノ如キ危害品可有之ト見受候時ハ船主船長運漕會社危難請合會社ハ何時ヲ限ラズ何地ヲ論セズ直ニ發包シテ之ヲ視查スルノ權利可有之事

但爲視查發包シタル荷物中ニ危害品無之時ハ船主會社等ノ入費ヲ以テ故ノ如ク荷造可致然共其荷物中ニ危害品有之時ハ是等ノ入費都テ荷主ヨリ可拂事

一 此危害品ヲ船積セサル以前運漕會社又ハ危難請合會社ノ倉庫等ニ於テ見出ス時ハ之ヲ安全ノ場所ニ移シ置キ直ニ其管轄廳或ハ裁判所ニ可届出事

但安全ノ場所ニ之ヲ移スノ費用ハ荷主ヨリ辨償可致事

一 此ノ危害品ヲ既ニ船積シタル後ニ見出シ之ヲ安全ノ場所ニ保テ難キハ船中ニ於テ三人以上ノ保証人ヲ立テ之ヲ海中ニ投棄シ着港ノ上直チニ其次第書及ヒ荷主ノ姓名ヲ其地ノ管轄廳或ハ裁判所ニ可届出事

但投棄シタル荷物及ヒ是ヨリ生スル荷主ノ損失ヲ辨償スルニ不及事

一 船長及ヒ運漕會社等荷主ト申合此危害品ヲ尋常ノ荷物トシテ船積シ或ハ船積セント謀ル者ハ金五百圓以内又之ヲ見出ストイヘル官ニ訴ヘ出サルハ金貳百圓以内ノ罰ニ處スヘキ事

〇西洋形日本船各開港場出入規則

(明治八年十一月八日第百六十三號布告)

明治七年十一月十一日第百廿三號布告國內回漕規則來ル十二月一日ヨリ當分停止シ西洋形日本船各開港場出入規則別紙ノ通相定右同月同日ヨリ施行候條此布告事

西洋形日本船各開港場出入規則

第一條 凡ソ西洋形日本船ハ蒸氣風帆ノ別ナク橫濱神戸大坂長崎箱館新潟ノ六港ニ入津スルキハ其投錨時刻ヨリ十二時間ニ第一號書式ノ通其港稅關ヘ届出ヘキ事
但風潮ノ不順等ニ因リ一時無餘義入港シ十二時間ニ出港スルモノハ届書ヲ出スニ及ハス

第二條 貨物ノ積卸ハ其港稅關ノ所許ヲ受タル後ニ非サレハ一切相成ヲサル事

第三條 輸入稅未納ノ外國貨物及貨主外國人ニテ輸出稅未納ノ內國貨物回漕ノ義ハ本年第廿號布告ニ照シ夫々手數致スヘキ事

第四條 出港セントスルキハ必ス二時前迄ニ第二號書式ノ通稅關ニ届出ヘキ事
第五條 九年三月第二十九號布告ニテ改正 出入港ノ届ヲ等閑ニスルモノハ左ノ通科料申付ヘキ事

蒸氣船 三百噸マテ 金五圓
三百噸以上三百噸毎ニ五圓ヲ加フ

風帆船三百噸マテ 金三圓

三百噸以上三百噸毎ニ二圓ヲ加フ
書式零ス

〇外國形日本船輸出入稅未納内外貨物回漕規則

(明治八年二月七日第二拾號布告)

外國形日本船輸出入稅未納内外貨物回漕規則別冊之通相定本年四月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

外國形日本船輸出入稅未納内外貨物回漕規則

第一條 日本郵船會社其他日本船ニテ沿海回漕免許ヲ得タル外國形船舶ニ限リ自今國內各開港場間ニ輸入稅未納ノ外國貨物並ニ貨主外國人ニテ輸出稅未納ノ內國貨物回漕差許候就テハ從來内外交際密賣買ノ儀ハ嚴禁ノ處尙右ニ類スル所業有之候テハ不相濟儀ニ付回漕規則ヲ設クルヲ左ノ如シ

第二條 凡ソ外國形ノ日本船舶ハ都テ出入港手數並ニ諸貨物船積船卸共各開港場ニ於テハ稅關ノ所轄トス

第三條 前條ノ船滞港中ハ稅關ヨリ監吏乘勤スベシ

第四條 前條ノ船貨物ヲ船積シ或ハ船卸スルハ日出ヨリ日沒迄ニ限ルベシ若シ夜中竊

外國形日本船輸出入稅未納内外貨物回漕規則

ニ貨物ヲ積卸スルトキハ其現品ヲ沒收シ且其品價同額ノ罰金ヲ其船長或ハ其會社ニ課スベシ

但日没ヨリ日出迄ハ船中ノ艙口ヲ固封シ置ベシ若シ勝手ニ開封スルトキハ其船長或ハ其會社ニ金六拾山ノ罰金ヲ課スベシ

第五條 甲港ヨリ乙港ニ回漕スル前條ノ船ニ未納稅内外貨物ヲ積入レ乙港ニ輸送セント欲スルトキハ其貨主或ハ其引受人ヨリ差出書各稅關ニ用フルニ貨物ノ品種箇數記號番號元價等詳細相認メ積送ノ儀稅關ニ願出貨物檢査濟ノ上積送免狀ヲ受ケ積入ルベシ若シ此手數ヲ經スシテ積入ル、トキハ其現品ヲ沒收ス故ニ其船長或ハ會社タル

モノハ必ス右免狀ヲ點視シ之ニ照シテ其品ヲ積入ルベシ若シ無免狀ノ貨物ヲ船積セハ事ノ成否ヲ問ハス其會社或ハ其船長ニ其品價同額ノ罰金ヲ課スベシ

第六條 甲港ニ碇泊スル外國船ヨリ都合ニヨリ直ニ貨物ヲ船移シ乙港ニ積送ラント欲スルトキハ其貨主或ハ其引受人ヨリ船移回漕ノ差出書各稅關ニ用フルニ貨物ノ品種箇數記號番號等詳細相認メ船移ノ儀稅關ニ願出右免狀ヲ受ケ船移スヘキ儀ナレハ其船長或ハ會社タルモノハ右免狀ヲ點視シ之ニ照シテ其品ヲ船移スベシ若シ無免狀又ハ免狀外ノ貨物ヲ船移スルトキハ其現品ヲ沒收シ且其品價同額ノ罰金ヲ其船長或ハ其會社ニ課スベシ

第七條 前條ノ船舶ヨリ輸出稅未納內國貨物ヲ外國船ニ積移スルトキハ其船長或ハ其會社ニ其品價同額ノ罰金ヲ課スベシ

第八條 前條ノ船貨物積入レ甲港ヲ出港セント欲スルトキハ其船長或ハ其會社ヨリ第一號ノ如ク積送貨物ノ總目錄ニ一枚ハ甲港稅關ニ置キ一枚ハ乙港稅關ニ送達ス免狀ヲ受ケ出港スベシ若シ此手數ヲ經スシテ出港スルトキハ總目錄ニ記載スベキ品價同額ヲ罰金トシテ其船長或ハ其會社ニ課スベシ

但漏船ハ出港前一時帆船ハ出港前二拾四時ヲ隔テ、此手數ヲナスベシ

第九條 前條ノ船甲港ヨリ乙港ニ通航中風順ニヨリ不開港場ニ入津スルトモ輸入稅未納ノ外國貨物或ハ貨主外國人ニシテ內國品ヲ船卸スベカラス若シ船卸スルトキハ密商スルト否トヲ問ハス其現品ヲ沒收シ且其品價同額及ヒ金一千山ノ罰金ヲ其船長或ハ其會社ニ課スベシ

第十條 前條ノ船乙港ニ入港セハ其稅關ニ第二號書式ノ如ク未納稅内外貨物ノ輸入總目錄一通ヲ差出スヘシ尤此手數ハ入港下碇後休日ヲ除キ四十八時間ニ爲スヘシ此時間ヲ過ルルキハ一日毎ニ金六十圓ノ罰金ヲ課スベシ

第十一條 前條ノ輸入貨物總目錄中若シ誤脫アルヲ覺知セハ休日ヲ除キ二十四時間ニ

更正スルヲ得ヘシ若シ此期限ヲ過キ更正スルキハ金十五圓ノ罰金ヲ課スヘシ

第十二條 前條ノ輸入貨物總目錄ヲ甲港ヨリ已ニ廻達アリシ積送貨物總目錄ニ照會シ過不足アルキハ其事由ヲ分明シ條理判然セサレハ不足ノ貨物ハ甲乙兩港間ニ於テ密商セシ者ト看做シ其品物同價ノ金額并ニ金一千圓ノ罰金ヲ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ若シ貨物過ナルキハ其現品ヲ沒收シ且其品價同額ヲ罰金トシテ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ

第十三條 前條ノ船入港手數ノ上未納稅内外貨物ヲ陸揚スルキハ其貨主或ハ其引受人ヨリ差出書各稅關ニ用フニ貨物ノ品種箇數記號番號元價等詳細相認メ陸揚ノ儀稅關ヘ願出貨物檢査濟ノ上陸揚免狀ヲ受ケ陸揚スヘシ若シ無免狀或ハ免狀外ノ貨物ヲ船卸セハ事ノ成否ヲ問ハス其貨物ヲ沒收ス故ニ其船長或ハ會社タルモノハ右免狀ヲ點視シ之ニ照シテ其品ヲ船卸スヘシ若シ無免狀或ハ免狀外ノ貨物ヲ船卸シ若クハ船卸セント謀ラハ事ノ成否ヲ問ハス其會社或ハ其船長ヘ其品價同額ノ罰金ヲ課スヘシ但外國貨物ハ輸入稅上納ノ上揚陸免狀ヲ受ケ陸揚スヘシ

第十四條 前條ノ船舶便利ニヨリ此規則ニ關係スル貨物ヲ互ニ船移スルキハ稅關ヘ願出免許ヲ受クヘシ若シ無免狀又ハ免狀外ノ貨物ヲ船移スルトキハ其現品ヲ沒收シ且其品價同額ヲ罰金トシテ雙方ノ船長或ハ雙方ノ會社ニ課スヘシ

第十五條 各港稅關ハ祝日祭日及ヒ日曜日ヲ除クノ外毎日午前十時ニ開キ午後四時ニ閉スヘシ故ニ此規則ニ揭示シタル時限ト稅關ノ開閉時限トヲ計リ以テ其期限ヲ愆ルヘカラス

第十六條 此他會社或ハ船長タル者貨主又ハ代人ニ與フルト否トヲ問ハス故ラニ稅金ヲ脫セント謀リ若クハ其他諸般ノ方略ヲ以テ脫稅ヲ謀ル者アレハ金一千圓ヨリ多カラサル罰金ヲ課スヘシ若シ其事過失ニ出テ犯則ニ涉ル者アレハ此規則ニ照シテ罰スヘシ

第十七條 總テ事犯則ニ涉ル者其二犯俱發スル者ハ重キニ就テ處分スヘシ
第十八條 若シ此規則ヲ變更スルヲアレハ一ヶ月前之ヲ布告スヘシ
書式略ス

○北海道諸產物出港稅則並各港船政所規則
(明治十年八月十一日第五十六號布告)

明治八年二月第拾四號布告北海道諸產物出港稅則並各港船政所規則別冊ノ通改正本年九月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

北海道諸產物出港稅則並各港船政所規則
第一條 北海道諸產物(礦屬穀類酒類麻卵)各府縣ヘ輸送ノ節ハ官私用(陸海軍用品)
(紙生糸器具ヲ除ク)

北海道諸產物出港稅則並各港船政所規則

ヲ除クノ別ナシ出港税トシテ其原價百分ノ四ヲ貨主ヨリ下條ニ掲載スル一ノ船改所ニ納ムヘシ

但本文ノ税金ハ船長ニ於テ取纏メ外國船ヲ以輪送ノ節ハ貨主納入ノ手續ヲ爲ス可シ

第二條 船改所有之各港
渡島國龜田郡函館港 同 國津輕郡福山港

同 國檜山郡江差港 膽振國室蘭郡室蘭港

後志國小樽郡小樽港 同 國壽都郡壽都港

釧路國厚岸郡厚岸港

左十一ヶ所ニ於テ毎年五月ヨリ十月迄ノ間船改派出所ヲ置キ船改所同様ノ事務ヲ取扱フヘシ

渡島國福島郡吉岡 同 國上磯郡當別 同 國津輕郡江真町

同 國附志郡熊石 後志國古平郡古平 同 國岩内郡岩内

石狩國石狩郡石狩 北見國増毛郡増毛 日高國浦河郡浦河

根室國根室郡根室 千嶋國振別郡振別

第三條 諸産物ノ原價ハ右各港ニ於テ毎月上中下旬三度賣買相場ヲ蒐集シ之ヲ査定スヘシ

但相場詳ナラサル物品ハ賣買仕切狀ヲ檢査シテ之ヲ定ムヘシ

第四條 諸船舶各府縣下ヨリ北海道へ入船スルキハ船原狀或ハ船税鑑札ヲ添へ第一號書式ノ通其港津船改所或ハ地方役所(又ハ區戸長役場以下全シ)へ速ニ届出ヘシ

但北海道産物ニ類似ノ物品ヲ青森秋田兩縣下等ヨリ廻漕スル分ハ其品名數量ヲ詳記シタル仕出場ノ送狀或ハ賣買仕切狀ヲ添届出ヘシ

第五條 北海道各港津ヲ回漕スル諸船舶ハ出帆ノ節甲港船改所或ハ地方役所へ申出改所役所ニ於テハ第二號書式ニ法リタル檢印帳ヲ付與シテ回漕セシムヘシ其船乙港へ入津セハ乙ノ船改所或ハ役所へ速ニ檢印帳ヲ納メ置キ出帆ノ節乙港ノ檢印ヲ乞フテ携帶スヘシ 丙丁港ノ出入モ亦之ニ準ス

第六條 諸船舶北海道内ヨリ各府縣へ向ケ回漕ノ節ハ第二條ニ掲クル各港ノ内何レカ一港へ入船ノ其船改所へ檢印帳ヲ還納シ第三號甲ノ書式ニ法リタル出港税納目録二通ヲ差出產物積載セサル節ハ第四號甲ノ書式ノ出帆届二通ヲ差出スヘシ改所ニ於テハ審査ノ上產物積載セタルハ定則ノ税金ヲ領收シ第三號乙ノ書式ニ法リ產物積載セサルハ第四號乙ノ書式ニ法リ與書シテ一通ハ留置キ一通ヲ下付シテ出帆差許スヘシ但許可ヲ得タル後都合ニ依リ三日以内ニ出帆セサル船ハ更ニ其旨ヲ届ケ出ツヘシ

第七條 船改所ナキ地方ヨリ產物積取直ニ各府縣へ輸送セント欲スルモノハ其積受ノ地へ航行ノ節第二條ニ掲クル各港ノ内何レカ一港へ入津シ豫メ其積取ルヘキ產物ノ高ヲ計算シ第三號甲ノ書式ニ法リタル出港稅前納目錄ニ通テ差出シ船改所ニ於テハ前納目錄ノ高ニ從ヒ定期ノ稅金ヲ領收シ同號乙ノ書式ニ法リ與書シテ一通ハ留置キ一通ヲ下付シテ直廻差許スヘシ

但本條許可ヲ得テ其地ニ到リ產物積取ノ節ハ其地方役所ニ申立檢査ヲ受クヘシ役所ニ於テハ出港稅前納濟ノ目錄ニ照較シテ之ヲ檢査シ若シ產物不足ノ節ハ其由ヲ詳記セル書面ヲ右目錄ニ添ヘテ船長へ下付シ船長之ヲ翌年七月迄ニ裁キニ納稅ノ船改所へ差出スニ於テハ過納ノ金額下戻スヘシ

第八條 出港稅納濟ノ諸產物都合ニ依リ第二條ニ掲クル各港ノ内へ揚陸スルキハ該港船改所へ願出ヘシ改所ニ於テハ現品密査ノ上稅納濟ノ目錄ヲ引上ケ稅金下戻スヘシ但出港稅ヲ收納シタル港内ニ於テ難破ノ災ニ罹リ稅納濟ノ產物流沒シタル分ハ實際檢査ノ上稅金下戻スヘシ

第九條 各港船改所及役所ハ休日ヲ除クノ外毎日午前九時ヨリ午後四時迄船舶出入ノ事務取扱フヘシ尤諸貨物船積卸ハ日出ヨリ日没迄ヲ限リトス但臨時出入港ノ手數ヲ請ヒ或ハ時限外ニ貨物ヲ積卸セント欲スル者ハ其事由ヲ具

シ船改所或ハ役所へ願出ヘシ

第十條 諸船舶出港稅未納或ハ稅納目錄外ノ產物ヲ竊ニ積載各府縣へ輸送セント謀リ又ハ府縣下ニ於テ陸揚スルモノハ科料トシテ船長ヨリ其物品原價 其發露スル地方賣 拾分ノ二及出港稅ヲ徵收スヘシ 買ノ價格ヲ以テ之

第十一條 各港船改所及役所ニ於テハ每船ノ出入ヲ密査シ若シ此規則ニ循ハサルモノアリテ其踪跡詳ナラサルキハ開拓使ヨリ直ニ其船主ノ本管廳へ通報シ本官廳ニ於テハ出港稅及科料ヲ徵收シ其事由ヲ詳記シタル書面ヲ添へ同使函館支廳へ送付スヘシ但北海道回漕中暴風等ノ難ニ罹リ止ヲ得スシテ直ニ府縣下へ入船スルモノハ本條ノ限ニアラサル故其事由ヲ具シ檢印帳ヲ添へ速ニ其地方廳へ届出ヘシ地方廳ハ事實篤ト取糺ノ上疑ナキニ於テハ其現存スル物品ノ出港稅 原價ハ其入船シタル地方 除キ之 賣買ノ價格ヨリ其運賃ヲ 定ム 徵收シテ本文同様送付スヘシ

第十二條 出入港ノ届及檢印帳ノ納受ヲ等閑ニスルモノ或ハ許可ヲ得スシテ時限外ニ荷物ヲ積卸シスルモノハ左ノ筭則ニ從ヒ船長ヨリ科料ヲ徵收スヘシ

日本形船 五拾石マテ 金拾五錢

五拾壹石以上拾石コトニ壹錢ヲ加フ

外國形蒸船 三拾噸マテ 金五拾錢

三拾壹噸以上拾噸コトニ拾七錢ヲ加フ
同風帆船 三拾噸マテ 金三拾錢

三拾壹噸以上拾噸コトニ拾錢ヲ加フ

第十三條 総テ犯則ノ者ヲ他ヨリ訴出ル時ハ犯人科料ノ半額ヲ賞トシテ與フベシ
別冊書式略ス

(十一年七月四日開拓使甲第六號布達)

當使管内ニ於テ貨物積取ノ日本形商船ハ都テ船稅鑑札ヲ檢査シ鑑札面ニ超過スル荷物
ハ一切積載不相成旨昨十年一月甲第一號^府乙第一號^管内ヲ以及布達置候處詮議ノ次第有之
右制限ノ義ハ自今相廢シ更ニ鑑札面ニ拘ハラズ船腹外面筋板一枚ヲ沈ムルナ則トシ船
材ノ堅硬ト薄弱トニ依リ少差ノ浮沈ヲ斟酌シテ其能力ヲ密査シ航海適當ノ船脚ヲ以テ
貨物積載差許候方法ニ相改メ積取場ノ船改所或ハ地方役所又ハ區戶長役場ニ於テ查定
致候ニ付右船脚ニ超過スル荷物ハ一切積載不相成尤積取場ニ於テ其筋ノ檢査ヲ經ス密
ニ積載候モノハ都テ其超過ノ荷物ヲ沒收候條此旨布達候事
(十一年七月八日開拓使甲第七號布達)

昨明治十年第五拾六號御布告北海道諸產物出港稅則並各港船改所規則第四條第五條第
六條ニ據リ廻漕ノ諸船舶北海道各港津ニ於テ貨物積卸檢査ノ手續左ノ通相定候條此旨

布達候事

第一條

諸船舶北海道各港津ニ於テ諸貨物積卸ノ節ハ其積卸前貨物ノ總目錄^{積荷目錄}
兼用ス^{ハ之ヲ}船長ヨリ其港船改所或ハ地方役所^{又ハ區戶長役}場^{以下同シ}ニ差出シ改所役所ハ右目錄
ニ照シ波止場ニ於テ其品目數量ヲ檢査スヘシ尤船舶輻湊ノ節ハ解船毎ニ切符ヲ附與
シ本船ノ積卸ヲモ監視スルコトアルヘシ

第二條

各港津ニ於テ定メタル波止場ノ外ニ於テ諸貨物ヲ積卸シ或ハ船移シスヘカラ
ス尤已テ得サル事故アルトキハ其事由ヲ具シ其港船改所或ハ地方役所ヘ願出ヘシ
但北海道諸產物ニ限リ日没ヨリ日出マデノ間ハ積卸及船移シスルヲ許サズ

第三條

北海道内廻漕ノ船舶第一條ノ手續ニ隨ヒ各港津ニ於テ檢査濟ノ北海道諸產物
ヲ積卸セシトキハ其港船改所或ハ地方役所ニ於テ出港稅則第五條ニ據テ付與スル檢
印帳ヘ其品目數量ヲ加書スベシ尤其船府縣ヘ廻漕ノ節ハ右檢印帳ニ據リ出港稅則第
六條ノ手續ヲナスヘシ

但出港稅収納ノ際船改所ニ於テ檢印帳ヲ檢査シ本船ニ積載セタル產物ノ數量ト差
違ノ疑ヒアルモノハ其現品ヲ揚陸セシメテ之ヲ檢査スヘシ

第四條 各港津ニ於テ定メタル波止場ト雖トモ惣目錄及檢印帳ニ記載セサル貨物ヲ積
卸スルモノ或ハ許可ヲ得ヌシテ波止場外ノ海岸ニ於テ積卸シ及船移シスルモノ等北

海道諸産物ハ出港税則第拾條其他ノ物品ハ同第拾貳條ニ掲載セリ科料ヲ徴収スヘ

○内國船難破及漂流物取扱規則

(明治八年四月二十四日第六十六號布告)

内國船難破及漂流物取扱規則別冊之通相定候條本年六月一日ヨリ施行可致此旨布告候事

但本年同日ヨリ浦高札ハ廢シ候事

内國船難破及漂流物取扱規則

- 第一條 諸通船海上又ハ川筋ニ於テ難破沈没其他ノ災厄ニ逢ヒ候節救助心得方及ヒ之ニ属スル諸費用ノ立方ハ總テ左ノ箇條ニ從テ取扱フヘシ
- 第二條 各地浦方ニ於テ難破救助ノ爲メ其管廳ヨリ區戶長其他用掛リ等ノ内ヲ以テ適宜ニ浦役人ヲ申付置クヘシ
- 第三條 諸通船難風ノ爲ニ困難シ又ハ其他災厄ニ罹リ候節ハ最寄ノ者見付次第直ニ浦役人ニ報知シ且ツ浦役人ヨリ指圖無之ニ速カニ助船ヲ出シ救助方精々盡力致ヌ可シ但救助ノ者困難船ニ漕可ヒ候節船長其他重立タル者ヨリ頼談無之内ハ猥リニ船中ノ物品ヲ積移シヌ可カラス
- 第四條 浦役人ハ難船ヲ見附取ハ其報知ヲ得ル時ハ速ニ其乗組人及ヒ船体積荷ヲ救助

- 保安スルノ手立テ盡ス可シ若シ多人數ヲ要スル程ノ大難船ト見受ケ候節ハ板木半鐘等打鳴ラシ人数ヲ召集メ且近隣ノ船持ニ申付助船ヲ出サシムヘシ
- 第五條 少人数ニテ救助シ得ヘキ時ハ勿論前條ノ如ク多人數ヲ要スル程ノ大難船ノ節モ浦役人ニ於テ諸事取締ヲ付ケ成丈ケ失費掛カラザル様厚ク注意致シ救助方行届候ハ、早速人数ヲ退散セシムヘシ
- 第六條 保安シタル船具積荷其他ノ物品ハ最安全ニシテ且便利ノ場所ニ之ヲ置クヘシ尤小屋掛ケテ要シ番人ヲ差置クヘキ程ノ場合ニ於テハ夫々其手數ヲナシ諸事懇切ノ取扱ヲ致スヘシ
- 第七條 難破ニ逢ヒタル船長又ハ乗組ノ者ハ上陸次第直チニ電信郵便其他ノ急報ヲ以テ之ヲ船主又ハ荷主ニ報知ス可シ
- 第八條 難船物ヲ保安スル者ヘハ左ノ割合ヲ以テ保安料ヲ遣ハス可シ
 - 第一 海面ニ漂流スル物品ハ其二十分一
 - 第二 海中ニ沈没スル物品ハ其十分一
 - 第三 川面ニ漂流スル物品ハ其三十分一
 - 第四 川底ニ沈没スル物品ハ其十五分一

但シ其所持主ノ都合ニ因リ代價又ハ現物ニテモ妨ナシ

第九條 浦役人ハ救助ノ爲メ集マリタル人数及ヒ救助ノ爲ニ出シタル小舟現ニ難船品ヲ保安シ及ヒ是レニ就テ尽力シタル証跡顯然タラサルニ於テハ保安料及ヒ其他ノ賃錢等ヲ割渡ス可カラズ

第十條 保安シタル物品又ハ船滓等ノ餘殘物又ハ沙入り水濡レ等ノ爲ニ腐敗スヘキ恐レアルモノハ二名以上ノ浦役人及ヒ船長其他重立乗組ノ者二名以上合議ノ上其所ニ於テ入札拂ニ爲ヌテ得ヘシ

但本條ノ場合ニ於テハ浦役人ニテ成ルヘク丈ケ最寄ヘ廣告シ公ケノ場所ニ於テ入札人其他衆人ノ眼前ニテ之ヲ爲シ且其物品ノ目錄及ヒ買人ノ証書並ニ其附直段ノ第三番迄ヲ取置クヘシ

第十一條 保安物ヲ賣拂ヒタルキハ其代價金高ノ内ヲ以テ左ニ掲載シタル諸費用ヲ其船主荷主ヨリ出サシム可シ

- 第一 保安料
- 第二 救助ノ節働人足賃及ヒ小舟賃
- 第三 保安物ノ爲メニ取設タル小屋掛入費及ヒ番人ノ賃錢
- 第四 乗組ノ者怪我人有之節其療養入費
- 第五 同前ノ者溺死スルキ其搜索入費

第六 同前ノ者溺死ノ節埋葬入費

若シ物品賣拂金高諸費ノ高ヨリ少キキハ其金高限リ出サシメ不足ノ分及ヒ賣拂フヘキモノモ之レナキキハ第十五條ニ照準シテ處置ス可シ

第十二條 左ニ掲載シタル諸入費ハ之ヲ三分シ其二分ハ船主荷主ヨリ出サシメ其一分ハ之ヲ其管内民費トナス可シ

- 第一 難船取扱中浦役人ノ日給
- 第二 浦方ニ於テ難破ノ爲ニ費シタル薪炭蠟燭及ヒ筆紙墨代
- 第三 浦方ヨリ管廳其外等ヘ發シタル電信郵便及ヒ飛脚賃
- 第四 救助人溺死シタル時其搜索入費
- 第五 同前ノ者死傷スル時治療埋葬入費

第十三條 難破ノ節浦方ヨリ乗組人ニ給セシ衣服食物其他ノ必要品代料又ハ歸郷旅費等ヲ貸遣シタル時ハ証書取置キ第十九條ノ通精算書中ニ記載シ退テ本人ヨリ償却セシムヘシ

第十四條 大難船ノ節諸費用割賦ノ儀ハ船体皆破沈沒乗組人ノ死去及積荷ノ大損害場ノ救助方ヲ除クノ外各般ノ處置ハ其管廳ニ申立其筋出張官員ノ差圖ヲ受クヘシ尤モ小難船ノ處置ハ二名以上ノ浦役人及ヒ船長其他重立乗組ノ者二名以上合議ノ上之

ヲ決スルヲ得ヘシ

第十五條 船體積荷ヲ併セテ悉皆沈没ニ至ルノ大難船ハ浦方ニ於テ其救助ノ爲ニ許多ノ雜費相掛リ候トモ船主荷主ヨリ之ヲ取立ルヲ得ス故ニ其差出スヘキ費用ノ分ハ官費ヲ以テ支給スヘキニ付費用明細帳ヲ作り浦役人船長連署押印シテ管廳ヘ差出ス可シ

第十六條 危難ヲ冒シテ乗組人ノ必死ヲ救フ者又ハ救助ノ爲ニ盡力シテ死傷ニ至ル者アルハ必ス管廳ヘ届出可シ其事實ノ輕重ニヨリ相當ノ賞譽或ハ手當金ヲ給ス可シ
第十七條 總テ浦役人及船長合議ノ上處置シタルトキハ其事柄ヲ詳細ニ記シタル証書ニ一通ヲ作り之レニ連署押印シ其一通ヲ船長ヘ渡シ他ノ一通ヲ浦役人ニテ保チ置クヘシ

第十八條 二名以上ノ浦役人合議ノ時ハ其内一名ハ必ズ他村ヨリ出ス可シ

第十九條 難船救助ニ屬スル諸費用ハ二名ノ浦役人及船長其他重立乗組ノ者二名以上立會ノ上第十一條第十二條第十三條第十五條ニ照シテ夫々其費用ノ種類ヲ區別シ成ル可ク速カニ精算書ヲ作り之ニ難破明細書ヲ添テ管廳ニ差出シ其檢査ヲ受ク可シ但精算取調ノ節ハ成丈ケ船主又ハ荷主ノ立會ヲ要ス可シ

第二十條 前條ノ精算書ハ管廳ニ於テ速カニ調査ヲ遂ケ不審ノ廉無之片ハ早速下ケ渡

ス可シ然ル上浦役人ハ第十五條ニ記スル場合ヲ除クノ外船主荷主或ハ船長ヨリ夫々出金致サスヘシ若シ其即時辨金相成難キ分ハ相當ノ日數ヲ猶豫スヘシ

但民費ノ分ハ其管廳ヨリ取立浦役人ヘ下渡ス可シ

第二十一條 洋中ニ於テ難破或ハ打荷等有之趣ヲ以テ浦証文ヲ願出ル時ハ二名以上ノ浦役人立會ノ上船長及ヒ乗組ノ者二名以上ヲ別々ニ取調ヘ其實跡アルカ又ハ航海日記アルモノハ之ニ照シ各々符合スル片ハ浦証文ヲ作り連署調印シテ之ヲ船長ニ付與シ寫チ以テ管廳ニ届出ヘシ

但浦証文中左ノ箇條ヲ載ス可シ

第一 難破ニ逢タル場所其時日及ヒ風波ノ模様

第二 破損ノ箇所

第三 打荷ノ種類箇數並他ノ積荷ノ種類

第四 船號及ヒ免狀ノ番號並船主船長ノ本貫苗字名乗組人數

第五 荷打シタル荷物主ノ苗字名本貫

第六 仕出シ地及ヒ仕向ケ地ノ港名

第七 乗組ノ内死傷有之片ハ其本貫苗字名年齢

第二十二條 軍艦其他ノ官有船困難候節ハ早速助船ヲ出シ精々盡力シテ救助ス可シ且

其難破ノ大小ニ拘ハラズ其旨ヲ直ニ管廳ヘ告知ス可シ

第二十三條 前條ノ救助ニ属スル諸費用ハ船將又ハ其筋ノ士官ヨリ直ニ受取ヘシト雖モ總テ管廳ノ指揮ヲ受クヘシ

但第十一條ニ記載スル保安物ニ就テハ別段相當ノ手當ヲ與フヘシ

第二十四條 貢不及ヒ其他ノ官物ヲ積入候船難破ニ及ヒ候節現場救助ヲ除クノ外總テノ處置ハ管廳ヘ申立ノ上共指揮ヲ受クヘシ

但郵便物ヲ積込候船ハ其最寄郵便役所又ハ取扱所ヘ郵便行臺ヲ至急引渡スヘシ

第二十五條 難船取扱ノ間浦役人ノ日給ハ一日五十錢ヨリ多カラス十錢ヨリ少ナカラサルモノトス

難破ノ節働人足賃及ヒ小舟賃ハ土地ノ異同ト勞役ノ難易ニヨリテ同シカラスト雖モ各管廳ニ於テ適宜見積リ豫シメ其額ヲ定メ置クヘシ

第二十六條 船長及ヒ擔任ノ者怠慢ニヨリ難破沈没其他ノ損害ヲ生スル時ハ右損失ヲ其者ヨリ償却セシムヘシ若シ其災厄人智ノ前知スヘカラス人カノ豫防スヘカラサルニ出ルコト瞭然明証スル時ハ此限ニアラス

第二十七條 浦役人船長其他救助ノ者ト申合セ其保安シタル難船物ヲ沈没ト偽リ竊カニ賣買スルモノハ律ニ照シテ處分スヘシ

第二十八條 凡テ難船ノ節救助ニ托シテ積荷船具其他ノ物品ヲ竊盜或ハ掠奪スル者又ハ其竊盜掠奪ニ與スル者或ハ其本犯ヲ陰匿スル者又ハ竊盜物ト知テ之ヲ賣買スルモノハ律ニ照シテ處分スヘシ

第二十九條 以下漂着ノ部 凡原因ノ知レサル難船漂着物及ヒ乗組人ナキ漂着船見附ル者ハ之ヲ浦役人ニ報知スヘシ浦役人ハ其調書ヲ作り之ヲ其管廳ニ届出ツヘシ

第三十條 乗組人ナキ船ハ其漂着ノ月日船ノ大小破損ノ模様等ヲ精細ニ書記ニ漂着物ハ其品名箇數等精細ニ書記ルシ其漂着近傍人民輻輳ノ地ノ揭示場及ヒ船政所ヘ六十日間張出スヘシ尤モ漂着物ノ代價二十圓以上ト思量シ或ハ二十圓以下タリトモ必要ノ品柄ト思量スルトキハ其管廳ヨリ三府五港ノ管廳及ヒ税關ヘ報告シテ張出ナシ或ハ新聞紙ニ載セテ公告スヘシ

第三十一條 漂着物ノ持主知レタルトキハ左ノ區別ニ循ヒ處置スヘシ

第一 一ケ年以内ハ其見積代價ノ三分ノ一ヲ取揚主ニ與ヘ其現品ハ持主ニ返還スル事

但持主ノ情願ニヨリ現品賣拂ヒ其代金ニテ受取ルコトヲ得ヘシ

第二 一ケ年ヲ過クレハ之レヲ公賣シ其代價ヲ平分シ一半ハ其取揚主ヘ與ヘ一半ハ官ニ收ムル事

但三ヶ年以内ニ其持主知レタル時ハ官ニ収メシ部分ハ下戻スヘシ

第三十二條 乗組人無之漂着船ノ持主知レタル時ハ左ノ區別ニ循ヒ處置スヘシ

第一 一ヶ年以内ハ其見積代價ノ十分ノ一ヲ見附主ニ與ヘ其船ハ持主ニ返還スル事

但書ハ前條第一項ニ同シ

第二 一ヶ年ヲ過シレハ之ヲ公賣シ其代價ノ三分ノ一ヲ見附主ニ與ヘ其餘ノ二分ハ官ニ收ムル事

但書ハ前條第二項ニ同シ

第三十三條 前二條ニ記スル場合ニ於テハ律例待遺失物ノ條ト抵觸スルコトナカルヘシ

第三十四條 凡漂着物ヲ保存シ及ヒ之ヲ公告スル等ノ事ニ付費用アルモノハ第十一條

ニ照シ浦役人ノ奥印シタル證書ヲ以テ代價ノ全部中ヨリ之ヲ償却スヘシ

第三十五條 洋中ニ於テ難破致シ桅樁其他ノ船具ニ取附キ海岸ニ漂着致シ候者有之節

ハ浦役人ヨリ一通り取調ヘ相當ノ保護ヲ加ヘ置直チニ管廳ニ届出其指揮ヲ受クヘシ

尤モ本人歸郷ノ旅費其他ノ手當等貸遺ハシ候節ハ第十三條ノ通り追テ本人償却セシムヘシ

第三十六條 凡漂着物ヲ見附ケタル者之ヲ浦役人ニ報知スルコトナク其物品ヲ私カニ

使用シ又ハ之ヲ賣買スル者ハ第二十八條ニ照シテ處分スヘシ

第三十七條 十年三月十日第二十 九號布告ニテ改正 暴風雨等ニテ流失ノ材木ヲ取揚クル時ハ此規則第二

十九條以下ニ照準シ其代價十分ノ一ニ過キサル取揚料ヲ遺スヘシ

第三十八條 十一年十月十五日第三 十二號布告ニテ増加 前條ノ場合ニ於テ取揚タル材木巨大ニシテ傾置ニ

不便ナルモノハ官之レヲ公賣シ其代價ヲ以テ現物ト看做シ材主ノ有無ニ從ヒ處分ス

ヘシ

〇國立銀行條例

(明治九年八月一日第百六號布告)

明治五年^{十一月} 第三百四十九號布告國立銀行條例ノ儀詮議ノ次第有之別冊之通改正致シ

舊條例ハ自今相廢シ候條新ニ國立銀行創立セントスル者ハ勿論從來舊條例ヲ遵奉シテ

創立シタル者ト雖モ右改定條例ニ準據シ大藏省へ出願ノ上其免許ヲ受ケ候様可致此旨

布告候事

國立銀行條例

國立銀行ハ政府ヨリ發行スル公債証書ヲ抵當トシテ之レヲ大藏省ニ預ケ紙幣寮

ヨリ銀行紙幣ヲ受取り引換ノ準備金ヲ設ケ之ヲ發行シ以テ其業ヲ營ムモノナリ

今之ヲ創立スルニ付大日本政府ニ於テ制定シタル條々左ノ如シ

第一章 銀行創立ノ方法創立證書銀行定款ノ差出方及ヒ開業免狀ノ下附並ニ諸

役員撰任方法等ノ事ヲ明カニス

第一條 此條例ヲ遵奉シ國立銀行ヲ創立セント欲スル者ハ何人ヲ論セス（外國人ヲ除クノ外）五人以上結合シタル人々成規第一條ニ掲クル所ノ手續ヲ以テ其創立願書ヲ大藏省ノ紙幣寮ヘ差出ス可シ紙幣頭之ヲ檢按シ相當ト思慮スルニ於テハ之ヲ大藏卿ニ稟議シテ其銀行創立證書及ヒ銀行定款ノ差出方ヲ命スヘシ

第二條 右紙幣頭ノ命ヲ受ケタル人々ハ各其姓名ヲ創立證書ニ記入シ諸般ノ手續ヲ經テ其創立證書ニ紙幣頭ノ承認許可ヲ受ルニ於テハ此條例ニ規定セル箇條ヲ遵奉シ以テ國立銀行ヲ創立スルヲ得ヘシ而シテ其創立證書ニ掲載スヘキ件々ハ左ノ如シ

- 第一 銀行ノ名號
 - 第二 但此名号ハ紙幣頭ノ承認許可ヲ得テ之ヲ公稱スヘシ
 - 第三 銀行ノ本店及ヒ支店（若シ之アラハ）ヲ置クヘキ場所
 - 第四 銀行ノ資本金額及ヒ株數
 - 第五 銀行營業ノ年限
 - 第六 株主ノ姓名住所屬族職業（若シ之アラハ）及ヒ其引受ケタル株式ノ番號箇數
- 此創立證書ハ此條例ヲ遵奉シ銀行ノ事業ヲ營ナミ株主一同ノ利益ヲ謀ルヲ取極メタル旨

第三條 右創立證書ハ其株主等各記名調印シ之ニ壹錢ノ印紙ヲ貼用シ其管轄地方長官ノ與書鈐印ヲ受タルモノタルヘシ斯ク從事シタル創立證書ハ當人ハ勿論其相續人後見人タル者ニ於テモ右創立證書ノ箇條ヲ確守シ此條例成規ノ旨趣ヲ遵奉スルモノトスヘシ

第四條 右創立證書ノ箇條ヲ更正スルニハ其社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認許可ヲ得ルニ於テハ之ニ從事スルコトヲ得ヘシ但シ其事件ハ則チ資本金ノ増減及ヒ本店轉移或ハ支店開設等ノ如キ是ナリ而シテ右ノ如ク更正シタル箇條ハ最初右創立證書中ニ記載セシ箇條ト同シク確守スヘシ且右ノ箇條ハ其創立證書ノ本紙正寫ノ別ナク之ヲ綴込ミ又ハ添附シ置クヘシ

但シ右ノ外創立證書中ノ箇條ヲ更正スルコトヲ得サルヘシ

第五條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ハ右創立證書ニ必ズ銀行定款ヲ添フヘシ而シテ此定款ハ即チ成規第六條ニ掲クル所ノ雛形ニ準據シ其箇條ヲ悉皆（又ハ若干）記載シ創立證書ト同様株主一同之ニ記名調印シ壹錢ノ印紙ヲ貼用シタルモノタルヘシ

但シ此定款ハ唯紙幣頭ノ承認ヲ得紙幣寮ノ官印ヲ受クルノミニシテ其管轄地方長官ノ與書鈐印ヲ乞フ及ハサルヘシ

第六條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ハ社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於

ヲハ銀行定款中ニ掲ケタル諸款ヲ更正増補シ及ヒ之レヲ廢止スルコトヲ得ヘシ而シテ右ノ如ク更正増補シタル箇條ハ最初右定款中ニ掲載セシ箇條ト全ク確守ス可シ且ツ右ノ箇條ハ其定款ノ本紙正寫ノ別ナク之ヲ綴込ミ又ハ添附シ置クヘシ

第七條 創立証書並ニ銀行定款ハ本紙壹通正寫ニ通都合三通宛ヲ製シ而シテ創立証書ニ其管轄地方長官ノ與書鈐印ヲ受銀行定款ト共ニ之ヲ紙幣頭ニ差出スヘシ

第八條 紙幣頭ハ右創立証書及ヒ銀行定款ヲ領受シ其銀行株主等此條例第三十條ニ規定スル所ノ割合ヲ以テ資本金ノ入金ヲナセヨ否ヤノ實質ヲ検査シ且株主等ノ正不正其他百般ノ事務ヲ觀察シ不都合アルニ非レハ之ヲ大藏卿ニ稟議シ開業免狀ヲ下附スヘシ

但シ創立証書銀行定款共本紙ハ記録寮ニ納メ正寫壹通ハ紙幣寮ノ簿冊ニ綴込ミ壹通ハ紙幣寮ノ官印ヲ鈐シテ開業免狀ト共ニ之ヲ其銀行ニ下附スヘシ

第九條 銀行ハ右ノ開業免狀ヲ得テ始テ一團ノ會社トナリ何々國立銀行ト公稱シ此條例成規ニ規定シタル箇條ヲ履行シテ國立銀行ノ事業ヲ經營スルヲ得ヘシ

第十條 此條例ニ從ヒ紙幣頭ノ記名調印シタル開業免狀創立証書銀行定款ハ何レノ裁判所何レノ官廳ニ於テモ之ヲ正確ナル證據トシテ採用セラルハ得ヘシ

第十一條 創立証書銀行定款ノ寫又ハ版本等(用意分配ノ手續了ルノ後)各株主ヨリノ要需アルニ於テハ銀行ニ於テ定ムル所ノ代價ヲ以テ之ヲ付與スヘシ若シ銀行右付與ノ事ヲ怠慢スルニ於テハ銀行ハ其怠慢時間一日ニ付五圓ニ超ヘサル罰金ヲ納ムヘシ

第十二條 此條例ヲ遵奉シテ創立スル銀行ハ鎖店其他ノ事故アルコアラサレハ開業免狀ヲ受ケシ日ヨリ二十箇年ノ間其營業ヲ取續クコトヲ得ヘシ右期限ヲ過キ尙ホ營業セント欲スルニ於テハ其趣ヲ紙幣頭ニ申請シテ更ニ免許ヲ受クヘシ

第十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役等ハ開業免狀ヲ得ルノ日ヨリ社印ヲ刻シ諸役員ノ印信ト共ニ大藏省ノ紙幣寮國債寮出納寮ノ三寮ニ差出スヘシ而シテ銀行ノ諸出願ヲ始メ訴訟約定保証及ヒ報告往復其他一切ノ文書ニ至ルマテ都テ其社号ヲ用ヒ社印ヲ鈐スヘシ

但報告約定保証等ノ如キ文書ニハ頭取取締役及ヒ支配人ノ名印ヲモ加用スヘシ

第十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ頭取取締役ヲ始メ支配人書記方出納方計算方簿記方其他適宜ノ役員ヲ撰任シ其職制權限進退及ヒ頭取取締役交代ノ手續等諸般ノ規約ヲ取極メ之ヲ銀行定款中ニ掲載スヘシ

第十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役ハ上任ノ節ニ其地方長官ノ面前ニ於テ誓詞ヲ爲シ其事務ヲ施行スルニ忠實公平ヲ以テシ且此條例中ノ要旨ニ決シテ背戻セサル旨ヲ認メ其管轄地方長官ノ與書鈐印ヲ受ケ之ヲ紙幣頭ニ差出スヘシ紙幣頭ハ之ヲ領受シテ寮中ノ簿冊ニ綴込ムヘシ

第二章 銀行資本金ノ制限公債証書銀行紙幣交收ノ割合並ニ其手續及ヒ引換準備金等ノ事ヲ明カニス

第十七條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ノ資本金額ハ拾萬圓ヨリ下ル可カラス尤人口拾萬人以上ノ地ニ於テハ貳拾萬圓未滿ノ資本金ヲ以テ創立スルヲ許サズ

但シ時宜ニヨリ紙幣頭差支ナシト思考シテ大藏卿ヘノ稟議ヲ經ルニ於テハ五萬圓以上拾萬圓未滿ノ資本金ニテハ創立ヲ許ス可アルヘシ

第十八條 十一年三月二日第五号布告ニテ改正 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ヨリ發行スル紙幣ハ資本金十分ノハタルヘシ然レモ大藏卿ハ全國ニ發行スヘキ銀行紙幣ノ總額ヲ制限スル可アルヘシ故ニ新タニ創立ヲ願フ者アルモ其資本金額ヲ削減シ或ハ其創立ヲ許可セザル可アルヘシ尤モ發起人ノ請願ニ依テハ特ニ其發行紙幣ノ割合ヲ削減シテ其創立ヲ許可スル可アルヘシ而シテ各銀行ハ其發行紙幣ノ高ニ應ジ四厘以上利付ノ公債証書ヲ時

價(時相場ヲ斟酌シ大藏省ニ於テ定ムル所ノ價格)ヲ以テ右紙幣ノ抵當トシ之ヲ出納局ニ預クヘシ

但 公債証書ノ時價低下スルモハ其銀行ニ命ジテ更ニ他ノ公債証書ヲ納メシメ其發行紙幣ノ額ニ充ツシムヘシ

第十九條 右公債証書ハ此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル紙幣ノ抵當ナルヲ以テ出納頭ハ其銀行永續中ハ正ニ之ヲ預リ置クヘシ而シテ若シ此公債証書ノ内國債寮ニ於テ施行スル所ノ公債支消ノ抽籤ニ當ル者アレハ銀行ハ他ノ公債証書ヲ納メテ之ヲ引換フヘシ

第二十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其資本金額十分ノニテ通貨ヲ以テ銀行ニ積置キ前條ニ掲クル所ノ公債証書ノ代リトシテ紙幣寮ヨリ受取ル銀行紙幣ノ引換準備ニ充ツヘシ故ニ其銀行紙幣發行ノ際ニ於テハ幣ニ其流通高ノ四分一ノ割合ヲ以テ準備金ヲ現存スルヲ定度トス尤銀行紙幣發行ノ増減ニ隨ヒ其準備通貨モ亦ク便宜之ヲ増減シ之ヲ費用スルヲ得ヘシ

但シ右紙幣ノ引換多クシテ四分一ノ準備コテ引換方差支フル可アルハ別ニ通貨ヲ加ヘテ之ヲ引換ヘ決シテ之ヲ拒ミ又ハ之ヲ怠ルヘカラス

第二十一條 此條例第四十條第四十二條ニ掲クル所ノ手續ヲ以テ資本金額ヲ増減スル

ヲアルコ於テハ前條ニ掲クル所ノ公債証書並ニ銀行紙幣引換ノ準備金モ亦其割合ニ從テ之ヲ増減スヘシ

第二十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ニ於テ資本金集合ノ手續ヲ了リタル後公債証書ヲ納メテ同額ノ銀行紙幣ヲ受取り其引換準備金ヲ積立ルノ割合ハ即チ左ノ如シ
例ヘハ資本金拾萬圓ヲ以テ創立スル銀行ナレハ

八萬圓ハ 四朱以上利付ノ公債証書實價八萬圓ニ當ル高チ出納察ヘ納メ即チ八

萬圓ノ銀行紙幣ヲ紙幣察ヨリ受取ヘシ

貳萬圓ハ 通貨ヲ以テ銀行ニ積置キ銀行紙幣引換ノ準備トナスヘシ

但シ此條例第三十條ニ掲クル所ノ規定ニ從テ資本金ヲ集合スル時ハ其入金毎

ニ右ノ割合ヲ以テ公債証書銀行紙幣交收ノ手續ヲナスヘシ

第二十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取支配人ハ公債証書ヲ出納察ヘ納メ其受取証書ヲ領受シタル後同額ノ銀行紙幣ヲ各種ノ種類ニテ紙幣察ヨリ受取り之ニ頭取支配

人等ノ名印ヲ加用シ以テ銀行營業ノ資本トナスヘシ

第二十四條 右公債証書ノ請取証書ハ紙幣頭出納頭ノ連署調印シタル者タルヘシ尤此

公債証書ノ勘査ニ付テハ該兩察頭互ニ其簿冊ヲ開ラキ須ラク注意ヲ盡シ詳明ニ之ヲ

記入シ又互ニ之ヲ點檢スルヲ得ヘシ

第二十五條 此條例第十八條ニ掲クル所ノ出納頭ニ預ケタル公債証書ハ毎年一度（又

ハ數度）銀行ノ役員出納察ニ至リテ之ヲ點檢シ其銀行ノ元帳ニ照シテ其種類金額等

相違ナキニ於テハ改入ハ改濟ノ旨ヲ書面ニ認メ之ヲ出納頭ヘ差出スヘシ

但シ右改入出納察ヘ出ル時ハ其銀行頭取ノ委任狀ヲ持參スヘシ

第二十六條 右公債証書ハ銀行ノ都合ニヨリ四朱以上利付ノ他ノ公債証書ヲ以テ之カ

引換ヲ申請シ紙幣頭ノ考案ニ於テ差支ナシトセハ其趣ヲ出納頭ヘ通知シ之ヲ交換下

附スヘシ

但シ其引換ヘタル趣並ニ其公債証書ノ種類金額等ハ紙幣出納兩察ノ簿冊ニ詳記ス

ヘシ

第二十七條 右公債証書ヨリ生スル年々ノ利息ハ其銀行之ヲ受取リ毎年銀行ノ利益精

勘定ノ内ニ加ヘテ之ヲ株主一同ヘ分配スヘシ

但銀行ニ於テ其銀行紙幣引換ノコトヲ怠ルカ又ハ此條例ニ背戾スルコトアルハ紙幣頭

ハ其利息ヲ取押フルコトアルヘシ

第三章 株式ノ分割資本金入金ノ割合株式没入株主牒ノ記入株式ノ賣買及ヒ資

本金増減等ノ事ヲ明ニス

第二十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ資本金ハ之ヲ株式ニ分割シ百圓又ハ五十圓又ハ

〇百八十一

二十五圓ヲ以テ一株ト定ムヘシ尤一株百圓ニ分配シタル銀行ノ株式ハ悉皆百圓ノ金高タルヘシ五十圓二十五圓ノ株式モ亦之ニ準スヘシ

但シ十萬圓以上ノ資本金ヲ以テ創立スル銀行ナレハ百圓又ハ五十圓ヲ以テ一株ト定ムヘシ又ハ十萬圓未満五萬圓マテノ資本金ヲ以テ創立スル者ナレハ五十圓又ハ二十五圓ヲ以テ一株ト定ムヘシ

第二十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主タル者ハ各自ノ臨ニ任セ幾株ニテモ之ヲ所持スルヲ得ヘシ而シテ其株主ハ何レノ屬族何レノ職務アルニ拘ハラズ總テ其所持株高相當ノ權利ヲ有シ其銀行營業ニ付テノ損益ハ株高ニ應シテ之ヲ負擔スヘシ但シ大藏省ノ官員其他ノ官員トモ此銀行ノ事務ニ關係アル者ハ株主トナルヲ許サス

第三十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主等ハ開業現狀ヲ得其業ヲ始ムル前ニ於テ少ナクトモ資本金總額十分ノ五ハ必ス之ヲ銀行ニ入金スヘシ而シテ他ノ十分ノ五ハ資本金總額十分一ヲ以テ月賦ト定メ開業現狀ヲ得タル月ノ翌月ヨリ入金スヘシ

第三十一條 右資本金ノ月賦入金毎ニ其銀行ノ頭取支配人ハ成規第十三條ニ準據シ資本金集合高届書ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

第三十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主等株金ノ月賦入金ヲ怠ル時ハ頭取取締役等

ニ於テ其株ヲ没入シ競賣其他ノ手續ヲ以テ三十日以内ニ之ヲ賣拂ヒ而シテ其入用ヲ差引キ尙ホ過金アレハ之ヲ元株主ヘ返還スヘシ尤此競賣ニ於テ右株式ヲ買取りタル株主モ亦他ノ株主同様ノ權利ヲ有スヘシ

第三十三條 右競賣ニ於テ其株ヲ買フ者アラサル時ハ是迄入金シタル金高ハ銀行ニ没入シテ其株ヲ消スヘシ尤此消株ニヨリ資本金額此條例第十七條ニ規定スル所ノ制限ヨリ減少スル片ハ頭取取締役等ハ三十日間ニ之ヲ補ヒ定限ノ高ニ滿タシムヘシ若シ頭取取締役等之ヲ怠ル片ハ紙幣頭ハ其銀行ニ鎖店ヲ申渡シ更ニ跡引受人ヲ命スヘシ

第三十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ株主牒ヲ製シ左ノ要件ヲ記載スヘシ

第一 各株主ノ姓名住所屬族職業(若シ之アラハ)

第二 各株主ノ所持セル株式ノ番號箇數

第三 入社ノ年月日

第四 退社ノ年月日

第三十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ創立証書ニ記名スル者ハ即チ其銀行ノ株主タルカ故ニ前條ニ規定セル株主牒ニ各其姓名ヲ登記スヘシ且其他何人ニテモ(外國人ヲ除クノ外)爾後其銀行ノ株主タラントテ同意シ隨テ其姓名ヲ株主牒ニ登記シタルモノハ又同シク其銀行ノ株主タルノ權利アルヘシ

第三十六條 右株主牒ハ銀行其開業免狀ヲ領受スルノ即日ヨリ之ヲ其本店ニ備置クヘシ而シテ此株主牒ハ營業時間ナレハ何時ニテモ株主等之ヲ檢閲スルヲ得ヘシ若シ銀行其檢閲ヲ拒ミタルハ株主ハ其趣ヲ書面ニ認メ之ヲ其管轄地方官廳ヘ差出シ紙幣頭ヘノ照會ヲ乞フヘシ其照會ヲ得ルニ於テハ紙幣頭ハ直チニ官吏ヲ派遣シ其本店ヲ檢査セシムルヲ得ヘシ

但シ銀行ハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其旨ヲ報知スルニ於テハ壹箇年中日數三十日ニ過キサレハ何時ニテモ右檢閲ヲ停止スルヲ得ヘシ

第三十七條 右株主牒ニ何人カ故ナク姓名ヲ記入セラレ又ハ妄リニ除名セラレ又或ハ退社セシ所以ノ記載ヲ故ナク遷延セラレタル等ノ事アリテ其人ノカ爲メ妨礙ヲ受クルニ於テハ其事由ヲ書面ニ認メ之ヲ其管轄地方官廳ヘ差出シ紙幣頭ヘノ照會ヲ乞フヘシ其照會ヲ得ルニ於テハ紙幣頭ハ直チニ銀行ニ命ジテ之ヲ修正セシムヘシ

第三十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ様式ハ成規第二十七條第三十條ニ規定スル所ノ手續ヲ以テ之ヲ賣買讓與スルヲ得ヘシ

但シ銀行ハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其旨ヲ報知スルニ於テハ一箇年中日數三十日ニ過キサレハ何時ニテモ其株式ノ賣買讓與ヲ停止スルヲ得ヘシ

第三十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主死去スルノ際名代人ヲ以テ株式ヲ賣却讓與

スル等ノ事アルハ假令ヒ此名代人ハ其銀行ノ株主ニ非スト雖モ記名調印等ノ事ニ至リテハ猶ホ株主同様ノ權利ヲ有スヘシ

第四十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ其資本金額ヲ増加スルヲ得ヘシ而シテ右増加スヘキ資本金額ノ制限ハ大藏卿ヘノ稟議ヲ經テ紙幣頭之ヲ定ムヘシ故ニ其資本金額ヲ増加スルニハ紙幣頭ニ申請シ其承認ヲ得テ之ニ從事スヘシ尤全ク入金濟ノ上ハ成規第十四條ニ準據シテ其増加証書ヲ差出スヘシ

第四十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行前條ニ掲ル如ク資本金ヲ増加セシニヨリ公債証書ヲ納メ銀行紙幣ヲ請取ルノ手續ハ現ニ其株主タル者ヨリ増加ノ總額ヲ全ク入金シタル後ニ非レハ之ヲ施行スルヲ許サス

第四十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行若シ其資本金額ヲ減少セントスル時ハ社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ之ニ從事スルヲ得ヘシ尤其減少ノ高ハ此條例第十七條ニ於テ規定スル所ノ員額ヨリ下ルヲ許サス但シ紙幣頭ノ承認ヲ得テ此決議ヲ施行セントスルニ於テハ其施行ノ日限ヨリ少ナク三箇月以前ニ於テ資本金ノ減少員額ト其残り資本金額トヲ記載シタル報告ヲ製シ適宜ノ手續ヲ以テ之ヲ其預リ金アル得意先ヘ送達スヘシ且右減少セントスルノ趣ハ其銀行所在ノ地ニ行ハル、三

種以上ノ新聞紙ヲ以テ三箇月以上毎日之ヲ公告スヘシ

第四十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行若シ前條ノ如ク其資本金額ヲ減少セントスルコ際
シ其銀行ハ貸金預ケ金等アル者ハ未タ其仕拂期日ニ至ラスト雖モ右減少ヲ施行スヘ
キ日限前一箇月ノ間ナレハ何時ニテモ左ノ定則ニ準據シ之カ償却ヲ乞フノ權利アル
ヘシ

第一 凡ソ定期預ケ金アル者ハ其元金並ニ當日迄ノ利息ヲ受取ルノ權利アリトス
第二 其他期限未滿アリトモ凡ソ銀行ヨリ受取ルヘキ勘定アル者ハ時ノ相場ヲ以
テ其仕拂期日迄ノ利息ヲ引去リ殘金高ノミヲ受取ルノ權利アリトス

第四十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ此條例第四十二條四十三條ニ掲ケル所ノ諸般ノ
手續ヲ了ルニ於テハ成規第十五條ニ準據シ其減少證書ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ若シ右
第四十二條四十三條ノ規定ニ背反シ資本金減少ノ報告又ハ公告ヲ怠リ及び期限未滿
ノ勘定仕拂ヲ拒ムコアルキハ紙幣頭ハ右資本金減少證書ニ許可ヲ與ヘサルヘシ

第四章 銀行紙幣ノ製造及ヒ種類其通用ノ能力引換場所及燒拾等ノ事ヲ明カニ
第四十五條 此條例ヲ遵奉シテ發行スル所ノ銀行紙幣ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ紙幣頭其製
造ノ事務ヲ董括シ極メテ其紙質ノ堅牢ト彩紋ノ精緻ヲ要シ深ク隱摸ノ弊ヲ豫防スル

ノ術ヲ盡シテ以テ之ニ從事スヘシ

但シ右銀行紙幣製造ノ入費ハ其銀行ヨリ現費ヲ以テ紙幣寮ヘ納ムヘシ

第四十六條 右銀行紙幣ノ種類ハ壹圓貳圓五圓拾圓貳拾圓五拾圓百圓五百圓ノ八種ト
定メ銀行ノ望ニ應シテ製造下附スヘシ

但シ五圓以下ノ銀行紙幣ハ其銀行發行總額十分ノ五ヨリ多カラサルヘシ

第四十七條 右銀行紙幣ノ表裏面ニハ政府ノ公債證書ヲ抵當トシテ發行スルノ旨趣及
ヒ其他ノ要件ヲ摘載シ大藏卿並ニ出納頭記録頭ノ印ヲ鈐シ且大藏省並ニ銀行ノ記號
番號ヲ押捺シテ紙幣頭之ヲ其銀行ヘ下付スヘシ而シテ銀行ニ於テハ之ニ其頭取支配
人ノ名印ヲ加用スヘシ

第四十八條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル國立銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣ハ諸官
廳又ハ銀行會社其他ヲ論セス日本全國何レノ地ニ於テモ租稅運上賃借ノ取引俸給其
他一切公私ノ取引ニ於テ都テ政府發行ノ貨幣同様通用スヘシ

但シ公債證書ノ利息ト海關稅ニハ之ヲ用ユルヲ許サズ

第四十九條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣ハ其銀行ノ
本店ニ於テ之ヲ引換フヘシ

但シ支店ヲ設置スル銀行ハ其銀行ノ都合ニ依リ本店ノ外支店ニ於テモ亦其引換ニ

從事スルヲ得ヘシ

第五十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣通用ノ際其授受ヲ拒ミ或ハ之ヲ妨ケ其他不正ノ所爲ヲナス者アルニ於テハ習國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第五十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣通用中敗裂汚染等ニテ通用シ難キモノアルニ於テハ其所持人ハ銀行ニ持參シテ之ヲ引換フヘシ而シテ銀行ハ之ヲ紙幣頭ニ差出シ其代リ銀行紙幣ヲ受取ルヘシ○尤右引換銀行紙幣ノ種類記號番號金額等ハ之ヲ紙幣寮ノ公書及ヒ銀行ノ簿冊ニ詳明ニ記入シ其廢紙幣ハ大關卿ヨリノ立會ヲ得テ紙幣頭ハ其主任ノ官員ヲシテ銀行役員ノ立會ヲ要シ之ヲ燒捨ニ付スヘシ而シテ其趣ハ尙ホ右簿冊ニ登記シ各記名調印スヘシ

但シ右燒捨ノ後ハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其趣ヲ世上ニ公告スヘシ

第五章 銀行營業ノ本務公債証書其他ノ賣買並ニ貸附金ノ制限利息ノ制限銀行紙幣並ニ株式抵當ノ制禁及ヒ預リ金準備等ノ事ヲ明カニス

第五十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ金銀ヲ(引受貸ニ抵當貸シノ別ナク)貸附ケ又ハ當坐並ニ定期預リ金ヲ爲シ又ハ爲換ヲ取組ミ又ハ爲換手形約束手形代金取立手形其他ノ証書ヲ割引シ又ハ公債証書外國貨幣並ニ金銀銅ノ地金ヲ賣買シ及ヒ保護預リ又ハ兩替等ノ事ヲ以テ營業ノ本務トナスヘシ

第五十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ本務タルヤ前條ニ掲クル所ノ種類ナルヲ以テ公債証書ノ賣買ヲナスヲ得ルト雖モ貸附金預リ金爲換等ノ如キハ殊ニ銀行ノ主トシテ爲スヘキ營業ノ目的タルニヨリ此等ノ事業ヲ經營セスシテ唯公債証書ノ賣買ヲ專ラニスルヲ許サス

第五十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ前第五十二條ニ掲クル所ノ營業本務ノ外地所家屋其他物件ノ賣買ヲナスヘカラ又職工作業ノ功ヲ興シ及ヒ此等ノ功ヲ興ス會社ノ株主トナルヲ許サス尤左ニ掲載スル所ノ條件ニ付テハ地所又ハ家屋物件等ヲ賣買シ又ハ之ヲ引取り又ハ之ヲ所持スル等ノ事ハ此條例ニ於テ之ヲ宥恕スヘシ但シ銀行所有ノ地所ハ勿論一般ノ地稅法ニ從フヘシ

第一 銀行ノ業ヲ營ムヘキ爲メ緊要ナル地所家屋ハ之ヲ買取リ之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第二 滯貸金ノ抵當トシテ質物ニ取リタル地所物件ハ之ヲ引取り之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第三 貸金返済ノ約定日切トナリテ借主ヨリ返金ノ代リトシテ引渡サレタル地所物件ハ之ヲ引取り之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第四 銀行ヨリ貸金ノ抵當又ハ質物トナリシモノニシテ官廳ノ裁判ヲ經テ賣拂ヒ

トナリタル者カ又ハ之ヲ引取リタルモノ右質入ノ流込ミトナリタルモノ又ハ銀行ヨリノ貸金ヲ返済スル爲メニ賣物ニ出シタル地所物件ハ之ヲ買取リ之ヲ引取リ之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第五十五條 前條ニ掲クル所ノ款項中銀行營業ノ爲メ緊要ナル地所家屋ヲ除クノ外銀行ニ於テ引取リ又ハ買取タル地所物件ハ遲クモ十箇月以内ニ於テ之ヲ賣拂フヘシ
第五十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ貸附クル所ノ金額ノ制限ハ一口ニ付資本金總額ノ十分一ヲ限リトナスヘシ

第五十七條 十一年十月一日第三十一號布告ニテ改正此條例ヲ遵奉スル銀行ノ貸付金利息ハ政府ニ於テ定メタル一般ノ利息制限法ニ準據スヘシ若シ其限ニ超過スルモノアル時ハ大藏卿ハ其銀行ヲ督責シテ之ヲ其制限ノ割合ニ引直サシムヘシ

第五十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其銀行紙幣ヲ抵當又ハ質物トシテ借金ヲナスヘカラス又其銀行ノ株式ヲ抵當ニ取リテ貸付金ヲナスヘカラス又其株主トナリ又ハ其株主トナルヘカラス然レモ貸付金ノ滞リニテ銀行ノ損失トナルコトアルハ止ムヲ得ス其株主引當ニ取リ又ハ買取ルコトヲ得ヘシ尤其株主ハ遲クモ六箇月以内ニ於テ之ヲ賣拂フヘシ

第五十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ諸方ヨリノ預リ金ヲ他ヘ運轉流用スルコトハ須ラ

ク之カ制限ヲ立テ其預リ金總額ノ内少クモ十分ノ二五(即チ四分ノ一)ヲ引殘シ之ヲ返却ノ準備トシテ銀行ノ金庫中ニ積立置クヘシ尤内十分一ノ員額ハ政府ノ公債証書ノ實價ヲ以テ積立ルヲ得ヘシ

但シ此準備金ハ銀行紙幣引換ノ準備金ト混同スヘカラス

第六十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其營業ノ爲メ銀行紙幣ヲ發行スルニハ此條例第二十條ニ規定シタル準備金ノ割合ヲ超過スヘカラス若シ此割合ヲ超過シテ發行スルハ紙幣頭ハ之ヲ督責シテ速カニ其準備金ヲ増加シ規定ノ割合ニ滿タシムヘキ旨ヲ命スヘシ若シ銀行ニ於テ此命ヲ受ケシ日ヨリ三十日ヲ過キテ尙ホ増加スルコトヲ怠ル時ハ紙幣頭ハ其銀行ノ開業免狀ヲ取上ケ跡引受人ヲ命スヘシ

第六十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ニ於テ銀行紙幣ノ引換或ハ預リ金ノ返済又ハ爲換手形約束手形等ノ仕拂ヲナスニ當リ兼テ積置キタル準備金ヲ以テ之ヲ償フコト能ハサルモ其銀行ノ株主等ハ各其所持ノ株數ニ應ジ別ニ出金シテ一時之ヲ償辨スルノ責ニ任スヘシ

但シ此出金ハ全ク一時償辨ノ爲ニシテ其株金ト異ナルヲ以テ其銀行ハ速カニ之ヲ各株主ヘ返辨スヘシ

第六章 銀行名號ノ掲牌社印ノ書體並ニ諸手形ニ於ケル銀行ノ負責所有物ノ明

細帳及ヒ營業時間等ノ事ヲ明カニス

第六十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ讀易キ書體ヲ以テ其名號ヲ掲牌ニ記載シ之ヲ其銀行ノ店前最モ見易キ所ニ掲クヘシ而メ其社印ノ彫刻ヨリ諸報告並ニ諸公告諸証書諸手形諸切手ノ類ニ至ル迄凡ソ其名號ヲ用ル所ノ者ハ亦同ク讀易キ書體ヲ用ユヘシ

第六十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行若シ前條ノ如ク其社號ヲ掲ケサルトキハ銀行ハ其時間一日ニ付五圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納ムヘシ且其頭取取締役及ヒ支配人タルモノ知テ之ヲ爲サシメ或ハ故サラニ之ヲ見逃スコト於テハ是亦右同額ノ罰金ヲ納ムヘシ

若シ又銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員又ハ何人ニテモ前條ノ如ク彫刻セサル社印ヲ用サシメ或ハ人ヲシテ之ヲ用サシメ又ハ前條ノ規定ニ悖リタル社號ヲ以テ報告書ヲ出シ或ハ之ヲ出サシメ又ハ爲換手形約束手形切手証書注文書受取証書受合狀等ニ至ル迄凡ソ其名號ヲ用ユル者前條ノ規定ニ悖リテ記名調印シ又ハ記名調印セシムルハ拾圓ヨリ少ナカラス五拾圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納メシノ且右等爲換手形約束手形切手注文書等ニ記載スル所ノ金額ヲ銀行ヨリ拂渡サハルハ其規定ニ悖リタル役員等ハ自費ヲ以テ右持主ヘ辨償スルノ責ニ任スヘシ

第六十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行其名號ヲ以テ爲換手形約束手形ヲ振出シ又ハ之ヲ引受ケ又或ハ之ニ裏書シタルモノ、如キハ假令ヒ右等ノ取扱ヒ何人ノ手ニ出ルト雖

此此人荷モ其銀行ノ命任ヲ受ケタルモノニ相違ナキニ於テハ一切之ヲ其銀行ノ爲メニ取扱ヒシモノト見做スヘシ

第六十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其所有財産(動産不動産ノ別ナク)ノ種類員數ハ勿論其授受賣買及ヒ質入書入委託其他ニ於ケル一切ノ事件ヲ記載セル簿冊ヲ製シ右等ノ舉アル毎トニ其事由並ニ其種類員數及ヒ質預リ人又ハ受託人等ヲ遺漏ナク記載シ其時々頭取取締役等之ニ檢印シ常ニ其銀行ニ備置キ以テ債主及ヒ株主等ノ檢閱ニ供スヘシ

〇若シ前段ノ記載ナクシテ銀行其所有財産ヲ質入書入シ又ハ之ヲ委託スル等ノ事アルニ當テ其銀行ノ頭取取締役支配人等知テ之ヲ捨置キ又ハ故サラニ之ヲ見逃スニ於テハ右役員ハ五拾圓ヲ踰エサル罰金ヲ納ムヘシ

但シ右所有財産ノ簿冊ハ即チ其事件ノ正確ナル証據トシテ何レノ裁判所何ノ官廳ニ於テモ採用セラ、ヲ得ヘシ

第六十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ營業時間ハ其本店支店共定式(又ハ臨時)休暇日ヲ除クノ外毎日午前第九時ヨリ午後第三時マテタルヘシ尤銀行ノ都合ニヨリ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ其營業時間ヲ變更スルヲ得ヘシ而シテ其趣ハ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上ニ公告スヘシ

但シ爲換並ニ預リ金等ノ仕拂期日若シ定式(又ハ臨時)休暇日ニ當ルモノハ其翌日